

妻隱矢野神山露霜爾爾寶比始散卷惜

新勅撰

謙倉右大臣

鴈鳴てさむき朝氣比露霜よ矢野の神山色つねにけり

阿坂山一名神岡山又朝香山或ハ淺香山ニ作ル 大阿坂村ノ西方ニ綿亘スル諸山ヲ云フ東

ハ内海ニ面シ遙ニ參尾ノ諸山及ビ本州朝熊布引多度山等ヲ眺望シ

辛洲崎三渡川ノ諸勝皆眼中ニ属ス山中雜樹多ク雜ユルニ櫻花ヲ以

テス霜天ノ候殊ニ紅葉ニ名アリ來遊スルモノ少カラズ近傍ニ又

神明水月ノ入井字白月ノ井字月僧玄虎座禪石字地獄谷等ノ勝アリ

萬葉

市原王

時待而落鐘禮能雨令収朝香山之將黃變

景德寺所藏幅

尊眞親王

老か身もむかしの春よかへるかな袖岡山此花を見よきて

布引山 本郡ノ西北ニ在リ伊賀國境ニ属ス山勢錦亘恰モ布練ヲ引ク

ガ如シ尤モ眺望ニ富ム

夫木

鳴長明

嵐吹く雲ははよてのぬきをうすみ村消えさる布引の山

貝石山 榊原村字岡ニ在リ榊川ノ北岸ニ屹立ス往時之ヲ射山ト稱ス頂射山神社ノ舊址アリ

上平垣ニシテ樹木ナク尤モ眺望ニ富ム西南布引經ヶ峯朝熊ノ諸山

ヲ望ミ東内海ニ面ス山中海屋ノ化石ヲ出ス故ニ此名アリ近傍著名

ノ奇峯タリ

波多横山湯都磐村 湯都磐森 八太村ニ在リ往昔大和街道ニ属ス抄ズル

ニ其地或ハ鈴鹿郡關又ハ小野村ニ在リトシ或ハ伊賀名張郡及ビ大和

山邊郡又ハ本郡大仰村八太村ノ地ナリトシ諸説紛々考フ可ラズ今

暫ク本村ヲ以テ之ニ充ツ五鈴遺響三國地誌古屋草紙

万葉

明日香清御原宮御宇天皇代十市皇女參赴於伊勢神宮時見

波多横山巖吹黃刀自作歌

河上乃湯都磐村二草武左受常丹毛冀名常處女養手

續後拾遺

法眼行濟

嵐ふく川上加多てすむ月のゆつこの村も影ろさやけき

夫木

定家

音も聞くゆつのはの森も来て見れと川上かけて雲のしくる

雲出川 本州中ノ大川ヨリ源ヲ本郡八知村川上村ニ發シ諸小川ヲ合

セ郡ノ中央ヲ東流シテ海ニ入ル夏秋ノ際往々洪水ノ憂アリ往古概

子舟梁ヲ設ケ行旅ニ便セシガ今ハ堅牢ノ木橋ヲ架ス

文治六年百首

俊頼

雲津川せき入てまける苗代に秋の空こそか絡て見えけき

夫木

榮雅

雲津川あふなきかりの細橋を竿もなしても見ゆる旅人

御所河原 下多氣村禁中社ノ舊地ト王住谷ノ間ニ在ル河水ノ邊ヲ指

ス往昔此處ニ架橋アリ長慶天皇ト北畠氏ト往來アリシ處ナリ今其

河ノ水面ニ見ユル巖石ニ穴アリ橋柱ヲ建テタル跡ナリト云フ古老口碑

邑里

松簡島 本郡ノ東端松ヶ島村ノ地是ナリ

松の島よて鶯の聲を聞て

北畠國永

まれよたよ梢も見えぬ浦里の軒端をつたふ鶯此聲

雲出里 今ノ島貫本郷長常伊倉津村等ノ地ヲ云フ

堯孝參詣記

明やらぬ雲津比さど比八重霞あよさへ深きとぬの色哉

笠松村

堯孝參詣記

お此つららゆきゝの宿やうさ松比うまよ立寄る旅の諸人

片野村

羽林の母堂ちうき頃を片野といふ所よおとしけるを久し

くおとつとも申侍ら糸を花の頃お尋参りけるう彼名所よ

なそらへたのふを侍る 北畠國永

君うそむ片野比春の花さかり尋さらめや名よめてゝたよ

小原村

小原といふ所を折々通り侍る正月六日多藝よりくささけ

るとて先祖の事共思ひ出て一入なつうしく侍る

北畠國永

岩木こそ七世の昔あるらめと問まをしくを立歸る道

神祠

香良洲神社 矢野村ニ在リ稚日女命ヲ祀リ御歳大神ヲ配祀ス欽明天

皇ノ時之ヲ創建ス寛延中津城主藤堂氏社領ヲ寄附シテ之ヲ崇敬セ

リ祭日七月十五日往時本社ヨリ祭日ニ鳥ヲ齋ケル扇ヲ授與シタル

古例アリ社地海濱松林ノ中ニ在リ頗ル眺望ニ富ム又櫻花ニ名ア

リ春時遊詣スルモノ群ヲナス

敏太神社 美濃田村ニ在リ保食神ヲ祀ル創立詳ナラズ祭日 大祭陰曆二月十五

日十一月三日小祭同一月十四日十四日
二十日八月十四日十五日九月七日

波多神社 八太村ニ在リ宇賀神倉稻魂神天水分神ヲ合祀ス創立年月

詳ナラズ祭日一月十七日六月八日九月八日 共陰曆

白山比咩神社 南出村ニ在リ菊理比賣命ヲ祀ル大寶中僧鎮徳本郡飯
福田村ニ一寺ヲ創建ス或ル日箇ノ中ヨリ白鷺七羽翩々トシテ七處ニ
飛ビ去ル因テ其地ニ白山神社ヲ建立ス世人稱シテ七白山ト稱ス社記
祭日一月廿五日八月廿五日

若宮八幡神社 川上藤川上村ニアリ仁徳天皇ヲ祀ル祭日八月十九日正
平二年國司北畠顯能本村字平倉三ツケ谷ト云ヘル地ニ此社ヲ奉祀セ
シガ天正四年同氏滅亡ノ後荒廢ス元和二年藤堂氏今ノ地ニ遷シ社
殿ヲ造營シ世々之ヲ崇敬ス弘化二年八月藤堂高猷祖先ノ舊地藤堂
村ノ藤樹ヲ分チ境内ニ植ウ土人御手植藤ト稱ス社記古
老口碑

北畠神社 上多氣村ニ在リ北畠親房顯家顯能ノ靈ヲ祀ル寛永中鈴木
孫兵衛ナルモノナリト云フ祖先ノ靈ヲ慰センガ爲メ建立セシト云フ
此地北畠氏館舎ノ在リシ地ニシテ庭園泉石ノ古形今尙存セリ祭日

陰曆八月十三日社記

蘭神社 ヲハラ 柚原村ニ在リ素戔嗚命ヲ祀ル創立詳ナラズ祭日二月十六日
八月十六日共ニ陰曆ニ遠近崇信スルモノ頗ル多シ

禁中宮舊址 下多氣村字上村禁中谷ノ側ニ在リ小丘ニシテ古木繁茂
ス今尙禁中社ト稱スル小祠アリ傳ヘ云フ建武二年北畠顯能多氣城
ヲ築キ居ヲ移スノ後後醍醐天皇ノ御冠三握ノ御劔ト長慶天皇ヲ合
祭シ朝夕親拜セシト

梵刹

青巖寺 小山村ニ在リ眞宗專修寺末ナリ創立年月詳ナラズ元ト紫雲
山慈恩寺ト號シ眞言宗タリ文明七年僧了珍今宗ニ轉ジ寺号ヲ改ム
慶安中紀伊徳川光友祈願所トナシ待遇頗ル厚シ今檀徒三千七百餘
戸アリ寺記

天花寺 テウケン 天花寺村ニ在リ曹洞宗淨眼寺末ナリ天智天皇ノ勅創ニカ、
ル一書ニ孝徳天皇ノ時天平中僧賢憬堂宇ヲ再建ス元和中徳川頼宣ノ
祈願所タリ寺記

眞福院 三多氣村ニ在リ眞言宗大寶院末ナリ昌泰二年僧聖寶ノ創立
ニカ、ル後北畠氏ノ祈願所タリ寺記境内櫻樹多シ北畠氏ノ盛時吉野ヨ
リ移植セシモノナリ

安樂寺 波瀬村ニ在リ曹洞宗楊柳寺末ナリ延喜十九年藤原仲平勅詔
ニヨリ創立ス醍醐天皇ノ勅願所タリ寛文元年僧萬機之ヲ中興ス享

保中徳川宗直境内殺生禁制ノ制狀ヲ下附ス
海禪寺 松崎浦ニ在リ曹洞宗永平寺末ナリ永祿中僧一領創立寺記此地

内海ニ瀕シ烟波縹渺トシテ布帆江上ニ往來シ眺望頗ル佳ナリ境内
五葉松アリ高四間圍六尺許頗ル風致アリ

觀音寺址 甚タ目村字道龜ノ田畔ニ窪地アリテ雜草生茂ス里人之ヲ觀

音ノ舊跡ト稱ス傳ヘ云フ尾張國海東郡甚目村甚目寺ノ本尊ハ往昔
本寺ニ在リシガ洪水ノ時流亡シテ同國ノ海邊ニ漂着シテ今ノ寺ニ

安置セリ其佛像ノ背面ニ伊勢國甚目村觀音寺ト銘スト蓋シ同寺ハ
建久中源頼朝ノ創建ナレバ本村ニ在リシハ其以前ニシテ頗ル舊寺

ナリシモ古書ノ徵スベキナケレバ考フ可ラズ五鈴
班光寺址 八太村字中野ニ在リ今耕地タリ傳ヘ云フ白鳳中僧行基創

立シ八太山大誓院ト稱ス應永中北畠滿雅七堂伽藍ヲ造立シ祈願所
トナス天正六年兵燹ニ罹リ燒失ス後堂宇ヲ再建シ寺号ヲ改ム正徳

三年久居城主藤堂氏今ノ字浦戸ニ堂宇ヲ再建スト明治五年無住ニ
ヨリ廢寺トナル

金國寺址 下多氣村字下之世古ニ在リ今宅地トナリテ小堂一字ヲ存

ス往昔ハ伽藍地ニシテ北畠氏ノ菩提寺メリ永正中寺廢ス五鈴遺誓
 僧眞盛誕生地 大仰村字山口ニ在リ眞盛ハ本村城主小泉藤能ノ男ニシ
 テ紀貫之ノ後裔ナリ積徳智量アリ國司北畠氏舉テ國政ヲ掌ラシム
 將軍義政又之ヲ崇信ス本郡成願寺飯野郡蓮生寺安濃郡西來寺皆其
 創建スル所タリ此レ其當時ノ館址ナリト云フ今産湯井ト稱スル井泉
 アリ津人井田胤信ノ建碑アリ五鈴遺誓

原野

嬉野カレン 權現前須賀小川村等ノ間ニ在リ古昔曠原タリシガ漸次開墾シ
 テ概子田圃タリ垂仁天皇ノ時倭姫命天照大神ヲ奉ジ此地ヲ過ギ阿
 佐加ノ山嶺ニ社ヲ造リ宇禮志ト宣ヒシヨリ遂ニ宇禮志野ト稱スト
 其大神遷幸ノ地ナルヲ以テ又神宮野ノ稱アリ倭姫命世紀 五鈴遺誓
 神祇百首 度會元長

和遅野ワチノ 川口野 大村字和知野ニ在リ井生川口ニ村ニ亘ル往昔此邊悉ク
 原野タリシガ漸次開拓田圃ニ變ズ古歌河口野ノ詠アリ葢シ和遅野
 ナ指スモノナラン

勢國見聞集

讀人不知

河口の野邊の庵よ夜更をいひもか袂えれも得ゆるるゝあ

君野ミノ 八手ヤテ 俣村字君野ニ在リ今田圃宅地タリ傳ヘ云フ往昔聖武天皇潛
 幸ノ時此地ニ獵ス又云フ後世藤原千方ノ敗死スルヤ首ヲ原中ニ懸
 ムト今ニ至テ毎歲十一月村人爲メニ之ヲ祭ル方俗君ノマツリト稱
古昔國誌 古老口碑

家集

北畠國永

君の野の露おもけある小車を折て御幸の路とたよ見ん

濱海

一志浦 本郡ノ東部沿海ノ地ヲ總稱ス

千載

道因法師

伊勢島や一志の浦は海士多もかきぬ袖のぬるゝ物らは

新勅撰

家長朝臣

梓弓一志のうらの春の月あまのたく繩よるもひくなり

三渡濱、三渡川(一名涙川)三渡松 三渡村ニ属ス此地古海水灣入シ渡口三處ニ

分ル潮汐ノ干満ニ由リテ渡口ヲ異ニス故ニ三渡ノ名アリ一ハ崎頭

ニ在リ一ハ松崎浦ニ在リ一ハ市場庄村ニ属ス鴨長明伊勢記後世風潮ニ從

ヒ地形ヲ變ズ今三渡川ニ木橋ヲ架ス里人云フ往古水邊數多ノ松樹

アリ漸次損傷シテ纒ニ回リ丈許ノモノ一株ヲ存セシガ文久中洪水

ノ抜ク所トナルト

新勅撰

前關白

涙川みなを袖よせたり糸て人比浮瀬よくちやはてあん

伊勢の國よて鹽の干たるよ三渡と云ふ濱をすきんとて

夜中よこえて行よ道またくらくて見えさりけをを松原

よとほりて夜を明してよみ侍る 僧増基

夜をこめていそき來つれを松り枝よ枕をしても明しつる哉

坂士佛

渡口無船憩樹陰、漁村煙暗日沈々、寒潮歸去路程近、又有松濤驚客心

星合濱星合浦 星合村ノ海濱ヲ星合濱ト稱シ其水ヲ星合浦ト稱ス後世

退潮ニ從ヒ漸次新田ヲ開拓シ大ヒニ地形ヲ變ズト云フ

夫木

土御門院

伊勢の海契もふりき秋なきと今宵うけ見ん星合の濱

同

祐舉

浮木よる雲の岸邊の影をそと星合の濱もくらかりにけり

雲出崎 今詳ナラズ蓋シ雲出川川口、矢野村海邊ノ地ナラン

夫木

大中臣親守

伊勢島や月のみふねのよきてふる雲出か崎の松のむらたち

園林

香良州^{カラス}松原 矢野村ノ東端海濱ニ在リ白沙渺々トシテ際ナク松樹蔚蔚其間ニ点植シ一帶ノ森林ヲナス林中香良州神社アリ五百枝松、龍燈松、蛭子松等頗ル著名トナス内海ノ布帆、參尾、濃信及ビ本州神路朝熊等ノ諸山皆眸中ニ属ス春夏ノ交遊賞スルモノ殊ニ多シ里人傳ヘ云フ世ニ稱スル所矢野神山ノ地是ナリト

小戸木、桃林 小戸^コ木^キ村字若宮、新開、中島等ヨリ戸木村ノ地ニ亘リ雲出川ノ北邊ニ属ス大約七千五百株^{反別五町歩}寛政中培植スル所タリ花時紅白相連リ瀾望際ナク民屋其中間ニ點在ス遠近來遊スルモノ尤モ多シ久居ノ南方ニ属スルヲ以テ俗呼デ久居桃花ト稱ス風景頗ル佳ナリ

久居の神社より戸木村の桃を見て 佐々木弘綱

夕日^タのけ所を^ミくと思ひし^ハ見^ハか^ルす桃のさ^らりなりけり

新家^ニ桃林 新家^ニ村字西林、久保、落合、高木等ニ連ル東西南三面雲出川ヲ繞ラス花候堤上ノ觀恰モ錦繡ヲ敷クガ如シ概子元文中植ウル所タリ後年培養大約三万七千五百株^{反別貳拾五町}ニ至ル村民之ニ資リテ生業ヲ助ク其毎歲得ル所二千五百圓ニ下ラズト云フ花時來遊スルモノ尤モ多シ小戸木桃花ト並ビ稱セラル

新家村の桃見よ父とゆ記さる時

佐々木信綱

ゆけとくゆけとも桃の林よて桃より外の色ならりけり

谿淵

瀬戸淵

ミナミイヘキ

南家城村字瀬戸廣ニ在リ雲出川ノ流域ニ属ス奇石怪岩處々

ニ突起シ兩崖杜鹃花多シ又鮎魚ヲ産ス古ヨリ勝地ヲ以テ名アリ文人騷客杖ヲ曳ク者多シ舊領主藤堂氏常ニ遊賞ス其地ヲ御殿場ト稱ス寛文四年藤堂高次其臣山中爲綱ニ命ジテ此水ヲ疏セシム爲綱百方力ヲ盡シ其功ヲ奏ス文政中高橋知周郡宰トナリ碑ヲ立テ其事蹟ヲ記ス後洪水ノ爲メ碑石ヲ逸ス今其記文ヲ掲グ

按ズルニ里傳ニ云フ往昔紀朝雄勅ヲ奉ジテ藤原千方ヲ此ニ討チ之ヲ誅ス其首流ニ溯リ本郡八手俣村ノ君ガ野ニ止ル土人祠ヲ立テ之ヲ祀ル近傍ニ眞見坂將軍岩紀友大刀洗水等アリ皆其舊址ナ

リト荒唐ノ説信ズルニ足ラズ

瀬戸淵碑

瀬戸淵在壹志郡家城村其地東乎兩山之間形如蜂腰巨巖重疊壅斷川脈遇雨則水逆行以壞田宅旱則灌溉之用廢號爲勢中第一險吏其土者因循不能治民患之久矣寛文四年甲辰大通公使司農山中爲綱往治之乃發憤奉職上體國家之憂慮下恤生民之患苦親督吏役伐木鑿石以疏其水凡處此地三歲其間雖有應召詣府未嘗過私家疲神費精而後成今所謂保曾利者是也又上流設堰開渠百餘町以注之傍近數千石地並仰灌溉餘澤及隣封紀候之田紀候賜服酬勞其餘所在開田治渠甚多距今百六十年謳歌祠祀民猶戴之當時刻歲月於崖石以記其成功今既漫滅不可得而辨矣余承之當郡歎其勞績之泯沒聊記其事以告後世嗚呼汝百姓無狎今日之安忘往日之

艱上晝茅宵索力播百穀、以報其遺德、是余之所切望也、

慶由淵 下多氣村八手俣川ノ上流、兩岸岩石ノ間一ノ深淵ヲナス、天正四年十一月北畠具教其臣藤方刑部少輔、與山常陸介等ノ爲メニ弒セラル、時刑部ノ父慶田入道田丸城ニ質タリシガ舊主ノ恩ヲ願ミ愛憤シ歸リテ本村ニ到リ此ニ投ジテ死ス故ニ此名アリ或ハ云フ本郡南家城村瀬戸淵ニ投ジテ死スト五鈴遺響 北畠物語茶臼淵 上多氣村字奥新田ニ在リ多氣川ノ水源ニ属ス崖間ニ大石アリ上下相重リ礪臼ノ如ク流水其間ニ激ス故ニ名ツク五鈴遺響里人之チ不動瀧ト稱ス或ハ云フ往昔義成ナルモノアリ茶臼ヲ水中ニ墜ス故ニ此名アリト

洞窟

石窟 森本村字奥廣ニアリ巨巖山腹ニ露出ス長三拾五間幅拾三間中央

洞窟ヲナス長貳間幅三間深貳間餘其下小流アリ筈川ト稱ス水中又巨石アリ長凡ソ三間半舟石ト名ツク

池泉

風早池一名一志池 戸木村字風早ニ在リ周回凡ソ一里餘本州中著名ノ池沼タリ池水流出安濃郡藤方村ニ至リテ相川ト稱ス東流シテ海ニ注グ乃チ安濃一志二郡ノ界トナス

名所拾遺

讀人不知

風早の池の流を尋てそ安濃と一志のさかひとそしる

七栗温泉俗ニ榊原温 榊原村字濱田ニ在リ榊川ノ南岸ニ沿フ貝石山、其川北ニ聳ユ風景頗ル佳ナリ近傍屋舎數戸ヲ構ヘテ浴客ニ便ス此地神鳳抄ニ七栗御園ト稱ス枕草紙ニ湯ハ七栗ノ湯有馬ノ湯、玉造ノ湯ト記ス其名古ヨリ高シ勢國見聞集、昔書國誌

夫木

任忠

一志ある七栗の湯も君り爲戀しやまほと聞えものうし

新勅撰

相摸

つきもせは戀ふ涙をむかするぬこや七栗の出湯あるらん

忘井 二處アリ一ハ宮古村字堀田ニ在リ尋常ノ井ト同クシテ稍淺ク

下部石ヲ以テ疊ミ上部ハ井戸側ヲ置ク一ハ市場庄村字權現角ニ在

リ井底埋没セリ傍ニ建碑アリ天仁元年十月白河帝第五皇女愉子内

親王卜定セラレ齋宮トナル天永元年九月本州ニ群行ノ時一志頓宮

ヨリ供奉官ノ歸京スルヲ慕テ詠歌アリシ處ナリ或ハ云フ往昔某天皇

宣ヒシヨリ此名アリト蓋シ宮古村其舊地ニシテ市場庄村ハ後人ノ

附會ナランカ神朝遺聞、五鈴
遊舞、背書國誌

千載

齋宮甲斐

むかを行みやこの方の戀しきよいさむすひ見ん忘井の水

清水井 川上村字相地垣内坂元川ノ南岸ニアリ巨大ノ平石一隅稍窪

ム處徑四寸許之ヲ清水井ト稱ス早魃ト雖モ涸レズ相傳フ此地始メ

清水村ノ稱アリ其名蓋シ此水ニ起因セルナラン井邊多ク山葵ヲ産

ス

柳井辻分松 久居東鷹跡町ノ藪中ニ在リ徑貳尺八寸深壹間餘水極メ

テ清冷ナリ里人傳ヘ云フ北畠顯能國司タルノ時已ニ此井アリ領主

藤堂高柔及ビ高邁常ニ汲ミテ茶湯ニ供セシト辻分松ハ此ヲ距ル東

北凡ソ二町許ニ在リ一巨松タリ往古奈良街道及ビ里道ノ衢路ニ属

ス因テ此名アリ天正以前ノモノト云フ近傍ニ建碑アリ左參宮道ト

刻ス

樹石

香良洲千歲櫻 矢野村香良洲神社地及ビ字西宮ヨリ馬場垣内ニ至ル
道路ノ兩側ニ在リ中古巨樹數千アリ方俗之レテ櫻道或ハ櫻繩手ト
稱ス後年枯槁スルモノ多シ今、小株稍繁茂シ老櫻諸處ニ散在ス花時
遊賞スルモノ群ヲナス

鈴屋集

本居宣長

名よしおと、神比いかきの櫻花ちるへからすとなやかいさめぬ

里人所傳ノ歌

いとまなき蟹も手わさやおこたらむからすの宮比花の盛り
御嶽山櫻 三多氣村ニ在リ山中兵福院アリ石名原村境ヨリ同寺ニ至
ルノ間凡ソ拾三町許櫻樹兩邊ニ並植ス凡ソ一千五百株老樹巨木殊
ニ多ク暮春ノ候滿枝爛熳トシテ艶美ヲ競ヒ夏時綠陰ノ景亦行人ノ
心目ヲ慰ス傳ヘ云フ往昔北畠氏ノ盛時吉野ノ櫻樹ヲ移植セシモノ

ナリト里人栽培ニ従事シ年々多キヲ加フ藏王堂ノ前ニ碑アリ橘千
陰ノ歌ヲ刻ス伊勢考古錄
勢國見聞集

可利爾陀耳當天散那布例曾美大計奈留加微能賣傳馬須許礼廼
佐久樂藝

御嶽と云ふ所の花ハ未だ見侍らて今年々々と過し侍る

か花の頃なれハ

北畠國永

甲斐あしや思ひやりても山櫻いさ白雲此峯を越添ハ

花を嵐の斜ニ吹られけれハ

木の下ハそゝろゝ寒き氣色哉はらとぬ袖比花のおゝきに

亂櫻ミヤレサクラ 川上村字大サコ野谷ノ兩處北畠氏監所
ヲ置キシ地ニ散植ス地勢高峻ニシ

テ本村南部ヲ通觀シ頗ル勝地トス里人云フ往昔豐臣秀吉東國ヲ巡
視スル時道ヲ初瀬街道ニ取り本村ヲ過グ晚櫻路ヲ挾ミ落花紛々タ

リ從者詠ジテ曰ク夕風も乱れ櫻を吹まきて道もむらさね峯の白雪、
ト秀吉戯レテ曰ク花已ニ峠ヲ過グト是レヨリ此地ヲ過峠ト稱ス後
杉峠ニ轉訛セリ

峠櫻

奥津村字飼坂北畠氏監所ニ在リ阪路ノ両側ニ并植ス此地高峻ニ

シテ西、大和、伊賀ノ諸山ヲ眺望シ風景頗ル良シ傳ヘ云フ北畠氏本州
國司タルノ時尤モ繁茂セシガ後、枯槁シテ其風致ヲ減ズト

絲櫻

榊原村字濱田榊川ノ南岸ニ在リ今、觀音堂ヲ冥ク樹高壹丈八尺

圍五尺餘幹心腐朽シ枝葉下部ニ繁生ス樹下芭蕉反古塚アリ勢國見冊集

家集

北畠國永

春風もちらさぬ程の庭の面も乱て匂ふ糸さくらかな

岩櫻

小原村字岩櫻ニ在リ小原川ノ岸頭ニ属ス開花ノ候水流ニ相映

シ頗ル風致アリ

家集

北畠國永

松こそいつをあき名よしおひぬらめたくひもえやは岩櫻のな

西藏王櫻

太郎生村大洞山西南ノ麓ニ在リ徑路ノ左右ニ數百株ヲ點

植ス近傍ニ藏王山アリ老樹森鬱スリ中ニ藏王堂ヲ冥ク故ニ藏王櫻

ト稱ス往時ヨリ勝地ヲ以テ名アリ

西光寺松

南家城村西光寺境内ニ在リ高拾五間圍壹丈餘枝葉四垂シ

テ雅致アリ稱シテ西光寺松ト云フ樹下僧鎮徳ノ墓アリ

大巖

奥津村字椀田ニ在リ山頂ニ創立ス長五間幅拾間白黒色相半ス

右ヲ白岩ト云ヒ左ヲ黒岩ト云フ將ニ轉覆セントスルモノ、如シ

將軍岩

南家城村字三椎ニ在リ雲出川流域ノ南岸ニ属ス高壹間回三

間水中ヨリ突出ス傳ヘ云フ藤原千方曾テ巖上ニ踞シテ釣ス故ニ名

ツグト

笈掛岩笈掛松 北家城村字丸山ノ山林中ニ在リ高四尺周圍壹丈八尺
古老傳ヘ云フ僧鎮德能登ヨリ白山權現ノ神像ヲ笈ニ納メ負ヒ來リ
此岩上ニ懋ヒシト又此處ニ笈掛松アリシガ今ハ枯槁シテ無シ

行宮址

聖武天皇行宮址一名河口 頓宮址 川口村字大角舊字ニ在リ 一説ニ本村字醫王寺 亦頓宮ノ址トナス
今耕地及ビ山林ニシテ小社ヲ眞ク續日本紀聖武天皇天平十二年十
一月行幸ノ條ニ同乙酉到伊勢國壹志郡河口頓宮謂之關宮也中車駕
停御關宮二十箇日ト記ス即チ是地ナリ

萬葉

冬十月依太宰少貳藤原朝臣廣嗣謀叛發軍幸于伊勢之

國時河口行宮内舍人大伴宿禰家持作歌

カスヅチノヌスベニイカリテヨノアレバイモガタモトシオモホユルカモ
河口之野邊爾廬而夜乃歷者妹之手本師所念鴨

藤方片樋宮址 大阿坂村字櫻谷ニ在リ方壹町許ノ平地ニ老杉三株ア
リ神明杉ト稱ス之レヨリ左右ヲ藤方 倭姫命世紀ニ天照大神自桑名野
代宮遷座阿佐加藤方片樋宮ト記ス即チ是地ナリ

按ズルニ五鈴遺響ニ云フ倭姫命世紀一書ニ天照大神自美濃國廻
到安濃郡藤方片樋宮爾在座云々ト記ス是レ藤方ノ二字アルヨリ
安濃郡藤方村ノ地ニ充テタルノ謬説ナルベシト御巫清直云フ藤
方ノ字ハ後人ノ攪入ナリ年中行事秘抄引用舊記ニ向伊勢國到壹
志郡齋片樋宮トアルヲ証トスベシト

皇大神休憩所址御船石 森本村字筈川巖石屹峙セル中央ニ方五尺許ノ
岩穴アリ里人傳ヘ云フ皇大神宮ノ休憩アリシ處ナリト傍ニ御船石
ト稱スル長八尺幅四尺高五尺許ノ岩アリ形チ船ニ似タリ故ニ名ツ
ク

王住谷^{ヲシメタニ} 下多氣村字上村ニ在リ俗ニユキ姫櫻ト云フ老櫻樹ノ邊ヲ指ス 古老傳ヘ云フ長慶天皇ノ行在所ナリシヲ以テ此名アリト

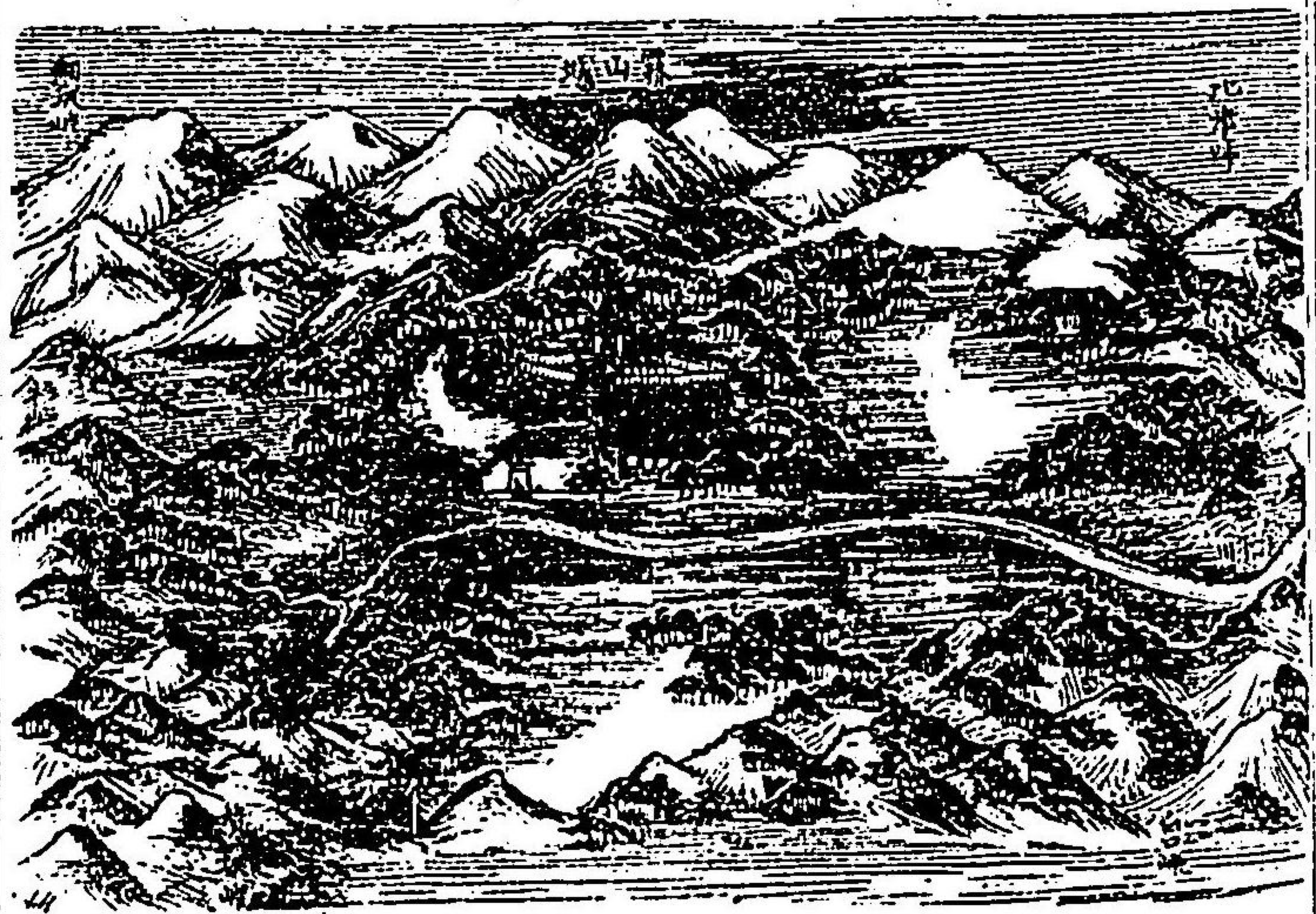
城砦及宅址

多氣城址一ニ多藝城ニ作ル 館址、砦址、關址、監所址 下多氣村ニ二處アリ一ハ字上村

本村ノ西隅上多氣ニ在リ霧山城ト稱ス峯嶺相連リ雜草叢生ス橋臺壘壁ノ址歷々徴ス可シ即チ本城タリ一ハ字六田ニ在リ東御所ト稱ス小丘ニシテ今耕地ニ属ス建武二年北畠親房ノ第三子顯能州守ニ任ジ始メテ府城ヲ此ニ築ク多藝御所ト稱ス南朝ノ藩屏タリ此歲足利尊氏高師秋ヲ州ノ守護トナス顯能屢々之ト戰ヒ又兵ヲ本州及ビ伊賀大和、近江等ニ出ス勢威甚ダ盛ナリ顯能嘗テ歌ヲ詠ズ曰ク、いかよして伊勢の濱萩ふく風此おさまりよきと四方よ知らせん、ト應永二十二年顯能ノ孫滿雅兵ヲ本州ニ舉ゲ以テ足利氏ト戰フ敵兵大敗ス

後、滿雅後龜山帝ノ皇子小倉宮ヲ奉ジ又義兵ヲ舉ゲ土岐ノ兵ト戰ヒ敗死ス其後世足利氏ニ属ス七世具教ニ至リテ永祿ノ初ノ織田信長北勢ヲ侵畧シ將ニ來リテ北畠氏ヲ亡サンニテ圖ル具教因テ大河内城ヲ修理シ之ニ移リ族北畠政成ヲシテ代リテ本城ヲ守ラシム天正四年信長計ヲ以テ具教ヲ三瀬ニ殺サシ

多藝舊墟ノ圖



ム政成亦之ニ死ス遂ニ信意ヲ河内國ニ幽ス北畠氏府城ヲ設ケシヨ
 リ二百四拾有餘年此ニ至リテ亡ブ 北畠氏中世ノ後領邑一志、飯高、多氣、
 度會ノ諸郡ニ跨リ兵數凡ソ二万五
千ヲ有ス又四管領アリ事ヲ掌ル其族ヲ大河内、坂内、田丸、木造、波瀨、岩内、藤方
 等諸氏トナス幕下ノ諸士ト共ニ各郡ノ間ニ居城ス事ハ各城址ノ項ニ見ユ
 ○北畠物語、伊勢國
 司紀畧、五鈴遺響

天ヶ岳砦址 奥津村字サガノ及ビ川上村老野ニ跨ル土壘ノ址ヲ存 杉峠
 ス北畠氏砦ヲ此ニ設ケ替鐘ヲ置キ敵ノ侵撃等ニ備フ

口砦址 川上村字野谷大サコノ間 嶂路越口砦址 丹生保村字木地谷ニ在
 川上村字野谷大サコノ間 嶂路越口砦址 飯高郡赤桶村ニ逆ズ

檜坂峠關址 上多氣村字峠ニ在リ 飯 飼坂峠關址 奥津村字飼坂ノ山嶺ニ
 高郡上仁柿村ニ逆ズ

小茶店アリ 白口峠口監所址 同村字白石ニ在リ 櫻峠口監所址 同野
 村ニ逆ズ

登園ニ在リ 比津峠口監所址 同村字耕作ニ在 漆峠口監所址 下多
 ノ川村ニ逆ズ

八字下世古ニ在リ 八知村ニ逆ズ

北畠氏館址 上多氣村字馬場ニ在リ多氣城址ノ東南ニ属ス今耕宅
 地トナレリ北方ニ北畠神社アリ杉樹鬱茂シ前面ニ池アリ池畔無

數ノ奇石起伏シ櫻樹其間ニ点植ス舊形俱ニ存セリ建武二年北畠
 顯能州司トナリ城ヲ下多氣村ニ築キ居館ヲ此ニ設ケ近傍ニ諸士
 ノ邸宅ヲ配置シ儼然一廓ヲナセリ世呼デ多藝御所ト稱ス永祿中
 大河内城ニ移ルニ及ビテ館廢ス而シテ建物ハ天正中兵燹ニ罹リ
 燒失ス寛永二十年北畠氏ノ裔孫舊址ニ一寺ヲ創立シ眞善院ト稱
 ス祖先以來戰死者ノ靈ヲ祀ル後廢寺トナル 五鈴遺響
 古老口碑 北畠國永嘗
 テ此地ヲ過ギ歌ヲ詠ジテ曰ク

多氣と云ふ所ふる郷と成てよるつ物あわれあるよ花漸
 ちさける頃立越て

めて來ても恨らさけり花の根お鳥はふる巢にかへる心を

阿射加城址 一ニ作ル俗ニ白米城ト稱ス 大阿坂村字樹形ニ在リ今草生地ト

ナリ古松數株ヲ存ス高大約八百八拾尺餘山上平坦ノ地櫓壘ノ址

猶存ス櫛蓋ノ址四方三四里北畠氏ノ臣大宮尾張守之ニ居ル延元中兵
 ナ發シ北郡ヲ攻ム興國元年四月足利尊氏高師秋ヲシテ來リ討タシム
 尾張守之ヲ三渡ニ迎ヘ擊ツ師秋大敗シテ還ル七年是ヨリ先キ長野
 工藤氏北畠氏ニ背ク尾張守自ラ兵ヲ率キ之ヲ擊チ遂ニ工藤氏ヲ亡
 ボス後祝髮シテ道朔ト稱ス時人其兵威ニ服ス應永二十一年國司北
 畠滿雅足利氏ノ盟約ニ背キ南朝ノ王子ニ位ヲ讓ラサルヲ憤リ一族
 及ビ大和伊賀伊勢志摩ノ兵ヲ聚ノ自ラ本城ニ據リ族雅俊ハ木造城
 ナ守リ顯雅ハ大河内城ヲ守リ其他族類ヲシテ多氣坂内田丸等ノ要害
 ニ備フ四月足利氏ノ兵來リ攻ム滿雅能ク拒グ敵水路ヲ絶ツ城兵白
 米ヲ以テ馬ヲ洗フ敵兵之ヲ見テ水アリトナシ遂ニ退ク永祿中大宮
 合忍齋其子大之亟等之ニ居ル十二年八月織田信長木下秀吉ニ命ジ
 テ之ヲ攻メシム拔ク能ハズ會々城中敵ニ通ズルモノアリ城遂ニ陷

ル多藝録五鈴遺響背
 書國誌吉野川記

松島城址一名細頸城
 又細首城

松島村字城腰ニ在リ概子耕地ニシテ丘上一古

松ヲ存ス天正八年北畠信雄度會郡田丸城ノ燒失セルニヨリ移リテ
 本城ニ居ル十年明智光秀ノ亂ニ信雄其臣津川玄蕃頭ヲシテ之ニ居
 守セシメ尾張清須城ニ移ル十二年三月瀧川下總守之ニ代ル津川氏
 ノ殘黨津川謙入等拒ミテ入レズ木造左衛門佐擊チテ之ヲ退ケ瀧川
 氏ヲ入ル會々信雄羽柴秀吉ト隙アリ瀧川木造諸氏信雄ニ屬ス秀吉
 因テ本城ヲ攻ム四月遂ニ降ル秀吉蒲生氏郷ヲシテ之ニ居ラシム十
 六年飯高郡松坂城ヲ修補シテ移リ本城遂ニ廢ス五鈴遺響
 戸木城址 戸木村ニ二處アリ一ハ字桃里ニ在リ雲出川ニ沿フ今八幡
 社ヲ實ク壘址尙存セリ天文二十二年木造具康城ヲ築キ父具政ヲ居
 ヲ天正四年具康之ニ移ル十二年北畠信雄羽柴秀吉ト隙アリ具康信

雄ニ属ス秀吉、織田信包、蒲生氏郷等數氏ヲシテ來リ攻メシム具康之
ト戰ヒ屈セズ十月和成リ美濃岐阜城ニ移ル後、信包ノ所領トナル一
ハ字敏太ニ在リ土壘纒ニ存シ今、稻荷神社ヲ眞ク永祿中戸木城主木
造具康之ヲ築ク天正十二年羽柴秀吉ノ兵ト戰ヒ家所三河守ノ陷ル
所トナル五鈴遺壘
古老口砦

木造城址 コヅクリ 木造村ニ二處アリ一ハ字稻垣ニ在リ今、宅地タリ村人之ヲ
古城址ト稱ス北畠顯能ノ二男顯俊城ヲ築キ之ニ居ル子俊康足利氏
ニ仕ヘ爵位並ビ隆シナリ應永二十一年本宗滿雅兵ヲ舉ゲ足利氏ニ抗
シ先ヅ本城ヲ攻ム會々俊康京師ニ在リ家人等防戰城遂ニ陷ル滿雅
族雅俊ヲシテ之ニ居ラシム後、足利氏本城ヲ復シ再ビ俊康ニ與フ六
代ノ後俊茂ニ至リ城地堅固ナラザルヲ以テ之ヲ字城ニ遷ス今、耕地
草生地トナレリ新城址ト稱スルモノ是ナリ俊茂ノ孫具康天正四年

伊勢國司紀畧、五
鈴遺壘、古老口砦

御嶽城址 ミヅケ 三多氣村字四方奥ニ在リ丘上ノ畑地タリ天正中御嶽左近

進城ヲ築キ之ニ居ル北畠氏ニ属ス四年北畠具教弑セラレシ後固守
シテ降ラズ信雄本田左京進、瀧川三郎左衛門、木造左衛門佐ヲシテ來
リ攻メシム拔ク能ハズ遂ニ和ヲ結ブ後、左近伊賀國ニ退居シ城廢ス
五鈴遺壘
背書國誌

久居城址 久居字西鷹跡町ニ在リ面積貳町餘今、耕宅地山林及ビ神社
地トナル寛文九年津城主藤堂高次徳川氏ニ請フテ封ヲ二子高通ニ
分チ城ヲ築キ之ニ居ラシメ歴代ノ居城トナス明治二年高義版藉ヲ
奉還シ城廢ス七年東部ノ地ヲ開墾シテ民有地トナス傍ニ久居神社
ヲ安ンジ藩祖高通ノ靈ヲ祀ル背書國誌

波瀬城址 ハセ 波瀬館址 波瀬村ニ二處アリ一ハ字井ノ口ノ山上ニ在リ舊

形尙存ス今、熊野神社社地タリ里人云フ木造雅俊之ヲ築キ歷代ノ居城トス雅通ニ至リテ天正五年三月北畠信雄ノ兵ト戦ヒ自殺シテ城廢スト一ハ字野口ノ愛宕山上ヲ云フ舊址僅ニ存シ愛宕社ヲ安ンズ傳ヘ云フ建仁元年平家盛城ヲ築キ之ニ居ル十二世盛朝ニ至リテ滅亡スト其據ル所ヲ詳ニセズ波瀬館址ハ字室ノ口ニ在リ今、宅地トナリ僅ニ舊形ヲ存ス永祿中北畠氏ノ族具祐之ニ居ル因テ氏トス州人呼デ波瀬御所ト稱ス五鈴 遺標

神原城址 神原村字赤部谷ニ在リ高拾五丈廣三百坪餘柴草叢生ス古井濠址等存セリ仁木義長十一代ノ後裔神原清長ノ子氏經城ヲ築キ之ニ居リ北畠氏ニ屬ス其男刑部少輔、子三左衛門尉相繼デ居ル天正四年北畠氏亡ビシ後三左衛門尉織田信長ニ屬ス十二年更ニ長野信包ニ屬シ奄藝郡中山村ニ移住シ城廢ス

按ズルニ清長ノ二子ヲ長政ト云フ其子康政實ニ徳川氏四天王ノ一タリ今、藩鑑譜諸家系圖ニ據ルニ一志郡神原ノ住人七郎右衛門清長三河ニ移ル康政ハ天文十七年同地ニ生ルト記ス然レモ北畠國永家集ニ長政永祿八年沒ス云々ト載ス又遺響ニ長政ノ弟ヲ左京進トス其子八左衛門アリ左京ハ富田氏ニ仕ヘ八左ハ藤堂氏ニ仕フト記ス由テ考フルニ清長ノ三河ニ移ル年月疑ナキニ非ズ或ハ康政ノ如キ本州ニ生レシニハ非ルカ暫ク此ニ附記ス

天花寺城址 アシヤシ 天花寺村字堀田ノ山上ニ在リ松樹茂生シ壁濠ノ址ヲ存ス里人傳ヘ云フ往昔齒大納言城ヲ築キ之ニ居ル源實朝ノ時久我三郎居城ス背書國誌ニ文治中久氣二郎領ト記ス永享中修理大夫ナルモノ之ニ居ル本州ノ守護船木光俊ヲ攻ノ利アラズシテ自殺ス其子主計助北畠政具ニ仕ヘ嘉吉元年本郡曾原ノ城主トナリ姓ヲ天花寺ト稱ス後、天花寺廣高

ナルモノ本村ニ居城ス天正中城廢スト

按ズルニ多藝錄ニ云フ正平中天花寺藏人之ニ居ル建徳元年伊賀
目代春日部高宗ニ從ヒ近江ヲ伐チテ功アリ本郡曾原城主トナル
後永祿中小次郎アリ本田親康ニ與ミシ織田信長ノ兵ヲ拒グ城守
三年ニ及ビテ服セズ元龜二年夏茶筌丸親ヲ軍ヲ將ヒ來リ攻ム小
次郎戰死シテ城廢スト或ハ云フ天花寺越中守其子親左衛門之ニ
居ルト諸説紛々考フベカラズ暫ク此ニ附記ス

南出城址 南出村字福祉ニ在リ今耕宅地タリ往昔北畠氏ノ臣吉懸氏歷
代之ニ居ル世之ヲ小倭黨ト稱ス天正十二年八月三太夫ナルモノニ
至リテ蒲生氏郷來リ攻メ其臣八角彈正忠ノ爲メニ殺サル子市之亟圍
ヲ衝キテ遁走ス五鈴遺響 古老口碑

八對野城址 八對野村字城出ニ在リ今山林トナリ壘址存ス里人云フ

往昔市川喜兵衛ナルモノ之ニ居ルト

庄田城址 庄田村字上出ニ在リ今畑トナル元久元年四月庄田佐房其
子師持之ニ據リ富田基度岡貞重等ト平氏ノ餘類ヲ糾合シ本州ヲ亂
ダス京都守護平賀朝雅ノ爲メニ滅サル五鈴遺響

星合城址 星合村ニ在リ所在詳ナラズ往昔北畠氏ノ族星合頼房之
ニ居ル後三世具泰ニ至リ元龜三年十一月大河内城一ニ坂内ニ移ル

五鈴遺響

川口城址 川口村字醫王寺舊字醫王寺境内ニ属ス五鈴遺響ニ云フ往
昔鹿々瓜玄蕃之ニ居リ北畠氏ニ属スト

按ズルニ勢國見聞集ニ曰ク平城天皇御后ノ進メヨリ平安城ノ
都ヲ奈良ニ移シ重祚ヲ進メ給フコト露顯シ勢州河口ニ退キ籠城
シ給フトイヘル友軍ヲ以テ迎ヘ奉リ再ビ御歸路ナシ奉ル因テ其

處ヲ御城ト云フト蓋シ此事ハ日本後紀、類集國史等載スル所大同四年藤原藥子ノ乱ヲ附會セシナラン又本村字小屋ノ小丘上平坦ノ處アリ是ヲ川口城ニ充ツルノ説アリ併セテ參考トス古老口碑

家城城址一名頭ヶ谷城址 南家城村字上廣ニ在リ今、松林トナリ濠址尙存ス往昔北畠氏ノ臣家城主人正日本外史補主人之ニ居ル天文中鷺山ノ役功アリ北畠氏滅亡ノ時大郎次郎年甫ノテ二歳其傳某之ヲ懷ニシ遂ニ舊領伊佐和村ニ蟄居シ子孫商ニ歸ス五鈴遺傳、多藝錄、竹川竹齋竹記

眞見城址一ニ大山、福田山氏宅址城ト稱ス 眞見村字遠ヶ瀬ニ在リ今、草山タリ濠址ヲ存ス天正中福田山帶刀之ニ居ル小倭黨岡村修理允ガ外戚タリ五鈴遺傳又字殿屋敷ト稱スル地アリ蓋シ其宅址ナラン今、耕地トナレリ

森本城址 森本村字向山ニ在リ寛政中神宮寺ヲ此ニ遷ス今概子開拓シテ舊址ヲ存セズ往昔木造氏ノ族森本俊氏城ヲ築キ歷世之ニ居ル

具俊ニ至リテ天正十二年四月木造氏ノ兵本郡松島城ヲ攻ムルト聞キ往キテ之ヲ援フ遂ニ戰死ス或ハ云フ永祿十二年六月阿坂ニ戰死ス多藝錄

瀧野川城址 瀧野川村字小甚吾ノ山上ニ在リ回字形ノ石壘ヲ存ス里人云フ明光院殿ノ居城ナリシト事蹟詳ナラズ

森城址 森村字森垣内ニ在リ今、耕宅地タリ永祿天正ノ際堀金左衛門尉之ニ居ル寶永五年七月僧良仙此ニ一寺ヲ創立シ長樂寺ト號ス明治六年三月寺廢ス五鈴遺傳、古老口碑

佐田城址一名奥口佐田城址 佐田村ニ二處アリ一ハ字味増谷ノ山上ニ在リ今、耕地山林トナレリ北畠氏ノ臣堀山次郎左衛門尉之ニ居ル天正四年北畠具教叛臣ニ弑セラル其族具親舊臣ヲ糾合シテ恢復ヲ圖ル次郎左衛門尉等之ニ應ズ十三年蒲生氏郷來リ攻ム援ク能ハズ具

親時ニ伊賀ニ在リ安保大藏少輔ヲ遣リ和ヲ講シ城ヲ開キテ退ク一
ハ字馬場ニ在リ口佐田城ト稱ス今耕地タリ小倭黨盛長越前守之ニ
居ル天正中堀山氏ト同ク具親ニ属ス十三年蒲生氏郷ト戦ヒ敗死ス

五鈴 遺跡

大仰城址 オホウキ 大仰村字城谷ノ山上ニ在リ傳ヘ云フ應永中小泉藤能之ヲ
築キ北畠氏ニ属ス永祿中之ヲ毀ツト此地尤モ眺望ニ富ム麓ニ産湯
山誕生寺アリ遠近男女遊樂ノ處トナス

八太城址 ハタ 八太村字西出山ノ山上ニ在リ周回七八拾間許ノ草生地タ
リ永祿中田上讚岐守其子右近之ニ居ル北畠氏ニ属ス天正四年北畠
氏亡ビテ羽柴秀吉ニ從フ其子兵衛尉文祿元年朝鮮ノ役戦死シテ家
滅ス後天正中北畠信雄、日置大膳亮ヲシテ之ニ居ラシム十二年秀
吉命ジテ蒲生氏郷ノ與力生駒彌五左衛門ニ之ヲ守ラシム後城廢ス

五鈴 遺跡

藤原千方城址 フナウラ 城立村字堀ノ山上ニ在リ百五拾坪許ノ平地ニシテ雜
木繁茂ス石窟アリ俗ニ將軍宮ト稱ス千方ノ事太平記ニ載ス曰ク天
智天皇ノ時藤原ノ千方金鬼、風鬼、水鬼、隱形鬼ヲ驅使シ伊賀、伊勢ヲ押
領シ爲メニ王化ニ從フモノナシ因テ紀朝雄宣旨ヲ奉ジテ下リ討ツ
朝雄一首ノ歌ヲ詠ジ鬼ニ與ヘテ曰ク草モ木モワカ大君ノ國ナレハ
イツクカ鬼ノスミカナルベキト鬼之ヲ見テ遁レ去リ千方遂ニ殺サル
ト又伊賀記 北畠親房卿著トニ云フ藤原千方正二位ヲ望ミ之ヲ得ズ遂
ニ叛ス紀朝雄勅ヲ奉ジテ之レヲ擊ツ千方大ニ敗レ自縊ノ死ス伊勢
田和郷ニ遺址アリト

按ズルニ藤原姓ハ天智天皇八年始メテ鎌足ニ賜フ所ニシテ大系
圖千方ノ名ナシ又此事正史實錄一モ見ル所ナシニ書ノ謬傳信ズ

ルニ足ラズ聊茲ニ附記ス

小山城址 小山村字ニ谷ノ山上ニ在リ周圍ノ土壘ヲ存ス里人云フ
往昔大多和兵部少輔之ニ居ル永祿十二年八月織田信長ノ兵ト戦ヒ
域陥リ遂ニ廢スト

蘇原城址 曾原村字屋敷ニ在リ今耕宅地タリ相傳フ往昔天花寺越中
守其子新左衛門ノ居城ナリ永祿中廢スト 遺跡

八田城址 ハッタ八田村字城山ニ在リ古井壘濠ノ址ヲ存ス今耕地山林タリ
往昔三浦義明二代ノ孫盛時始メテ城ヲ築キ之ニ居リ後大多和氏ト
改ム盛成ノ時ニ及ビテ正平中州守北畠顯能ニ属ス永祿十二年八月
織田信長來リ攻ム城主監物 五鈴遺跡ニ永祿中兵部少輔ア能ク拒グ竟
ニ拔ク能ハズシテ去ル天正四年北畠氏亡ブルニ及ビテ城ヲ出デ本
郡下之庄村ニ蟄居シテ卒ス其墳墓同村ニ在リ 多藝録下之庄
村舊記碑記

宮野城址 宮野村字古田ニ在リ高七百五拾尺廣四百五拾坪石壘尙存
ス山麓ニ川アリ頗ル險阻トナス里人云フ往昔北畠氏城ヲ築キ臣某
ヲシテ之ニ居ラシムト

川方城址 川方村字里内ニ在リ今耕地タリ里人云フ永祿十一年八月
木造具政三子川方隼人佐 系圖之ヲ城ヲ築キ之ニ居ル天正十二年十
月尾張國ニ退去シ城廢スト

小森上野城址 小森上野村字城山ニ在リ今山林タリ相傳フ北畠氏ノ
臣奥山左馬允之ニ居ルト天文ノ末長野藤定ノ兵ト戦ヒ敗死ス後藤方
刑部少輔之ニ居ル天正四年北畠氏ニ叛キ具教父子ヲ弑ス織田信長
其不義ヲ怒リ封ヲ奪フテ之ヲ逐ヒ城廢ス

堀内城址 堀之内村字御所垣内ニ在リ今耕宅地タリ傳ヘ云フ正平十
八年北畠顯能城ヲ此ニ築キ舟木正尙ヲシテ之ニ居ラシム父頼尙之ヲ

監ス是ヨリ先キ頼尙來リテ顯能ニ依ル顯能之ヲ三瀬谷ニ實ク是ニ至リテ本城ニ移ル舟木州人呼デ堀内御所ト稱ス永享中藺御所ト改ム正尙ノ子正頼ト曰フ應永廿一年雲出川ノ戰功アリ北畠滿雅爲メニ小倭谷ノ地ヲ與フ永祿中織田信長ノ兵攻メテ之ヲ陷ル

小森城址 小森村字里上ニ在リ今山林ヨリ周圍土壘ヲ存ス里人傳ヘ云フ土肥長光之ニ居ルト

小原城址 近衛氏宅址 小原村字平野ノ山上ニ在リ今雜木茂生ス相傳フ北畠氏ノ族北畠房雄之ニ居ル小原北畠氏ト稱ス後數世之ヲ承ク或ハ云フ北畠氏ノ臣近衛冷泉之ニ居ルト又本村字馬場ニ近衛氏宅址ト稱スル處アリ今畑地タリ相傳フ天正中冷泉城ヲ本村ニ築キシ時錦ヲ此ニ設クト

中森城址 太郎生村字城山ノ山上ニ在リ樹木繁茂シ壘形ヲ存ス中央

ニ小社二字ヲ安ンズ古老傳ヘ云フ往昔北畠氏ノ臣中森數馬之助之ニ居リシト

島田城址 島田村ニ在リ今詳ナラズ長野ノ與力川北内匠助之ニ居ル五鈴今隣村釜生田村字城山ニ回字形ヲナセル壘址アリ此地ト山脈ヲ通ズ蓋シ是ナランカ

矢野城址 矢野村字地家垣内ニ在リ今耕宅地タリ矢野下野守歴代之ニ居ル北畠氏ニ属ス源平盛衰記北畠家臣録東鑑太平記

川上城址 川上村字廣垣内ニ在リ雲出川坂元川會合ノ地ニシテ三面川ニ臨ム今耕地タリ相傳フ北畠氏ノ臣日置某之ニ居ル天正十九年三月日置宮内少輔死スルニ及ビテ城廢スト

上城址 上村字林ニ在リ今小丘ニシテ濠壁ノ址存シ稻荷神社ヲ祀ル往昔北畠具教ノ臣新長門守之ニ居ル本村舊記

高城砦址 大阿坂村字高城ニ在リ周回凡ソ百間餘地高クシテ古松生茂ス里人云フ往昔阿射加城主大宮舍忍齋砦ヲ此ニ設クト

垣内砦址 カイト 垣内村ノ西方阿保山ノ頂上ニ在リ今草生地タリ周圍凡ソ武百間土壘ノ址存ス傳ヘ云フ元龜天正ノ頃北畠氏伊賀ノ仁木氏等ガ亂入ヲ防ガンガ爲ノ砦ヲ此ニ設クト

山田野砦址 山田野村字山口ニ在リ山上三百坪許ノ平地ナリ周圍回字形ノ壘址ヲ存シ雜木叢生ス天正十二年長野左京進之ニ居ル小倭黨岡村修理允ト常ニ不和ナリシガ一日安濃郡津ニ到ラントシ半田山ニ相遇フ修理已レガ馬ノ鐙ヲ支ヘシトテ刀ヲ拔キテ左京ヲ撃ツ從者鎗ヲ取り修理ヲ刺殺ス左京モ又民家ニ入り自殺ス 五鈴 遺體

稻垣砦址 稻垣村字中山ニ在リ山上貳百四拾坪餘天正中岡村修理亮其子修理允之ニ居ル修理允長野左京進ト爭ヒ其從士ノ爲メニ半田

山ニ殺サレ城廢ス 五鈴 遺體

大塚宅址 田中宅址 戸木村字大塚ニ在リ今一小丘タリ往昔木造氏ノ臣大塚俱清之ニ居ル天正十二年九月戸木城ノ戰ニ本郡庄村ニ戰死ス田中宅址ハ字桃里ニ在リ今尙宅地タリ傳ヘ云フ永祿中木造具康ノ臣田中仁左衛門之ニ居ル天正十二年具康羽柴秀吉ト戰ヒ和睦シテ岐阜城ニ移ル時之ニ從ヒ後木造村ニ來リ死ス 本村 舊記

今井及安藤兩氏宅址 太郎生村ニ在リ一ハ字藏王平ニ在リ小丘ニシテ雜草ヲ生ス往昔北畠氏ノ臣今井助之亟之ニ居ル一ハ字日神ノ丘上ニアリ樹木茂生ス北畠氏ノ臣安藤帶刀之ニ居ル一ハ字的場ノ山上ニ在リ樹木繁茂シ中央ニ八幡社ヲ祀ル稱シテ太郎生殿ト云フ北畠氏ノ臣安藤左近將監之ニ居ル 古老 口碑

沼田宅址 大阿坂村ノ西方ニ在リ今山林トナリテ纔ニ遺形ヲ存ス里

人云フ往昔北畠氏ノ臣沼田伊豫守之ニ居ル永祿十二年阿坂城ニ戰死スト同村字廣見ニ伊豫守ノ墳墓アリ

關址

河口關址又名久岐田ノ關

川口村字醫王寺ニ與五郎坂ト稱スル地アリ今里道ニ

屬ス蓋シ此邊ナラン傳ヘ云フ和銅三年始メテ此關ヲ置ク大和ノ帝都ヨリ伊勢行幸或ハ齋宮群行ノ舊途ナリト五鈴遺響、伊勢名所拾遺集

新後撰

後嵯峨院

くも夏な秋月もれとてや川口此關のあら垣間こそ成らん

新千載

讀人不知

川口此關のあら垣いらなれり夜乃かよひをゆるぎさるらん

源氏物語藤裏葉卷

守りあるくきこの關を川口此あさたよのそいおほせさらなん

古墳

隼別皇子及雌鳥皇女墳 北家城村字坊谷ニ二窟アリ俗ニ夫婦窟ト稱

ス里人傳ヘテ皇子及ビ皇女ノ墳墓トナス日本書紀仁德天皇四十年

ノ條ニ曰ク隼別皇子率ニ雌鳥皇女欲レ納ニ伊勢神宮而馳於是天皇聞ニ隼

別皇子逃走、即遣ニ吉備品遲部雄鯽播磨佐伯直阿弭能胡、曰、追之所、逮

即殺、中爰雄鯽等知レ免以急追及ニ于伊勢蔭代野而殺レ之、中乃以ニ二王屍

埋ニ于廬杵河邊、而復命ト因テ按ズルニ蔭代野ノ地ハ五鈴遺響ニ伊

賀名張郡薦生村ニ在リトス往昔伊賀ハ伊勢國ニ屬ス後、分割ス而シテ廬杵河ハ即チ廬城川

ニシテ今ノ家城川即チ要ナランカ暫ク記シテ參考ニ供ス

壹志君墓 島田村字古屋敷ニ在リ往年發掘シテ高幅共ニ三尺長六尺

ノ石棺、金銀環、金管、古鏡、皿器及ビ枯骨一體ヲ得タリ里人稱シテ壹

志君ノ墓トナス未ダ據ル所ヲ知ラズ近傍又黄金塚ト稱スルモノア

紀貫之墓古郷梅碑 佐田村字門ノ前ニ在リ高三尺六寸題シテ紀貫之墓ト云フ貫之ノ事正史之ヲ載ス然レモ其葬地未ダ詳ナラズ本州ニ在ル亦據ル所ヲ知ラズ天正ノ頃小倭七黨ナルモノアリ紀氏ノ裔ニシテ尤モ勢威アリ蓋シ此等ノ族祖先ノ爲メニ之レヲ建テシモノナラン傳ヘ云フ本村ニ貫之古郷梅碑アリ往昔之ヲ大和長谷寺ニ移ス百人一首載スル所人ハイザ心モ知ラズ云々ノ句ハ本村ノ梅花ヲ詠ゼシナリト勢國見聞集 古老口碑

藤原千方墓 川口村字野田ニ在リ路傍小輪塔ヲ存ス高貳尺五寸村人傳ヘテ藤原千方ノ墓トナス其據ル所ヲ知ラズ

平家六代墓 森本村字日川ニ在リ塔石高四尺五寸幅貳尺五寸表面唯有一乘法ノ五字ヲ刻ス傳ヘテ六代ノ墓トナス傍五輪塔數十基アリ

僧文覺及ビ六代ノ臣齋藤五及ビ其弟六ノ墓亦此中ニ在リト云フ伊勢考古録五鈴遺響古老口碑

按ズルニ五鈴遺響要摘ニ云フ六代ノ事平家物語、東鑑ニ詳カナリ其墳相摸多古江川ノ東ニ在リ鎌倉志六代相摸ニ刑セラル此説信ズベキニ似タリ蓋シ本州ニ在ルモノハ其末裔ノ舊領ニ存スル者更ニ浮圖ヲ建テ其冥福ヲ祈リシモノナラント

大中臣定隆墓 曾原村字山ノ腰ニ在リ今小祠ヲ建ツ方俗稱シテ勅使塚或ハ御門塚ト云フ定隆中臣親能ノ子ナリ養和元年八月勅ヲ奉ジ伊勢宗廟ニ謁シ源氏誅滅ノ事ヲ祈リ路ニシテ卒ス今ニ至リテ毎歲十一月村人之ヲ祭ル五鈴遺響 古屋草紙

按ズルニ定隆ノ事東鑑、源平盛衰記、平家物語、百練抄ノ諸書ニ出ヅ而シテ大同小異ナリ東鑑一志ノ驛家ニ卒ストナス今之ニ從フ

平照盛式部少輔雅通兵衛尙盛出羽守墓 波瀬村ニ在リ照盛ノ墓ハ字小路垣

内ニ在リ塔高四尺表面蓮玉妙善院居官涼月眞弘院大賢師ト併刻ス
併刻セシ法名ハ其室ナルベシ照盛天文元年九月卒ス事蹟許ナラズ雅通墓ハ字室ノ口

ニ在リ塔高五尺六角形ナシ地藏佛ヲ刻ス里人云フ雅通天正五年三月織田氏ノ兵ト戦ヒ自刃ス因テ此ニ葬ルト尙盛墓ハ照盛同字ニ在リ塔石高四尺永祿十七年七月卒ス長覺院爲蓮ト謚ス其室ヲ合葬ス蓋シ雅盛ノ族ナラン

赤松教康墓 丹生ヲノノメ俣村字萩原ニアリ五輪塔高四尺傍ニ小塔數基アリ共ニ文字ヲ記セズ石燈ニ基前ニ列ス左石ニ奉寄進寶曆六子二月願主播磨國佐用郡田和村淨圓ト刻ス教康滿祐ノ子ナリ嘉吉元年將軍足利義教ヲ弑シ遁レテ本州ニ來リ國司北畠教具ニ依ラントス北畠氏其不義ヲ惡ミ之ヲ殺シ首ヲ京師ニ送ル教康時年十九遺詠アリ曰ク

頼南朝紀傳、應仁記む木比陰櫻井記、嘉吉軍記よ嵐の吹くれは春の縁りも散果よけるト
是レ其遺體ヲ埋メシ所ナラン古老口碑

僧鎮徳墓 北家城村ニアリ今詳ナラズ南家城村西光寺境内ニ五尺餘ノ五輪塔アリ傍巨松ヲ植ウ或ハ是ナランカ鎮徳本村ノ人佛道ニ邁シ後年能登國氣多宮ニ赴キ留學數年郷ニ還リテ廣ク衆生ヲ濟度ス
勢圖見冊集

木造氏墓 戸木村字北興ニ在リ柴草茂生ス俗左衛門塚ト云フ傳ヘテ木造俊茂ノ墓トナス

柚原兼房墓 柚原村字寺谷ニ在リ俗ニ殿塚ト云フ五輪塔ニ基アリ里人傳ヘテ北畠氏ノ族柚原兼房及ビ中務二人ノ墓トナス然レモ系圖兼房等ヲ載セズ事蹟考フ可カラズ

戸井左近墓 森本村字大垣内ニ在リ中村川ニ沿フ巨松ニ株アリ其下ノ

碑石ニ戸井殿ノ三字ヲ刻ス古傳ヘ云フ左近北畠氏ニ仕ヘ故アリ
本村ニ住ス元龜中大旱ニ際シ閩郷用水ニ乏ク數十村ノ民舉テ中村
川井堰ヲ開放シ尋デ本村ニ及ボサントス左近出デ、之ヲ拒ミ身ヲ
以テ之ニ代ヘントシ遂ニ屠腹シテ死スト村人今ニ至ル迄其靈ヲ祭
リ稱シテ戸井殿堰ト云フ

田村氏墓 田村字小房前ノ宅地内ニ在リ五鈴遺響ニ云フ北畠氏ノ臣
田村源内左衛門此ニ居ル其歷代ノ墳墓ナラント里人或ハ云フ田村
磨ノ墓ナリト其據ル所ヲ知ラズ

大宮入道墓 大阿坂村字徳瀬烏岡山ノ麓ニ在リ里人云フ大宮入道舍
忍齋ヲ葬ルト稱シテ烏岡塚ト云フ

大塚具清墓 戸木村字大塚ニ在リ塔石高四尺五寸幅貳尺表面觀西院
知道覺山居士ト刻ス具清木造城主木造具康ノ長臣タリ天正十二年

羽柴秀吉戸木城ヲ攻ムル時具清戰死ス因テ此ニ葬ル五鈴遺響

大塚 小森村字大塚ニ在リ面積八拾八坪七合楕圓狀ヲナス傳ヘ云フ
往年之ヲ發キシニ石棺ヲ得縱七八尺橫四五尺側ニ又一小棺アリ縱
四五尺橫三尺許中ニ小兒ノ骨ヲ納ムト近傍字向野山若林山四ツ野
山天下山瓦釜山等亦大小三十餘ノ塚アリ村人其一ヲ發キシニ石棺
ヨリ土器朱塊及ビ刀劍矢鏃ノ類ヲ得タリ何人ノ墳ナルヲ知ラズ記
シテ後考ニ供フ

太郎生村古墳 太郎生村字日神ノ山腹ニ在リ石門ヲ設ケ内ニ五輪塔
四基ヲ存ス其他壞頽スルモノ數基アリ何人ノ墓ナルヲ知ラズ伊勢
考古錄ニ多良生郷日川ニモ六代ノ墓アリト記ス蓋シ此ヲ指セルナ
ラン

兄弟塚 島田村字北山口山岳ノ半腹ニ在リ二窟相並ブ故ニ此名アリ

口徑大約方三尺中廣サ五坪高九尺石ヲ積デ之ヲ作ル構造頗ル大ナリ蓋シ貴族ノ墳墓ナラン尙小塚ノ各處ニ存スルアリ今發掘シテ其址ノミ存ス

四十八塚 釜生田村字カン上、大平ノ山上ニ在リ元ト四十八塚アリシガ今僅ニ十數基ヲ存ス窟口方三尺中廣クシテ方六尺ヨリ拾尺餘ニ至ル四方石ヲ以テ之ヲ疊ム各大小アリ村人傳ヘテ往古土人ノ穴居セシ跡ナリト云フ

古戰場

伊倉津古戰場 伊倉津村ニ在リ今詳ナラズ南朝紀傳ニ云フ延元三年二月北畠顯能足利尊氏ト雲出川ノ分流スル處ニ於テ川ヲ挾ミテ戰フト按ズルニ雲出川ノ分流スル處ハ本村ノ西南ニ屬ス又村内丘塚數處アリ想フニ戰死者ヲ埋メシ所ナラン古老口碑

羽野古戰場 戸木村字羽野ニ在リ平坦ノ地ニシテ草木雜生ス相傳フ天文中北畠氏其臣山崎左馬之助ヲシテ安濃郡長野城ヲ攻シムル時長野氏ノ臣細野九郎左衛門ノ兵ト交戦セシ處ナリ兩軍死者多ク今此地ニ小塚三處アリ遺骸ヲ埋メシ所ナリト云フ

安濃郡

山川

安濃アノ遠山トホヤマ 本郡東邊安濃浦ヨリ一志郡小倭卿今谷柳村大ノ諸山ヲ通稱スルモノナラン五鈴遺碁

堯孝參詣記

いせの海乃浦より鹽やみちぬらん霞引さるあ乃とほやは
家集 北畠國永

海原や揃ひまほみつかひありてあかめもあらぬあ乃と遠山

按ズルニ五鈴遺響ニ云フ此歌一志浦焼出ノ鹽竈ヲ詠ジタルモ
 ノニシテ古屋草紙ニ奄藝郡大部田村ノ地トスルハ非ナリト
 安濃川一名塔世川北方河内村ニ發シ東流シテ海ニ入ル五鈴遺響
 名寄 讀人不知

神風や伊勢路を行ハ冬寒みあハ川原又千鳥鳴あリ

夫木

鈴鹿山伊勢路にかよふ三瀬川のみせはや人又深き心淡

按ズルニ三國地誌ニ云フ古勅使神宮ニ到ルノ道關ヨリ棕本

ヲ經雲津ニ到ル今ノ中郡道安濃川ヲ渡ルコト三タビ神山村、曾根村、刑部村故ニ三

瀬川ト詠ズ安濃川ハ其總稱ナリト

岩田江 岩田村字櫻垣内ニ在リ今ハ變ジテ耕地及ビ堤塘等トナレリ
 傳ヘ云フ慶長五年石田三成ノ兵津城ヲ攻ムル時此地一面ノ水澤ナ

リシガ南方ノ寄手進軍ノ便ナク日ヲ曠クシテ持久ノ計ヲナス會々松
 坂城主古田重勝使ヲ城中ニ遣ハシ籠城ヲ慰ス使者五騎澤ヲ渡リ城
 ニ入ル番兵諜シテ之ヲ知リ直チニ淺處ヨリ軍ヲ進メシト云フ藤堂
 高虎入城ノ後大ニ地形ヲ變換シテ今ノ如クナセリ

安濃板橋 今ノ岩田橋ヲ云フ五鈴遺響又大神宮一ノ御橋ト稱セルモ是橋ヲ

云フナラン伊勢考古録

夫木 隆心法師

あさほらけ家田の松ハ霧あめておほつかなしやあの板橋

橋邊月 佐々木弘綱

布引の山此は白く成よけり月ふけりたる安濃の板橋

邑里

焼出里一ニ燒手 本郡ヨリ一志郡雲津川海口ノ村落ヲ指ス神領記ニ焼出

御厨鹽九斗ト記ス蓋シ此地古製鹽ノ場タルコト知ルベシ或ハ云フ
度會郡通村是ナリト勢國見
開集

夫木

證心

うち過る人も煙になれよとや藻鹽やきての里の松風

名寄

鴨長明

晴の得る霧よおくれて立雲はやきての鹽は煙ありけり

澁見村 此地古ヨリ桑多カリシトナン

勢陽雜記

西行法師

青柳此まふまの山乃うしろ田よのりすりおけと桑の啼

神祠

結城神社 藤方村ニ在リ結城宗廣ヲ祀ル其子光親及ビ殉難將士ノ靈
ヲ配祀ス祭日五月一日事ハ墳墓ノ項ニ詳ナリ

八幡神社 藤方村ニ在リ應神天皇、神功皇后、住吉大明神及ビ藤堂高
虎ノ靈ヲ合祀ス創立祥ナラズ始メ本郡垂水村千歳山ニアリシヲ
寛永九年津藩主藤堂高次今ノ地ニ遷シ其際始祖高虎ノ靈ヲ配祀
シ以テ鎮守ト定メ世々之ヲ崇敬ス祭日九月十五日社記祭禮甚ダ盛ン
ナリ

高山神社 下部田村シモベタニ在リ舊津藩主藤堂高虎ノ靈ヲ祀ル祭日四月五
日十月五日明治九年四月此地ノ士族官準ヲ得創建ス社地公園ニ接
シ頗ル景勝ニ富ム

大市神社 岩田村ニ在リ大市比賣命ヲ祀ル往古大市村大市村ノ村名今ハ
ナシ蓋シ妙法寺村カ
ニ在リシガ洪水ノ爲メ社頭流失シ石田村ノ川岸ノ古松ニ罹リタル
ヲ奉ジテ其處ニ鎮祭シ川松明神ト稱セシニ該地ハ水害アルニヨリ
今ノ地ニ移スト云フ祭日十月廿一日社記

梵刹

四天王寺 津榮町ニ在リ曹洞宗用明天皇ノ時厩戸皇子創立久安三年三月加藤景通堂宇ヲ再興ス壽永二年男景清寺領ヲ寄附ス文安中僧正海今宗ニ改ム織田信包富田知信藤堂高虎等寺領ヲ寄附シテ之ヲ崇信ス本寺屢々兵燹ニ罹リ堂宇經卷等燒失ス今ノ堂宇ハ藤堂高虎及ビ其子高次ノ修營スル所ナリ境内龍燈松今枯アリ七不思議ノ一ナリト云フ寺記勢國見聞集北畠國永嘗テ藥師名號ヲ詠ズル和歌十二首アリ今其一ヲ錄ス

老らぬ弓春の雪はくはれぬ猶むゆましくなれると鳥

西來寺 乙部村字札辻ニ在リ天台宗近江西教寺末ナリ延徳二年僧眞盛鬼ガ鹽屋今ノ松尾崎ノ邊ニ創建ス明應七年ノ地震ニ津町悉ク家ヲ河漕浦ニ遷ス時本寺モ同ク移ル天正中洪水ニ遭ヒ津西來寺町ニ移リ又金屋

町ニ移ル慶長五年兵燹ニ罹リ舊記什寶ヲ失フ六年今ノ地ニ再建ス寺ニ龍女化現ノ傳説アリ

天然寺 乙部村ニ在リ淨土宗知恩院末ナリ慶長元年僧露牛創立藤堂高虎封ヲ津城ニ移スノ後深ク之ニ歸依シ封内ノ寺院淨土宗ヲ支配セシム州人因テ總統大寺ト稱ス寺記

願王寺 乙部村ニ在リ天台宗松樹院末ナリ慶長十三年藤堂高虎創立僧清賢開基舊ト昌泉院ト号セシガ高虎卒スル後法号ノ文字ヲ採リ今号ニ改ム藤堂氏累代ノ菩提所ナリ寺記

觀音寺 津大門町ニ在リ眞言宗護國寺末ナリ和銅二年安濃津浦ニ漁父觀世音ノ佛像一軀ヲ網ス時ノ國司某上奏シテ一字ヲ創建ス往昔ハ今ノ津興村邊ニ在リシガ明應三年同七年ノ地震ニ土地海中ニ沉没セルニヨリ今地ニ移ル慶長五年富田知信石田三成ト戦フ時兵燹

ニ罹ル後、藤堂高虎堂宇ヲ修理ス。歷世ノ祈願所タリ。寺地市街ノ衝路ニ當リ諸人群詣頗ル熱鬧ヲ極ム。每歲二月陰曆祭事アリ。鬼押ト稱ス。其名世ニ高カリシガ今廢ス。寺記、五鈴遺響

大寶院 津大門町ニ在リ。眞言宗山城報恩院末ナリ。文安中僧長圓庵藝郡窪田村ニ創立シ。蓬萊山六大院大寶坊ト号ス。六院ヲ實ク後花園天皇ノ勅願寺ナリ。後、大寶院ト改ム。天正中今ノ地ニ移ス。寺記

長谷寺 長谷村ニ在リ。臨濟宗興正寺末ナリ。僧徳道開基。天平勝寶五年。孝謙天皇行幸アリ。境内樹木鬱々トシテ巨岩創立。溪水其間ニ流ル。幽邃閑雅。愛ス可シ。又鏡石長一丈幅五尺及ビ車塚今不ノ大石アリ。寺記、五鈴遺響

古歌ニ

いくさむも参る思ひのせり寺心もきよき谷川のみつ

德雲寺址 家所村字南内ニ在リ。今、畑及山林トナリ。五輪塔數基存セリ。

往昔寺中ニ櫻樹多シ。北畠國永オソ櫻ヲ詠ゼシ歌ニ

彌生なほあまりありてふ日數をもまよてまつさく遅櫻哉

千手寺址 南長野村字水上ニ在リ。今、耕圃トナレリ。近傍ニ五輪塔散在シ。堂宇庭園ノ址存ス。往昔僧正海創立ス。長野氏歴代ノ菩提所タリ。天正四年十一月、長野氏亡ブルノ後廢ス。古老口碑

僧寶山誕生地 所在詳ナラズ。五鈴遺響ニ云フ。安濃郡跡部一色ハ大和州生駒山中興開山寶山和尚誕生ノ地ナリト。古老之ヲ知ルモノナシ。

濱海

阿漕アコキ浦アコキ阿漕アコキ津興村ノ海邊ヲ云フ。古阿古木ト稱スル地詳ナラズ。今暫ク里傳ニ據ル。青松白沙相映シ。風光絶佳ナリ。字柳山ノ東部ニ碑アリ。俳人芭蕉ノ句ヲ刻ス。文化中建ツル所ナリ。傳ヘ云フ。往昔此地大神宮御贄ノ魚ヲ漁スル所タリ。故ニ漁獵ヲ禁ズ。阿漕平次ナルモノアリ。夜ニ乗シ。潛ニ網ヲ投ズル。

コト屢々ナリ事神宮ニ聞ユ遂ニ其身ヲ篋ニ卷キ海ニ投ズ後其靈崇チ
 ナス乃チ祠ヲ立テ之ヲ祭ル毎歲七月十六日平次刑ニ遇フノ夜海濱人
 無キニ網ヲ曳クノ聲ヲ聞クト荒誕笑フベシ稗史謠曲等夙ニ其事ヲ

阿 漕 塚 ノ 圖



傳フルヲ以テ其名特ニ世ニ高シ五鈴遺響勢國見聞集

按ズルニ五鈴遺響要ニ云フ平次ノ事詳ナラズ阿古本草紙ニ平盛

光ノ子次盛海禁ヲ犯シ刑戮ニ遇フ事ヲ記ス然レモ古今六帖ニ阿

漕島ノ詠(逢事を阿漕島よひく鯛此を重あらん人知ぬへし)
 ヲ載ス此書ハ貫之女典侍ノ撰スル所ニシテ草紙云フ所ヨリ百六
 十餘年前ニ在リ蓋シ往古此等ノ故事アリ其歌ニ基キ後人次盛ノ
 事ヲ偽作セシナラント參考ノ爲メ附記ス

新後拾遺

崇全法師

わすれそよ秋を重て鹽木つむ阿漕か浦よあをし月か多

夫木

西行

逢事を阿漕か浦よひく網の度重あをいあらんれよけり

安濃浦 本郡東方安濃川海口ヨリ岩田川注口邊ニ至ル海水ヲ指稱ス

古昔商船漁船ノ津口タリシガ明應中震災ノ時瀕海ノ地海ニ没シ減少スルコト貳拾餘町今遠淺タリ五鈴遺跡

丹後守家百首

爲業

みまよせのの、浦風吹あへよ伊勢の濱萩なひきぬるうら

藤方、浦一名藤瀨又藤方山 藤方村海邊ノ地ヲ云フ古ノ磯山ナリ相傳フ往昔一大

樹アリ回り壹尺許ノ藤蔓之ニ纏ヒアリシト伊勢參宮名所圖繪

建久元年良子内親王家歌合

讀人不知

藤瀨よこきむらさきの色貝の幾し得波の染るへしけん

夫木

僧 寂念

伊勢の海浦風さえて藤瀨やあの、鹽寇雪ふりよけり

安濃、湊田 津市街及ビ乙部下部田數村ノ地一帯水田ヲナス乃チ此邊ヲ稱ス五鈴遺跡里人云フ明應七年地震ノ際沈没シ悉ク洲渚ニ變ズト今、

津興村東北水田十餘町ノ

地猶湊田ノ名ヲ存ス

夫木 讀人不知

打渡する乃、湊田得の得のと

かるも刈ぬも見えぬ朝ぎり

園 林

津公園 下部田村ニ在リ一

丘陵タリ東部ニ高山神

社ヲ安ンズ藤堂高虎ノ

靈ヲ祀ル園中數株ノ櫻樹

躑躅及ビ雜樹ヲ點植シ中央

ニ澗水ヲ湛ヘ西北部ニ俱

樂部及ビ博物院ヲ設ク園

津 公 園 ノ 圖



ノ高處ニ象觀亭省耕臺アリ山海ノ勝景一目盡ス可シ春秋遊客殊ニ多シ此地元ト藤堂氏ノ別墅タリ廢藩後蕪穢ニ屬セシニ明治十年四月前縣令岩村定高稟請シテ公園トナシ藤堂氏亦其亭榭樹石ヲ獻ジ以テ今ノ壯觀ヲナスト云フ園ニ碑アリ福井邁ノ撰文ニ係ル

安濃、松原鹽留松 津沿海ノ地往昔一帶ノ松原アリ古歌詠ズル所安濃松原是レナリ明應七年ノ震災ニ沈没シテ悉ク遠淺トナル五鈴遺傳今沿岸ニ存スルモノハ後世植ウル所ニシテ青松白沙相望ム舊時ヲ追想スルニ足レリ又乙部村ニ古松一株アリ傳ヘテ古昔ノ遺木トナス應ノ際潮水毎ニ樹下ニ至ル因テ鹽留ノ松ト云フ古老口碑

夫木

爲 家

伊勢の海めの、松原まのともいひし日數も涙とこえつゝ

谿 淵

瀧戸谷 桂畑村字瀧戸ニ在リ西ニ布引山アリ全山奇石怪岩層疊突出シ清水其下ヲ流レ櫻花躑躅楓樹ノ類尤モ多ク四時ノ景色ニ富ム又万年青福壽草及ビ藥草ノ類少カラズ溪中亦小魚ヲ産ス

御贄ミヒ淵 五百野村字上郷ニ在リ長野川ノ下流ニ屬ス深一丈四五尺長五拾間幅拾五間東方巨岩屹立ス高八間幽邃ヲ極ム傳ヘ云フ往昔此地毎歲三月三日ヨリ五月五日マテノ間年魚ヲ漁シ之ヲ神宮ニ獻ズ故ニ此名アリト

三國地誌

讀人不知

五百野川名も流れよる水浪の千歳の後も面影をたつ

屏風カガ淵 足坂村字地藏坂ニ在リ伊賀街道ニ屬ス東北山ヲ負ヒ西ハ懸崖直下凡ソ三四丈即チ長野川ノ東岸ニシテ巨巖屏列天然ノ淵ヲナス路傍ニ石地藏アリ頗ル風致ニ富ム

馬洗澗 家所村字城山ノ東北落合川ノ下流中ニ長四間幅貳間深四尺許ノ澗アリ水色緑ニシテ澗ヲナセリ傳ヘ云フ家所三河守常ニ馬ヲ洗ヒシ處ナリト

洞窟

家所塚穴 家所村字大谷ニ在リ四面皆山ニシテ樹木茂生シ人跡ヲ絶ツ穴ノ口徑貳尺深三間高壹間三尺廣九坪大石ヲ以テ疊ム傳ヘ云フ是ヨリ南方拾三町ヲ隔テ伊賀國ヘノ街道吹上坂路アリ家所三河守兵ヲ此坂路ニ伏セ敵ヲ擊ツノ時此ニ隠レテ望ミ居タル所ナリト

池泉

玉ノ湯 野田村字柳谷竹林中ニ在リ今纔ニ其址ヲ存ス傳ヘ云フ往昔一夫妻アリ男兒ヲ産ス已ニシテ夭ス父母悲傷シ之ヲ智圓寺觀音ニ

祈ル今廢寺トナル夢ニ人アリ告ゲテ曰ク西方一ノ石窟アリ温泉出ツ兒ヲ浴セシメハ蘇生セント覺メテ之ヲ異トシ往テ之ニ浴セシム兒忽チ蘇生シ遂ニ長壽ヲ保ツト古歌ニ

玉の湯やいて入月の影見えて心もすめる野田の山寺

鑑タカ井ツカ 觀音寺村字南河原ニ在リ一ノ井堰アリ始メ藤堂高次其臣辻但馬ヲシテ方壹丈貳尺ノ水鉢ヲ鑄造セシム但馬乃チ之レヲ箕手山ニ今病院地造ル此堰相距ル遠カラズ水音ノ激スル恰モ當時ノ鑑タカ井ツカ似タリ故ニ名ヅクト三國地志

井戸谷井址 家所村字城山ノ溪間ニ在リ方六尺許傳ヘ云フ三河守城ヲ本村ニ築キ居ヲ占ムルノ時井ヲ此ニ穿ツ其水清冷三河守之ヲ好ミ常ニ飲用ニ供スト

樹石

西行櫻 垂水村成就寺境内ニ在リ今枯槁ス傳ヘ云フ僧西行阿漕浦ニ遊ビ此寺ニ詣ル小童アリ門前ニ戯ル西行ノ來ルヲ見遽カニ樹上ニ登ル西行即興シテ曰ク、サル兒ト見ルヨリ早ク樹ニ登ル、ト童子聲ニ應ジテ曰ク、犬ノヤウナル法師來レバ、ト西行之ヲ奇異トス後世其樹ヲ名ヅケテ西行櫻ト云フ 勢陽名木石集 勢國見聞集

西行櫻のもよて昔を思ひて

佐々本弘綱

犬としもなとおとしめて我をいふさる歌よみの兒と思ふよ

乳母櫻 内多村長源寺境内ニ在リ古櫻數株ヲ存ス花時爛熳タリ乳母櫻ト稱ス傳ヘ云フ阿漕平次乳母ノ植ウル所ト遊觀スルモノ少カラズ地亦高燥ニ位シ尤モ眺望ニ富ム
 觀慶寺櫻 久保村觀慶寺境内ニ在リ始メ數十樹アリ風致頗ル多カリシガ後枯槁シテ僅ニ數株ヲ存ス

家集

國 永

白雲のかゝる梢と見し山の峯も尾上もさくらなり夢ぞ

雲林院下リ松一名一雲林院村字松ノ浦住吉神社境内ニ在リ往昔巨樹アリ 回貳丈五尺枝葉東西 貳拾貳間南北拾九間 本州中ノ名木トス文久中枯槁シ代ユルニ新

株ヲ以テス 勢國見聞集 俳人芭蕉ノ句ニ
 唐崎ニ松の兄ある時雨かあ

片田一本松址 久保村字向ニ在リ始メ巨松一株アリ明治六年耕地ノ害トナルヲ以テ之ヲ伐採ス北畠國永家集ニ天文十九年片田一本松ト云フ處ニ秋山出城ヲ築キ侍リシニ士卒ノ内ニ花ヲ面白クイケル程ニ云々ト載ス即チ是ナリ其歌ニ

花催ふよすかもゑるしものゝ夫のやたけ心のさきかけんとは

三舟石 平木村字三舟伊賀街道ノ傍ニ在リ巨石三アリ舟形ヲナス長

野川其南ヲ流ル喬樹鬱蒼山間ヲ四周シ又二條ノ小瀑布アリ遊觀ス
ルモノ少カラズ

蛙石 平木村宇大塚伊賀街道ノ傍ニ在リ形狀巖ノ如シ高壹丈周回數
拾圍行人杖ヲ駐メテ賞觀ス

城砦及宅址

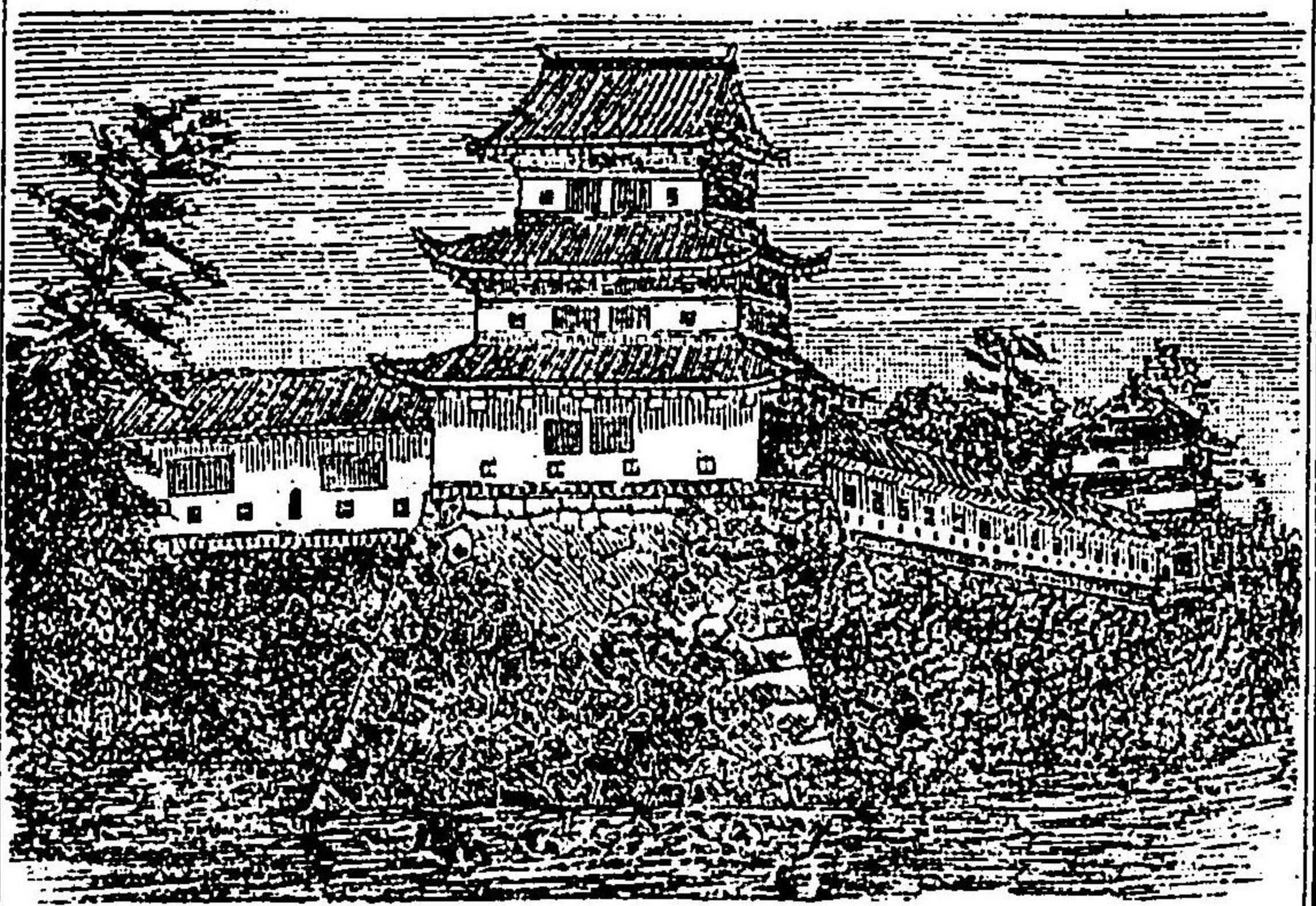
津城址 一名安濃 津城址 本郡ノ東部ニ在リ津市街ノ南ニ位ス安濃川岩田川ヲ
帶ビ伊勢内海ノ衝ニ當リ州ノ中央ヲ控ス城樓漸次毀壞ス本丸西丸
ハ僅ニ石壘ヲ存ス東丸ハ樹木繁茂ス濠アリ之ヲ繞ル内堀トス多ク
蓮ヲ生ズ四圍ニ土壘アリ又濠ヲ周ラス之ヲ外堀ト稱ス城門北ニア
ルヲ京口門トナシ西ヲ伊賀口門南ヲ中島門トナス共ニ石壘ヲ存ス
是ヨリ以内ヲ丸ノ内ト稱ス近來東ニ道ヲ通ジ橋ヲ設ケ人民ノ通行
ヲ便ニス永祿中細野藤敦城ヲ築キ之ニ居ル 天延貞元ノ際平正衛三男
貞衛安乃津三郎ト稱ス其

子清衛正盛忠盛等相繼チ此
ニ居ル當時ハ海濱ニアリシ
ガ明應三年五月及比七年六
月ノ地震ニヨリ十九町許ノ
地沈没シテ海トナレリ爾後
今ノ地ニ移セシト云フ

十一年織田信長攻メテ之
ヲ取り從弟信昌ヲシテ居
守セシメ以テ南方ノ鎮ト
ナス十二年信長北畠氏ト
和シ二子茶筌丸 後信雄ヲ
ト改ム 其養子トナシ尋デ信昌ヲ

傳トナシ南伊勢ニ移ス信
長弟信包ヲシテ之ニ居ラ
シム文祿元年豐臣秀吉其

津城ノ圖



領邑ヲ沒收シ之ヲ近江ニ移ス富田知信之ニ代ル慶長五年關原ノ役
 毛利秀元、長束正家等大軍ヲ率ヒ來リ攻ム知信ノ子信高分部光嘉ト
 防戰ス衆寡敵セズ外郭既ニ陥リ退テ本丸ヲ保ツ敵類ニ圍ミ攻ム信
 高奮戰斬敵頗ル多シ尋テ和ヲ議シ剃髮シテ高野山ニ遁ル後、徳川氏
 信高ヲ復シ伊豫國宇和島ヲ賜フ慶長十三年藤堂高虎之ニ代リ伊賀
 國及ビ本州數郡并ニ山城、大和等ノ地ヲ領ス是ニ於テ大ヒニ城壁ヲ
 修補シ居城トナス明治維新ニ至リテ廢ス今、陸軍省所轄地トナリ中
 ニ三重縣尋常師範學校、同第一監獄、私立三重女學校等アリ

誌、高
山錄

五鈴遺蹟、津
脩錄、背書國

長野城址 細野城址

北長野村ニ二處アリ一ハ字城臺ニ在リ海面ヨリ高

キコト千七尺許石壘各所ニ存ス東方、山河ノ位置一目盡スベシ延應
 中工藤祐長一ニ祐政
二作ル此地ニ來リ長野地頭職トナル藤房ナルモノニ

至リテ國司北畠氏ニ屬ス興國三年足利氏ノ將高師秋大兵ヲ發シ來
 リ脅カス藤房之ニ從フ北畠顯能、大宮尾張守、阿曾宗貫ヲシテ之ヲ擊タ
 シム克タズ七年再ビ之ヲ攻ム藤房等奮戰自殺ス子豐藤出奔ス顯能
 其邑ヲ以テ雲林院、細野二氏ニ分チ與フ正平七年足利氏仁木義長ニ命
 ジ本州ノ守護トス乃チ豐藤ヲ嚮導トナシ來リテ本城ヲ攻メ之ヲ取ル
或ハ云義長ノ居城ハ本郡桂
細村字荒井ノ山上ニ在リト兵勢漸ク盛ナリ十五年義長足利氏ニ叛
 ク足利氏ノ兵來リ攻ム義長支フル能ハズシテ南朝ニ降ル已ニシテ
 又之ニ背ク足利氏更ニ命ジテ伊賀ノ守護トナス後、豐藤再ビ本城ヲ
 取ル工藤氏復興ル其一族ノ二郡中ニ在ルモノ雲林院、草生、家所、細野、
 分部、中尾氏等トス而シテ乙部、三宅、三間、川地等諸氏其與力タリ天文
 中藤定ナルモノ南、北畠氏ト屢々兵ヲ交ユ後、和親シ北畠具教第二子
 具藤耶ニ養ヒ嗣トナス永祿五年具藤ノ兵安濃浦ヨリ海ヲ航シテ三

(安濃) 城砦及宅址

二百三十二

重郡鹽濱ニ上陸シ關ノ一黨ト戰ヒ大敗シテ退ク十一年織田信長既ニ神戸城ヲ降シ來リテ安濃城ヲ攻ム分部光嘉川北藤元等潛ニ欺ヲ信長ニ通ジ信長ノ弟信包ヲ請フテ長野氏ノ嗣トナシ以テ具藤ヲ逐フ後信雄人ヲシテ之ヲ殺サシム一ハ字細野ニ在リ今耕地トナレリ興國中長野ノ族細野掃部助之ニ居ル雲林院出羽守ト北畠民ニ從ヒ長野氏ヲ滅シ其領邑ヲ分領ス藤光ナルモノニ至リテ弘治中此地長野本城ニ接近シ攻守ニ便ナラズトテ本郡安濃村ニ城ヲ築キ之ニ移ル本城因テ廢ス長野縣、五鈴遺蹟、三國地誌

安濃城址 安濃村字宮前ニ在リ周圍七町餘高拾六間ノ丘陵タリ俗城山ト稱ス濠壘及ビ井址存セリ弘治中長野氏ノ族細野藤光細野ヨリ城ヲ此ニ移ス男藤敦繼デ居ル永祿十一年八月織田信長長野氏ヲ滅サントシ先ツ來リテ本城ヲ攻ム藤敦勇悍能ク拒グ城拔ク能ハズ久クシ

テ和ヲ議ス天正八年二月藤敦、長野信包ト隙アリ信包ノ兵來リ攻ム父藤光及ビ家士等多ク誘殺セラル遂ニ城ニ火シテ亡命ズ後、豐臣秀吉ニ仕フト云フ五鈴遺蹟、長野縣勢陽雜記

雲林院城址 雲林院村字西院ニ在リ今概子開墾シテ耕地トナリ西南隅僅ニ舊址ヲ見ル長野氏ノ族雲林院出羽守之ニ居ル興國中北畠民ニ從ヒ細野掃部助ト長野氏ヲ滅シ其地ヲ分領ス長野氏再ビ興ルニ及ビ亦之ニ屬ス祐基及ビ子兵部少輔ノ時長野信包領地ヲ奪ハントシ天正八年謀ヲ以テ其老臣野老兵衛尉ヲ殺シ祐基父子ヲ逐フ城遂ニ廢ス本村字浦ノ谷長徳寺ノ傍ニ歷代ノ墳墓アリ碑石頽壞文字讀ム可ラズ勢見、國集、長野縣

家所城址 家所村字城山ニ在リ樹木繁茂シ礎石古井ヲ存ス長野氏ノ族家所氏世々之ニ居ル藤安ニ至リテ永祿中薙髮シテ蘆庵ト號シ一志

(安濃) 城砦及宅址

二百三十三

郡佐田村ニト居シ男藤高家ヲ嗣グ天正中織田信長長野氏ヲ亡ボシ
 弟信包ヲシテ之ヲ繼ガシム藤高往テ信包ニ属ス元和元年豊臣秀頼
 ニ仕ヘ大坂城ニ戦死シ城廢ス五鈴遺響 背書國誌
 分部城址 リヤベ 分部村字東垣内ニ在リ今村民宅地トナリテ東部ニ一條ノ
 濠址ヲ存ス永祿中長野氏ノ族分部氏世々之ニ居ル光高ニ至リ細野藤
 光ノ三子光嘉ヲ養ヒテ嗣トナス天正十二年羽柴秀吉奄藝郡上野城
 ヲ光嘉ニ與フ因テ之ニ移リ城廢ス五鈴遺響 背書國誌
 草生城址 クキウ 草生村字恵下ニ在リ今八幡神社ヲ祀ル長野氏ノ族草生越
 前守同民部少輔之ニ居ル後織田信長ニ滅サレ城廢ス五鈴遺響 古老口碑
 垂水城址 一名鷲城或ハ 鷲山城ニ作ル 垂水村字井戸谷ノ山上ニ在リ東西拾間南北三
 拾間ノ平地タリ濠址尙存ス古老傳ヘ云フ垂水定信始ノテ之ヲ傾シ
 四世廣信ニ至リ後醍醐天皇ニ仕ヘテ功アリ後諫言行ハレザルヲ以

テ此地ニ退居スト

按ズルニ廣信ノ事蹟本朝諫争録ニ載ス又度會郡永井村ニ其裔ア
 リ系譜及ビ古記等ヲ藏ス系譜ニ文應元年生延元元年三月卒年九
 十七法名萬光院殿諦山道空居士云々ト記ス然レモ他史乘古文書
 等見ルベキナシ蓋シ本村ニ北畠氏ノ臣垂水釋加坊アリ或ハ之ガ
 居址ナランカ

藤方城址 藤方村ニ在リ所在詳ナラズ北畠氏ノ族藤方氏世々ノ居城
 マリ藤方御所ト稱ス永祿中慶由入道其子刑部少輔相繼デ居ル天正
 四年刑部少輔其主具教ヲ多氣郡三瀬城ニ弑ス慶由其不義ヲ憤リ淵
 ニ没ジテ死ス刑部後流落シテ近江ニ至リ乞人トナルト云フ五鈴遺響 多藝錄
 乙部城址 中河原村字城内ニ在リ今耕宅地タリ源賴政ノ裔乙部藤政
 城ヲ築キ之ニ居ル長野ノ與力マリ其子伊豆守永祿中織田信長ノ攻

ムル所トナリ戦死シテ城廢ス五鈴遺響
古老口碑

外山城址 五百野村字外山ニ在リ正平ノ頃土岐彈正少弼ノ三子外山
光明弟直頼之ニ居ル仁木義長ニ属ス天正中宮内少輔ノ時織田信長
ノ爲メニ亡サル土岐系圖
多藝錄

今徳山城址 コト今徳村字北出ニ在リ今宅地トナリ舊址僅ニ存ス北畠氏
ノ臣奥山常陸介城ヲ築キ之ニ居ル永祿十一年長野氏ノ兵來リ攻ム
城堅クシテ拔ケズ後北畠信雄ニ属ス天正四年北畠具教ヲ多氣郡三
瀬城ニ攻ントス常陸介軍ニ從ヒシガ舊恩ヲ顧ミ途ニシテ疾ト稱シ
去ル後美濃竹鼻ノ役戦死ス其子孫今本村ニ在リ五鈴遺響、勢
國見冊集

殿城址 殿村字井尻ニ在リ東西拾壹間南北拾八間長方形ノ地ナリ松
樹繁茂ス嘗テ古劍瓦片ヲ堀出セシコトアリ傳ヘ云フ應永中伊藤滿
高之ニ居ルト

淨土寺城址 淨土寺村字三反田ニ在リ今山林タリ天正中織田信長ノ

臣守岡金助之ヲ守ル五鈴遺響
三國地誌

萩野城址 萩野村字大屋垣内ニ在リ面積六百五拾坪許周圍石壘ヲ廻
ラス古老傳ヘ云フ應永中萩野彌左衛門之ニ居リ北畠氏ニ属スト其
子孫今尙存セリ五鈴遺響
背書國誌

岡本城址 岡本村字赤坂ニ在リ今山林トナリ僅ニ土壘ヲ存ス建仁ノ
頃平氏ノ黨岡貞重八父子之ニ居リ若菜五郎等ト謀リ乱ヲ作ス元久
元年四月平賀朝雅ノ攻ムル所トナリ城陥リ自殺ス東鑑、背
書國誌

足坂城址 足坂村字西日ノ谷ニアリ今山林タリ傳ヘ云フ天正中北畠
氏ノ臣蜂屋采女正之ニ居ルト
神戸城址 カシバ神戸村字小瀬古ニ在リ高廿四尺許ノ小丘タリ永祿天正ノ
頃長野氏ノ族中尾内藏介之ニ居ル富田知信津城退去ノ後同城ヲ守

監シ暫ク此ニ住ス 五鈴

連部砦址 ヲレベ 連部村字城下ニ在リ今宅地トナル天正十二年羽柴秀吉木

造具康ヲ一志郡戸木城ニ攻ル時家所藤高ニ命ジテ砦ヲ此ニ置ク 五鈴

澁見砦址 澁見村字城ノ丘上ニ在リ樹木繁茂ス永祿中乙部城主乙部

藤政、織田信長ノ兵ヲ防ガントシテ砦ヲ此ニ設ク後信長ノ爲メニ攻

ノヲレ戰ヒ敗レテ自殺ス 勢國見

按ズルニ三國地誌ニ云フ川北内匠助之ニ據ル烏崖ト稱スル古戰

場アリト川北ハ細野藤敦ノ弟ニシテ藤元ト稱ス蓋シ此ニ居リシ

カ暫ク疑ヲ記ス

半田砦址 半田村字上寺ニ在リ面積凡ソ三百坪許今宅地タリ土人之ヲ

城屋敷ト云フ何人ノ居リシヲ詳ニセズ五鈴遺響ニ半田神戸砦ハ中尾内

藏介居城ト記セリ蓋シ神戸城址ヲ混同セシヲラン暫ク疑ヲ記ス

平忠盛宅址 産品村ニ在リ所在詳ナラズ里人傳ヘ云フ刑部卿平忠盛

之ニ誕生ト今本村字産ヶ塚ニ胞衣塚及ビ産池ト稱スル處アリ或ハ

其傍近ノ地ニアリシカ又近地殿村刑部村等ノ村名アリ皆由緒アル

ニ似タリ

大市空之助宅址 妙法寺村字大市ニ在リ今耕地タリ里人傳ヘ云フ大

市氏世々之ニ居リシガ天正中空之助ナルモノ分部光嘉ト戰ヒ遂ニ

滅スト

家所氏宅址 同村字五會内ニ在リ今田圃及ビ宅地トナレリ家所城址

ノ南面ニ位ス歴代ノ居館タリ

加藤氏宅址 下部田村字南羽所ニ在リ明治十年三重縣廳舎ノ敷地内

ニ入ル龜山加藤氏系圖ニ加藤景通ノ二子景貞 景貞 伊勢國目代

職タリ柳馬入道ノ婿トナリ其采地ヲ承ク其子景貞伊勢ヲ去リ伊豆

ニ住ス子光員伊勢道前郡所職ス弟景廉伊豆國狩野莊内牧郷職及伊勢道前郡所職ニ補セラルト記ス蓋シ此ニ居リシカ土俗之ヲ平景清ノ宅址又ハ誕生地ト稱ス信認スベカラズ

長官宅址 殿村字狭間谷ニ在リ其址詳ナラズ古老傳ヘ云フ康平中大神宮司大中臣宣衡之ニ居リ殿村前司ト稱ス子孫之ニ居ル爲仲ナルモノニ至リ應保元年祭主トナル後詳ナラズ

館址

有造館址 津丸之内ニ在リ陸軍省ノ所轄地ニシテ今大林區署ノ苗圃トナレリ文政三年藤堂高兌文武ノ學校ヲ此ニ興シ儒臣津坂孝緯ヲシテ之ガ督學タラシム有造館ト稱ス中ニ養正寮並蒙習館士子職整暇堂兵學講等ヲ設ケ又館ノ四周ニ演武場二十八區ヲ列置シ騎射劍槍銃術拳法等ヲ國藩ノ子弟ニ教授ス爾後人材輩出列藩ノ士人又

來リテ業ヲ問フモノ多シ明治四年廢藩ノ時之ヲ罷ム

藤堂氏觀馬館址春秋亭址 津興村船頭町ニ在リ今三重縣栽培試驗場ナリ藤堂高久之ヲ設ケ家臣ノ調馬ヲ觀ル處トナス南隅ニ館アリ春秋亭ト名ヅク明治二年版籍奉還ノ後之ヲ廢シ亭ヲ毀ツ

待賓館址 津大門町ニ在リ往昔藤堂氏ノ設立ニ係ル勅使及ビ列藩諸候本州ヲ經過ノ時藤堂氏接遇ノ處トシ又宿泊ノ用ニ充ツ明治二年三月 今上行幸ノ際定メテ行在所ニ充ツ五年一月安濃津縣廳ニ充ツ爾來戶長役場ヲ置キ今官用地トナレリ

古墳

五百野皇女墓 五百野村字宮ノ本田間ニ在リ高五尺東西貳拾三間南北貳拾間方形ヲナス芝草之ヲ蔽フ古來傳ヘテ皇女ノ墓トス命ハ景行天皇ノ第七皇女ナリ母ハ水齒郎媛二十年庚春二月遣ハサレテ天照大

(安濃) 古墳

二百四十二

神ヲ祭ル日本紀始メ塚傍一社アリ延寶七年三月同村春日神社境内ニ移ス

皇塚一名

大塚村字西山ノ頂上ニ在リ東西六拾間南北百貳拾三間一

大丘陵ヲナス上ニ大石アリ古墳ノ形儼然マリ明治十六年村民土ヲ穿チ金環古刀ノ類ヲ得タリ拾遺載スル所及ビ里人口碑ニ桓武天皇

第四皇女齋宮安濃内親王ノ墓トナス未ダ據ル所ヲ知ラズ

按ズルニ安濃内親王齋宮タルコト古史ニ載セズ其ノ皇女齋宮タ

ルモノ二十一世朝原親王アリ延曆四年乙丑ヲ以テ發遣シ十五年

丙子京師ニ歸ル日本紀略乃チ葬地ノ本州ニ非ルコト知ルベシ一説

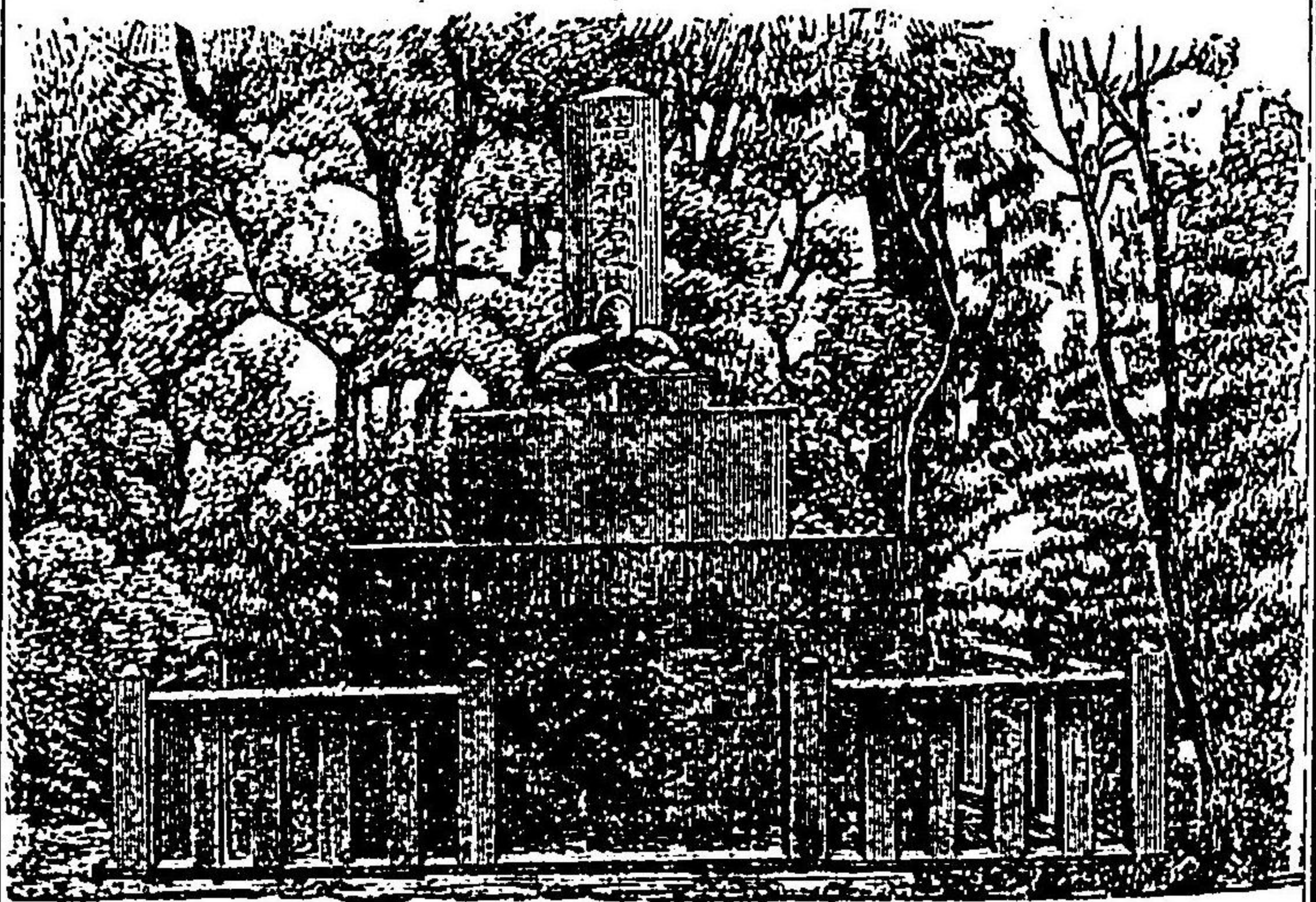
ニ二十二世安倍内親王ノ墓トス然レモ親王ハ聖武帝ノ二女ニシ

テ墓ハ大和國ニ在リ暫ク記シテ後考ヲ俟ツ

結城宗廣墓 藤方村字八幡田ニ在リ域内貳百三拾六坪中央ニ石碑ア

リ高壹丈三尺三寸周圍高三尺許ノ石垣ヲ繞ラス文政七年津城主藤堂高兌墓地ヲ修理シ新ニ碑ヲ立テ表面ニ自ラ結城神君之墓ノ六字ヲ題シ儒臣津坂孝綽其功績ヲ碑陰ニ誌ス後漸次荒廢ニ歸セシガ飯高郡大足村ノ人川口常文今結城神社ノ宮司タリ之ヲ愛ヒ修繕ニ盡力ス明治十三年七月聖駕本州巡幸ノ時其誠忠ヲ追賞セラレ祭祀料金若干ヲ下

結城宗廣墓ノ圖



(安濃) 古墳

二百四十三

賜セラル尋テ社殿ヲ新建ス十五年一月朝廷其神靈ヲ敬崇アリテ別格官幣社ニ進ム碑銘ニ曰ク

結城神君碑銘

嗚呼是爲結城神君之墓云謹按國史并考家乘公諱宗廣承籍爲上野介晚薙髮號道忠其先出於鎮守府將軍藤太秀鄉自曾祖上野介朝光仕鎌倉將軍賴朝世食總之結城遂以爲氏公家別居與之白河因稱白河結城元弘元年秋北條高時構逆遷乘輿于海島三年五月密詔諭公發與羽兵討高時公適在鎌倉即率二弟祐義廣堯及一族從新田義貞攻戰高時伏誅十月裨鎮守府大將軍北畠顯家奉皇子略定與羽二州率服皇子即正平天皇時甫六歲也建武二年十月足利尊氏反于鎌倉王師征討失利延元元年正月尊氏長驅入寇京師車駕幸叡山公次子左衛

門尉親光夙有材幹驍勇善戰往屬北條氏守六波羅既而悔非歸順甚被親信爲檢非違使將略威望與楠正成名和長年齊名有三木之稱焉及寇至獨留居關下率兵佯降欲刺尊氏不克斫叛將大友貞載死之朝野痛惜焉公從顯家奉皇子赴難比至鎌倉尊氏既西兼程追躡入援與顯家義貞正成長年等擊賊將細川定禪於三井寺潰之尋敗戰于都下尊氏大敗公與諸將追至豐島川又大破之明日又擊之湊河尊氏遁走筑紫車駕還關三月公從顯家奉皇子東歸四月尊氏復大起兵入寇官軍敗績車駕再幸叡山二年八月公重從顯家奉皇子赴援賊邀戰于利根川公共顯家擊破之十二月進攻鎌倉克之足利義詮走遂衝賊藪西上所至戰皆克三年正月至美濃賊將高師泰扼隘逆拒轉道伊勢師泰尾至雲出川返戰破之公皆與有力焉

二月、抵南都時、乘輿蒙塵、駐蹕吉野、顯家因召諸將、議軍所向、公慨然奮曰、我軍連戰累捷、已開入京之路、而猶憚賊不得進、南避詣行在、爲懦甚也、宜直進襲克復京師、掃蕩凶徒、不濟則暴屍都下耳、顯家大稱善、會賊將高師直來攻、顯家戰敗、薨于安倍野、公孤軍無奈、入朝行宮、方是之時、中將義貞在越、戰歿軍潰、顯家弟少將顯信屯成男山、亦棄而歸、朝廷震驚、不知所爲、公奏曰、往者顯家三年之間、再率大軍入援、以與羽善服、威令無後顧之憂也、請今因民心未變、重奉皇子、以往建號明令、懲逆獎順、經略之功、何患不辦、臣按地圖、與羽之曠莫、殆當天下之半、可得勝兵五十許萬、臣白首戴胃、祇從皇子、率彼義勇、卷土而來、不出一年、會稽之恥可雪矣、朝議壯而從之、於是閏七月、顯信俄拜鎮守府大將軍、公從顯信、又奉皇子、往鎮東陞、諸軍慮路梗

難通、畢會伊勢、浮海東下、八月、發大湊、九月十一日、過天龍洋、至伊豆崎、遇颶風暴起、船皆飄蕩、與皇子及顯信相失、公船漂七日、還抵安濃津、候風十餘日、不幸嬰疾、遂至不起、有所識僧來問、就枕側告曰、死迫矣、唯誦佛号、莫有他念、若有所遺囑、爲致諸郎君、公目將瞑、聞之奮起曰、我生七十、百事完足、莫復遺念耳、但恨不得爲國家滅賊、以恢復天下、死而不可忘也、爲我致意兒親朝、居憂勿脩佛事、唯速誅賊、我墓前、聿追來孝是而已矣、言訖、拔刀慨嘆、切齒而卒、訃聞、天子震悼焉、惜夫親朝怯懦、不能繼先志、擁兵坐視、關城之急、遂叛降于賊、何其不肖也、親光忠勇義烈、不忝爾所生矣、公自起義以來、勦勞不可勝述、既及大厦再覆、猶欲一木獨支、其徇與羽以圖興復、進謀誠滅、大強人意、天不梁忱、謂之何哉、勤王之志、終始

不_レ武臨_レ死益切、遺命壯烈、不_レ讓_二有宋宗忠簡_一、可以泣_二鬼神_一矣、當時浮屠輩、憎_二其斥佛事_一、捏_レ造陷_二泥梨_一狀、以誑_二親朝_一、漫載_二諸筆_一、愚俗傳誦焉、固不足_レ挂_二齒牙_一耳、我津城南郊、八幡宮林中有_二公墓并祠_一、祠号_二結城明神_一、夫當時忠賢、南木明神、名和明神之廟、皆儼_二然其鄉_一、公亦祀_二于此_一、列爲_二三明神_一、至忠之感_レ人、各地一揆也、公之卒、去今四百八十有七年、猶爾見_二生氣凜凜_一於_レ巖、豈非_二真英雄_一哉、文政甲申之春、我公欽_二其德義_一、脩_二拓祠宇_一、輪奐改_レ觀、內大臣近衛公賜_二額_一、金字輝煌、神明彰矣、尋復築_レ石脩_二墓_一、建_レ碑以表_レ之、親筆題_二署_一、蓋倣_二水戶義公湊河楠子墓之舉_一云、庶亦使_二人觀感_一、可以鼓_二舞士氣_一矣、且是地也、詣_二皇太神宮_一者、四方所_レ經過、則其所_レ以爲_二忠義之勸_一、舉_二天下之人_一仰焉、不_レ獨國人而已也、世孝綽奉_レ命勒_レ石、短筆梗澁、無_レ任_二惶悚之至_一、拜手稽首、敢恭序而銘_レ之、是歲孟冬五日、卽

公之忌辰也、

維盛忠亞_二楠子_一、豪武王之爪牙、豐饒老而益壯、恢復緬仰_二雄圖_一、百戰敵愾、良苦、天乎世運蹉跎、義踏_二東海_一而死、敢從_二逆賊_一立家、英烈之氣如_レ生、亘_二千載_一而不_レ磨、穢史冥果之誣、天定如_二神德_一、何、名勝有_二若廟墓_一、誠亦吾土之華、盛舉興_二脩曠典_一、媿_二美于彼湊河_一、聿來景_二仰風節_一、懦夫其奮_二氣義_一、

津藩國校督學兼侍講津坂孝綽謹撰

督學參謀兼侍讀石川之翫拜書

平維盛墓 河內村字落合ニ在リ塔石高貳尺六寸五分幅壹尺方形ヲナス其下疊ムニ小石ヲ以テス表面平惟盛之墓ノ五字ヲ題シ三面傳ヲ誌ス寛政中建ツル所メリ成覺寺記ニ云フ壽永ノ際維盛紀伊那知海ニ投ストナシ跡ヲ匿シ逃レテ本村ニ來リ其宅ヲ以テ佛刹トナス今

成覺寺是ナリ承元四年三月病デ卒ス年五十三子孫數十戸ヲナス寺僧亦其裔ナリト

按ズルニ大日本史ニ曰ク維盛伴爲_ニ赴_レ海死_ニ匿居_ニ牟漏郡藤繩_ニ子孫遂爲_ニ土人_ニ貢_ニ香那知_ニ因名_ニ其地_ニ曰_ニ香吟_ニ小松氏_ニ色川氏_ニ其裔也_ト其他大和_ニ越後亦其舊址アリトナス成覺寺記ノ如キ亦頗ル由緒アルガ如シ暫ク記シテ參照ニ供ス

織田信長母墓 津榮町四天王寺墓地ニ在リ土田氏文祿三年正月卒ス花

屋壽永大禪定尼ト謚ス今藥師堂ノ南壹丈貳尺許ノ塔アリ寶曆二年

改メテ新建スト云フ

寺記、五鈴遺響

富田知信同男千代丸墓 津榮町四天王寺墓地ニ在リ五輪塔高三尺餘臺

石銘アリ剝落シテ讀ムベカラズ知信文祿中津城主トナリ左近將監

ト稱ス慶長四年十月卒ス京都南禪寺ニ葬ル因テ此ニ供養塔ヲ建ツ

千代丸墓ハ五輪塔高四尺貳寸慶長九年五月早世ス宗寶院殿桂室芳公大禪定門ト謚ス寺記

藤堂高虎室一色氏墓 津榮町四天王寺墓地ニ在リ塔高三尺七寸餘幅壹

尺六寸石垣ヲ繞ラス表面久芳院殿桂月貞昌大禪定尼ノ十二字ヲ刻

ス一色義直ノ女ニシテ高虎ノ室マリ元和元年八月卒ス乃チ此ニ葬

家譜
寺記

孝女登世墓 連部村字日燒ニ在リ高貳尺五寸周圍四間碑面文字ナシ

登世幼ヨリ親ニ事ヘ孝アリ文化中藩主藤堂氏賞スルニ米金ヲ以テ

ス又除地若干ヲ給ス天保十一年七月死ス藩主爲メニ墓碑ヲ建ツ

僧清韓墓 乙部村字札ノ辻上宮寺ニ在リ高三尺許南禪寺清韓長老ノ

數字ヲ刻ス清韓奄藝郡三宅村ノ人嘗テ豐臣秀頼ノ爲メ方廣寺ノ鐘

銘ヲ撰ス三國
地志

經塚 本郡經ヶ島ノ頂上ニ在リ往昔長野氏ノ臣近藤左金吾ナルモノ
長寶寺一切經ノ内二百卷ヲ奉納シ百卷ヲ此ニ埋ム故ニ此名アリト
平忠盛胞衣塚塚一名 産品村ノ南方長谷往還ノ傍字産ニ在リ高貳丈五

尺周圍百貳拾間今草生地タリ忠盛ノ事史傳ニ詳ナリ傳ヘ云フ忠盛此地
ニ生ル是其胞衣ヲ埋ムル處タリ塚ノ北十間許小池アリ産池ト云フ
即チ此水ヲ以テ浴セシナリト五鈴遺釋、背書
國誌、古老口碑

按ズルニ忠盛白河天皇永長元丙子年誕生シ近衛天皇仁平三年癸
酉正月十五日卒ヌ年五十八其生誕ノ地ハ本郡ニシテ卒去ノ地ハ
多氣郡河田村ニ在リ遺響ニ云フ忠盛寔ニ平氏中興ノ祖ニシテ本
州ニ生卒ノ地ヲ遺セルモ其餘ノ武將ト異ナリ所謂俠鶴不忘其巢
ノ譚ナリト併テ茲ニ附記ス

三塚 塔タカセ世村字鳥居前稻荷山ノ山上ニ在リ傳ヘ云フ關原役ノ時穴戶

元繼安濃津城ヲ攻メ分部左京亮ト戰ヒ敗死ス其臣二人俱ニ茲ニ葬
ル故ニ名ツク

船塚 津興村字柳山ニ在リ小丘ニシテ榎二株アリ俗傳ヘ云フ阿漕平
次海禁ヲ犯セシ時用ヒシ船ヲ此ニ埋ムト

義犬塚 平木村字犬塚ニ在リ一小石ヲ置ク往時長野氏ノ從士鹿間某
アリ獵ヲ好ム一日常ニ愛スル所ノ良犬ヲ携ヘテ山中ニ至ル犬頻ニ
吼エ進マントスレバ將ニ嚙マントスルノ狀アリ某謂ラク獲物數千
ニ及ベバ主人モ喰フト聞ク此犬或ハ吾ヲ喰ハンカト乃チ腰刀ヲ拔
キテ之ヲ斫ル犬頭飛デ傍ニアル大蛇ノ喉ヲ嚙ム某之ヲ見大ニ驚キ
忽チ蛇ヲ殺ス是ニ於テ犬ノ吾ヲ害スルニ非ズシテ吾ヲ護スルヲ知
リ爲ニ之ヲ慙ヂ犬屍ヲ収メ此ニ葬リ石ヲ立テ之ト表スト五鈴遺釋、勢
陽雜記、勢國
凡明津藩津坂孝緯義犬塚引及詩アリ曰ク

長野山中格社之西、洞道左側有義犬塚、建沒字碑、里人恭敬爲神、蓋屋以庇之、相傳去今二百許年、鄉士鹿間某者好獵、養一快犬、鐘愛殊至、常將自隨、嘗山中假寐、犬遽跑號、脚裾拽之、士叱逐之、犬叫喚如狂、奮身作猛噬之勢、士怒遂抽刀斬之、蓋所憇樹間有巨蟒蟠焉、犬頭便飛騰、直齧其喉、殺之、士大驚嘆、收犬屍葬于此、立石以爲表云、里正古川建藏述狀、請余贊一辭、噫嘻、是可以大稱乎、可謂忠勇義烈之墓矣、宜其恭敬爲神也、余自坐事貶斥、廢詩三年于茲、雖卿相之求、斷弗攬筆、此特不容已爲賦予焉、時文化丁丑冬二之日也、

殷勤救主心、死首猶飛鬪、忠義獸中人、人中翻有獸、

椀塚 曾根村字東浦原野中ニアリ東西拾五間南北拾間丘陵ヲナス頂上巨松一株アリ何人ノ墓ナルヲ知ラズ傳ヘ云フ元ト御厨ノ地タリ秋葉重俊ナルモノアリ近江ヨリ來リテ此處ニ住ス文曆元年判官職

タリ其後片田刑部尉重時ノ時兵乱ニ遭ヒ御厨從テ發ス時ニ大刀、神鏡及ヒ輿一連庖厨一切ノ器具ヲ此ニ埋ムト

古戰場

觀音寺村古戰場 觀音寺村字東浦ノ丘陵ニ在リ慶長五年富田信高德川氏ニ屬シテ津城ヲ守ル石田三成ノ兵來リ攻ム信高其臣淺井權之助、齋田隼人等ヲシテ塔世川ノ堤ニ至リ敵狀ヲ窺ハシム二人乃チ歩卒六十人ヲ率ヒ直チニ進デ川ヲ渡リ愛宕山、藥師山ノ間ニ向フ信高之ヲ見テ以爲ラク敵ハ大軍ナリ近ケバ戰ヒ利アラズト乃チ急ニ令シテ之ヲ止メシム二人聞カズシテ進ム遂ニ敵兵ヲ擊チテ大ニ乏チ敗ル是其舊地ナリト云フ勢陽雜記古老口傳

奄藝郡

山川

栗真山 クルマ 所在詳ナラズ藻薹草ニ曰ク、クルマノ山伊勢ニ属スト蓋シ白
子村ノ邊ニ在リシナラン此地往昔栗真庄一作ルト稱ス故ニ此名アリ
伊勢名所拾遺
集、五鈴遺響

海道記

鴨 長明

立カかれひとりくるまのいあむしろ旅終ル此あかの旅を悲シ紀

衣手山 ヨロモテ 郡山村宇衣谷ニ在リ酒井川ノ水源ニ属ス南部岡陵一帯連属

ス山中往昔葛麻等ヲ産ス此地初夏ニハ杜鵑ノ聲ヲ聞キ晩秋ニハ麋

鹿ノ啼クヲ聞クニ宜シト云フ 勢國見聞集
古老口碑

夫木

顯 仲

衣手山ノおもとよたつ鹿乃こゝろさひしき曙のこゑ

磯山 磯山村ノ地ヲ稱スルモノナラン本村字磯アリ今、田畝タリ

夫木

磯の山まささきの網よりかきて鹽みつほどの船ハつあらし

服部山 山一ニ羽鳥
山ニ作ル 郡山村字大野ニ在リ一岡丘タリ東鑑元暦元年甲辰

五月十五日ノ條ニ曰ク去四日波多野三郎、大井兵衛次郎實春、山内瀧

口三郎并大内右衛門尉惟義家人等於東國羽取山、眞志太三郎先生

義廣合戦殆及ニ終日ニ争ニ唯雄、然而遂獲ニ義廣之首云々ト即チ此地ナリ

東國 岡 稻生村字山田ニ在リ岡陵起伏ス總稱シテ東國 岡ト云フ七尾

八谷等ノ勝地其下ヲ繞ル東方内海ヲ望ミ遙ニ三河、尾張ノ海峽ニ對

ス風景佳絶ナリ里人傳ヘ云フ崇神帝ノ時保食神ノ夢兆アリ告グル

ニ此地嘉穀アルヲ以テス帝群臣ト議シ國造道上楯並命、高向臣葛木ニ

詔シテ本村ニ求メシム果シテ嘉穀ヲ得タリ因テ保食神ヲ祭ル稻生

村ノ名亦之ニ基クト寛延三年村人秋田太兵衛等立ツル所ノ碑アリ

社記、五
鈴遺響

例^{イキス}洲橋^{齋塚} 窪田村東南伊勢街道ニ属ス相傳フ往昔齋内親王下向ノ時此河洲ニ禊シ齋殿ニ入り玉フ故ニ名ヅク橋ヲ距ル一町許古塚アリ齋殿ノ址ナリト一説ニ云フ往古ノ官道ハ此處ニ非ズ此ニ齋王禊禊セラルハノ理ナシト里人ヨメ塚ト呼ブ蓋シ齋妻國音ノ訛レルナラン勢國見聞集五鈴還響

偽橋 忍田村永隆寺ノ前ニ在リ今長壹間ノ石橋タリ傳ヘ云フ往昔不孝ノ子某アリ其親死ス爲メニ一橋ヲ架シテ冥福ヲ祈ル親夢ニ村人ニ告ゲテ曰クいきてさへかけて頼まぬ我身を死てかくるハいゆさりの橋ト言畢テ覺ム村人之ヲ異トス蓋シ其實ニ追悔ノ心ナク徒ニ事ニ托シテ衆人ヲ欺キシナリ是ヨリ遂ニ此名アリト五鈴還響

邑里

白子村舊名白兒舊栗真庄ト稱ス村ノ中間ニ元ト制札塲アリ是ヨリ南ヲ栗間ト云ヒ北ヲ江島ト云フ源平盛衰記宇治川合戦ノ條源賴政ノ嫡男仲綱

ノ歌ニ白兒黨一本ニ伊勢武士ニ作ル皆ひをとしの鎧きて宇治の網代よかゝりけるらぬト詠ゼシハ即チ此地所在平家ノ黨類ヲ稱セシモノナリ五鈴還響

木鎌村今五祝村ニ合ス 穉田村同上

秋永村越知村横地村今徳田村ニ合ス

西行

木鎌にて穉田をうれの秋永や稻去ほよきておちこち此里

神 祠

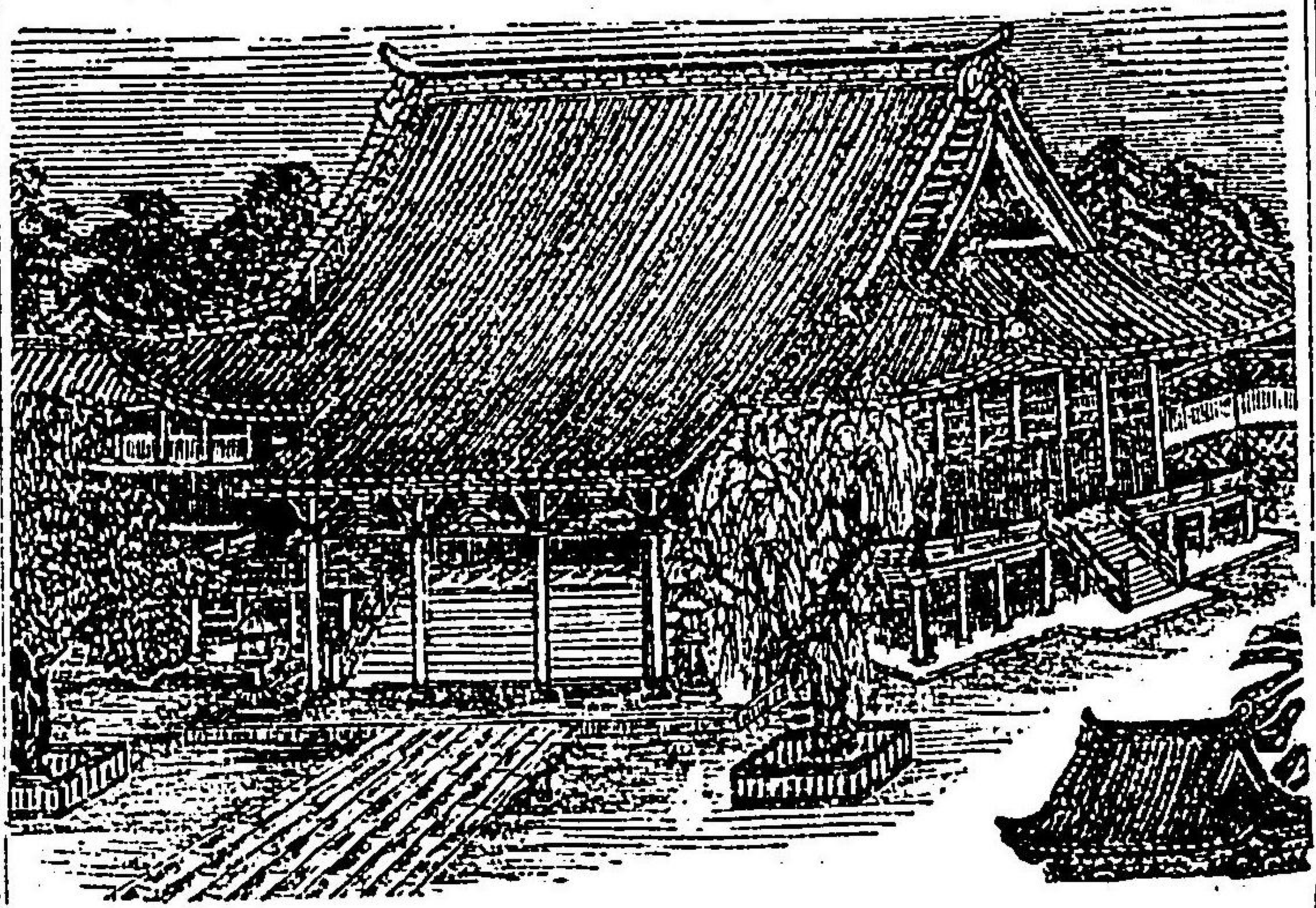
伊奈富神社 稻生村ニ在リ三社ニ分ル一ハ大宮ト稱ス本字楠之ヲ本社トス大國道命保食神ヲ祀ル一ハ三大神社ト稱ス同字ニ鳴電光神及ヒ大山祇命ヲ祀ル一ハ西ノ宮ト稱ス字中豊宇賀能賣神及ヒ稚産靈神ヲ祀ル崇神天皇ノ時之ヲ創建ス祭日陰曆三月三日八月八日社記華表ノ址 寺家村字潜ニ在リ朽根纒ニ存セリ俗呼デ夜泣木ト稱ス傳ヘ

云フ藤原淡海公ノ建立セ
シモノナリト元ト何レノ
社寺ニ属セシヲ審ニセズ
或ハ云フ此地往昔比佐豆
知神社アリ是其舊址ナリ
ト又云フ稻生村稻生神社
鳥居ノ址ナリト 勢國見冊集
古老口碑

梵 刹

專修寺菩提樹枝垂柳 一身田
村ニ在リ境内面積壹万八
百六拾四坪真宗高田派ノ
總本山ナリ宗祖親鸞嘉祿

專 修 寺 ノ 圖



二年下野國芳賀郡大内庄柳島ノ地ニ創立ス後堀河天皇專修阿彌陀寺
ノ号及ヒ勅願所ノ繪旨ヲ賜フ寛正六年十世ノ祖真惠今ノ地ニ移ス
文明九年六月後土御門天皇專修寺門流任先規不可有相違ノ繪旨ヲ
賜フ是レ天皇即位ニ繪旨ヲ賜フ始メニシテ歷世恒例トナレリ十年
三月勅シテ祈願所トス天正中織田信長當寺門前陣取放火軍人乱暴狼
籍竹木伐採等ヲ禁止スルノ制狀ヲ寄ス十二世堯惠ノ時門跡號ヲ勅
許セラル徳川家康豊臣秀吉亦同上ノ制狀ヲ寄ス慶長中秀吉寺領三
百五拾石ヲ寄附シ万治中藤堂高次三万千餘坪ノ地ヲ寄附ス今直
末六百廿五箇寺アリ本州無比ノ巨刹タリ寺記
菩提樹枝垂柳 菩提樹枝垂柳 大師堂ノ前面左右ニアリ共ニ高三間回リ貳尺七八寸
許枝葉稠密鬱蒼タリ始メ本寺ノ宗祖親鸞下野柳島ニ到ル日既ニ暮
ル其地一大石アリ終夜之ニ踞シテ念佛ス一童子アリ柳枝下紗囊ヲ

持チ告ゲテ日ク宜シク此地ニ伽藍ヲ建立スベシ携フ所ハ西天白鷺池ノ柳枝及ビ佛生國菩提子ナリ以テ汝ニ與フト言畢リテ見エズ大師之ヲ異トシ以テ地ニ植ウ遂ニ巨樹トナル此ニ專修寺ヲ建立ス後中興僧眞惠寺ヲ此地ニ移ス時根株ヲ分チ移植ス今存スルモノ是レナリ寺記

觀音寺不斷櫻 寺家村ニ在リ眞言宗遍照光院末チリ天平勝寶中藤原不比等創建聖武天皇ノ勅願所タリ天平寶字中火災ニ罹ル灰燼中ヨリ櫻一株ヲ生ズ花常ニ斷エザルヲ以テ不斷櫻ト名ヅク稱徳天皇ノ淑聞ニ達シ之ヲ南庭ニ移シ栽ラレシニ一夜ニシテ枯衰ス因テ御製一首ヲ添ヘ本寺ニ返シ給フ此樹猶存シ本尊觀音ト共ニ頗ル世ニ名アリ寺記五稱徳天皇御製ニ
誓ありていゆも櫻の花なれに見る人さへも常盤なるへし

俳句

宗祇

冬咲ハ神代もたのぬさくらあめ

原野

豊久野トクノノ一ニ豊國野又等由 錢掛松 高野尾、標本ノ諸村ニ亘ル往昔曠原タリシガ漸次開拓シテ耕宅地トナセリ錢掛松ハ高尾村字錢懸伊勢別ニ在リ老幹一株鬱然タリ傍ニ小祠アリ天照大神ヲ祀ル中ニ朽松長貳尺餘ノモノヲ藏ス往古錢懸松ノ遺物ト稱ス俗傳ヘ云フ雄略帝ノ時丹波國ヨリ等由氣大神ヲ山田ニ遷ス時假宮ヲ此ニ營ス里人其址ノ没スルヲ憂ヒ松ヲ植エ爰ニテ神宮ヲ遙拜シ賽錢ヲ樹枝ニ掛ク故ニ名ヅクト五鈴遺響ニ云フ往古官道此地ニ非ズ行宮或ハ云フ往昔神宮ニ詣デントスルモノアリ此ニ懋ヒ里人ニ道ヲ問フ給テ日ク豊久野十日程ヲ費シ長野七日程ヲ費シ三渡三日程ヲ費スト旅人惘然一貫文ヲ

樹枝ニ掛ケ遙拜シテ去ル里人其錢ヲ褫ハントスレバ忽チ蛇蝎ニ變
ズ恐レテ近ヅクモノナシ旅人國ニ歸リシ後其給カル、ヲ知リ再ビ
此ニ到ル錢故ノ如シ因テ此名アリト倭漢三才圖繪勢陽雜記惠日堂舊記 此他俗説少
カラズ其名噴々タルヲ以テ之ヲ載ス

伊勢紀行

堯行

なひくてふ民の草その未なれやとしもとよくの野への道しと

錢掛松

山崎暗齋

豊久野中鷹尾東、蒼龍蟠屈勢崇々、不仁欺瞞人鳥有、遺臭万年錢掛
松、

濱海

小丹浦

オホベタ 大部田村東面ノ邊海ヲ指稱ス或ハ云フ飯野郡瀕海ノ地ナリ

ト

海邊松

佐々木弘綱

あわれありをよの汝屋の一松からき世をへて水さひよけり

白子濱

一名鼓浦

白子村及ビ寺家村ノ東方一帶ノ海濱ヲ稱ス里人云フ往昔

海濱白色ノ貝石多シ因テ名ヅク又波浪ノ聲鼓ノ如シ故ニ鼓浦ノ名

アリト東方遙ニ尾張知多郡ニ對シ南ハ本州朝熊等ノ諸山ヲ望ム白沙

青松相映シ風景畫クガ如シ此地ニ接スル海濱ニ尾前浦、別保浦、白塚

浦アリ風景之ニ亞グ五鈴遺傳三國地誌

長久元年歌合

月影と白子比濱の白貝の波もひとつに見えわかぬるを

藻鹽草

いくよ絲ん白波よする白子濱はま松か糸に松の折しき

初冬白子望海

赤須真人

蘆荻寒風起、吹吾衰老顔、漁舟盛網泛、鷗鳥得魚間、日挂江頭樹、天晴
海外山、鐘聲三五動、惜別晚潮還

谿 淵

片淵 椽本村字目細ニ在リ田圃ノ傍ニ方壹間許ノ堀形ヲ存ス俗關屋
ノ清水ト稱ス傳ヘ云フ往昔此地關門アリ僧西行嘗テ此處ヲ過ギン
トス關司許サズ西行曰ク身已ニ出家タリ何ゾ害アラント關司告グル
ニ國守ニ請ヒ然後通ズベキヲ以テス西行乃チ關傍ニ在リ其館中ニ
酒器ノアルヲ見テ歌ヲ詠ジテ曰ク

壺のうちよおほひをたりし梅は花まつ酒ひとつ春は去る去に
關司返歌ニ

壺はうちよ句ひし花の散とて、霞を殘る春は去るしに
關司又酒糟ヲ饗ス盛ルニ偏縁ノ折敷カマアチルヲ盛カマアチヲ以テス西行又詠ジテ

曰ク

かゝふちよ身を投はやと思へともさすかよ命をしき成らん
又返歌ニ

身をすてゝ憂世を渡る修行者の何よ命此を去きあるらん

右詠シ畢テ遂ニ關ヲ出ヅ是ヨリ遂ニ片淵ノ名アリト五鈴遊響集

洞 窟

石山洞 楠原村字石山ニ在リ岩石列峙ス山頂ニ巨巖アリ兩淵ノ間ニ
跨ル形チ馬背ノ如シ方俗呼デ馬ノ背ト云フ北方、鷄足、鎌ガ岳ノ諸山
及ヒ内海遠近ノ勝一望盡スベシ山上巨石高四丈許阿彌陀像ヲ刻シ山
麓ノ石ニ地藏佛ヲ刻ス傳ヘテ僧空海ノ所作トナス嘉永元年一月本
村淨蓮寺僧覺順山腹ノ巨石ニ觀音像ヲ摸刻ス一町餘南ニ清泉アリ傍
ノ石ニ亦地藏ニ軀ヲ刻ス詣拜スルモノ多シ稱シテ石山觀音ト云フ

寺記、古
老口碑

窟不動

楠原村字向市場ニ在リ東北ハ平坦ニシテ田畝相連リ西南山脈ヲ負ヒ樹木森々タリ石窟深ニ丈許不動佛三體ヲ安置ス一軀ハ傳ヘテ大同中ノ作トナス寛文中宗泉ナルモノ之ヲ修理ス左右ノ兩體ハ天保十一年森藤三郎ノ彫刻スル所ナリ傍ニ飛泉アリ涓々相落チ山中ノ景幽邃ヲ極ム本村
舊記

池 泉

産湯井 三宅村字金堤ニ在リ方四尺蓋フニ瓦屋ヲ以テス古老相傳フ夢窓國師此地ニ生ル乃チ當時用フル所ノ産湯水ナリ又近傍ニ夢窓櫻アリ國師ノ植ウル所ナリト今、枯死シテナシ勢國見聞集
三國地誌僧空海加持水 本郡ニ弘法井ト稱スルモノニアリ一ハ三行村字狹間脇ニ在リ井形ナシ清水之ニ盈ツ一ハ上野村字中町國道ノ傍ニ在リ

圍三間餘方形ヲナス蓋フニ屋宇ヲ以テス清泉涌出常ニ絶エズ味極メテ淡爽ナリ旅人渴チ醫スル者多シ

古屋草紙

西 行

弘法此傳りたる井戸ハ三行なるなられ久しき清き水上

樹 石

九本松址一ニ伊勢松或ハ野崎九本松ト稱ス睦合村字蟹田ニ在リ高貳拾間餘周圍三丈五尺枝葉延ビテ方拾三間ヲ蔽フ一根九幹タリ故ニ此名アリ蓋シ往昔一里塚ヲ築クノ際植エシモノナラン明治十九年三月伐リテ薪材トナセリ惜ム可シ古老
口碑

棕本、大棕 棕本村字愛宕町光月寺ノ南傍ニ在リ高貳拾五間周圍四丈枝葉縱横貳拾間餘ニ及ブ世人大棕ト稱ス其名尤モ著ル

盛光松 久知野村ノ北端字古里ニ在リ老松一株小丘ノ上ニ蒼蔚タリ

俗、盛光ノ松ト云フ此地東方渺平タル内海ヲ隔テ尾參ノ諸山ヲ望ミ
風光甚々佳ナリ明治十五年地方有志者相謀リテ西國三十三所ノ觀
音像ヲ眞ク春夏ノ候來拜スルモノ多シ

腰掛松一名 蛤松

上野村字山一色ノ海邊松林ノ間ニ在リ高四間半幹枝横

張、方貳拾間ニ及ブ恰モ蛤ノ足ニ似タリ往昔勅使神宮ニ詣ル路ニ

父ノ喪ヲ聞キ巾子ヲ松上ニカケテ還ル多氣密堂 五鈴遺響或ハ云フ僧樂阿彌

一脱ニ樂阿彌ハ僧ナルモノ廻國シテ此ニ至リ松樹ニ踞ス因テ名ヅクト
一休ノ別名ナリト

勢陽雜記
勢國見冊集

嫉妬梅址 一身田村專修寺鐘樓ノ側ニアリシガ今、枯槁シテ其跡ヲ留

メズ寛政中其朽幹尙存セシト云フ相傳フ往昔本村一農婦アリ性妬婢

其夫ノ密カニ外妾ヲ蓄フヲ疑ヒ婦、心燃ルガ如ク菜刀ヲ舉グ夫ヲ打

タントス夫走リテ梅樹ヲ匝ル婦一擊誤リテ樹幹ニ中ツ刀遂ニ抜ケ

ズ是ニ於テ頓ニ悔悟シ後世婦女ノ嫉妬ヲ戒シムル爲メ樹ヲ本寺ニ
移植シ自ラ佛門ニ歸スト云フ寺記

行宮址

豐受大神宮址 高野尾村字東豐久野ニ在リ傳ヘ云フ雄略天皇ノ時豐

受大神ヲ丹波國ヨリ本州ヘ遷スノ時鈴鹿郡神戸ヨリ本村ヘ至リ行

宮ヲ造リ休御セラレシ處ナリト蕙日堂記

敏達天皇行宮址 御蘭村字山城ニ在リ今、耕地タリ古老傳ヘ云フ敏達

天皇本州ニ行幸セラレ行宮ヲ之ニ設ケ留居スルコト三年還幸セラ

ルハニ及ビ廷臣七人ヲ留メ國郡ヲ治メシム其子孫今尙存スルモノ

アリト

城砦及宅址

分部城址 上野村字城屋敷ニ在リ高丘ニシテ縣道ノ傍ニ屹立ス今、概

子耕地山林トナレリ丘上ニ一喬松アリ回リ丈餘村人云フ内海ヲ往來スル舟子見テ目標トナスト永祿十一年織田信長本州ヲ征シ北畠氏ト講和ノ後弟信包ヲ津城ニ居キ本城ヲ兼知セシム天正十二年羽柴秀吉本州ヲ征スルノ後分部光嘉ヲ此ニ封ズ慶長五年關原ノ役徳川氏ニ属シ富田信高ト津城ヲ守リテ功アリ元和五年光信封ヲ近江大溝ニ移スニ及ビテ城廢ス五鈴遺跡 背國跡

林城址 林村ニ二處アリ一ハ字北浦ニ在リ東南北三方險崖ニ臨ミ西ハ平坦ニシテ耕地タリ松樹疏生ス正應中一ニ明應 作ル長野氏ノ族林祐行城ヲ築キ之ニ居ル數世ノ孫重越ニ至リ關氏ノ一黨ト和セズ爭ヒ止ム時ナシ天文五年十月關盛信自ラ兵ヲ將ヒ鹿伏兎定長ヲ先鋒トシ來リ攻メ之ヲ援ク重越長野ニ奔リ城遂ニ廢ス一ハ字城屋敷、墓谷、宮谷ニ跨ル周圍ハ峻ニシテ概子林藪タリ平坦ノ地今宅地トナレリ本村舊

記ニ云フ天文七年關氏ノ族鹿伏兎定長ノ二子定保城ヲ築キ之ニ居ル林氏ヲ冒ス保春ノ時天正十一年羽柴秀吉來リ攻ム城堅クシテ援ケズ後出デ、降ル秀吉封ヲ但馬ノ一邑ニ移ス十二年長野信包之ヲ領シ壁壘ヲ修補シ津城ヨリ半年毎ニ移リ居ル文祿中秀吉信包ノ所領ヲ沒収シ子信良ニ一萬石ヲ給シ本城ニ居ラシム慶長十年密ニ黨ヲ結ビ亂ヲ謀ル事露レ亡滅ス或ハ云フ徳川氏ノ時故アリ家絶スト本村舊記 古老口傳

稻生城址 稻生村字城屋敷ニ在リ今小丘纔ニ存シテ耕圃トナレリ本村舊記ニ曰ク大永中和田藏人東國ヨリ本村ニ來ル村民等神領ヲ支配センコトヲ請フ因テ城ヲ築キ之ニ居ル遂ニ近村ヲ服從セシメ名ヲ藤盛ト改ム天正十一年羽柴秀吉瀧川一益ヲ討ツノ時稻生某之ニ從ヒ天花寺小治郎ト一志郡曾原ニ戰ヒ戰死シテ城廢スト按ズルニ稻生氏ノ系統事蹟諸説混淆考フ可ラズ北島氏ノ部下ニ稻生氏俊アリ又盛貞、盛光、貞直ナルモノアリ織田氏ニ

属ス共ニ年號
事蹟詳ナラズ 今暫ク里傳ニ從フ

忍田城址 忍田村字城山ノ丘上ニ在リ漸次開墾シテ畑地トナス白河
天皇ノ時忍田入道城ヲ築キ之ニ居ル歴世之ヲ襲フ其裔美濃守同平
左衛門尉ト稱ス平左ハ藤堂高虎ニ仕フ安濃郡雲林院村美濃屋神社
ノ棟札ニ康和五年癸未六月二十五日忍田地頭宗重ト記ス蓋シ中世
ノ城主ナラン 五鈴遺響

長法寺城址 長法寺村字古里ニ在リ小丘ニシテ濠形ヲ存ス文治中長

法寺五郎之ニ居ル 五鈴遺響、背書國誌、勢陽雜記拾遺 或ハ云フ片岡六郎左衛門之ニ居リ

シガ永祿十二年織田信長ト戰ヒ鈴鹿郡國府村ニ戰死スト 古老口碑

楠原城址 楠原村字童子谷ニ在リ東北、川ヲ帶ビ丘上平坦ノ處耕地々
リ應仁中山田重勝城ヲ築キ之ニ居ル足利氏ニ從フ後、子孫織田氏ニ
属ス重益ニ至リ近江安土ニ死ス 五鈴遺響、本村舊記 里人云フ本村字向市場ニ一

城址アリ山田重孝分家シテ城ヲ築キ之ニ居リ瀬古氏ト稱セシト

棕本城址 棕本村字東奥谷ニ在リ丘上樹木生茂ス白河天皇ノ時伊藤貞

好之ニ居ル 五鈴遺響、勢陽雜記拾遺

御菌城址 御菌村字城山ニ在リ今、稻荷神社ヲ安ンズ土中古刀、劍具ノ

類ヲ出セシコトアリ往昔伊勢平氏御菌三郎之ニ居ル 五鈴遺響、本村舊記

中山城址 中山村字南垣内ニ在リ今、耕地タリ傳ヘ云フ往昔細野氏ノ
族分部光嘉之ニ居ル後、上野城ニ移ル此地一ノ古墳アリ分部氏ノ族
ヲ葬リシモノナラン

川北城址 川北村字東谷ニ在リ今、耕地及ビ山林タリ長野氏ノ族川北
式部少輔之ニ居ル正平中土岐右馬頭ノ攻ムル所トナリ城陥ル後、安
濃郡雲林院氏ニ從フ内匠助ニ至リテ本村ニ歸住ス其後裔今ニ存ス

五鈴遺響
古老口碑

峯治城址 カサノベ 上津部田村字ヲノ坪ニ在リ今、林藪タリ應永中佐脇勝久城

ヲ築キ之ニ居ル永祿ノ亂城陥リ遂ニ廢ス本村記

三間忠保城址 オホコソ 大古曾村字出口ニ在リ小丘ニシテ草木繁茂セリ文明

中長野氏ノ臣三間忠保城ヲ築キ之ニ居ル永祿十年親俊ノ時城陥リ

戰死シテ遂ニ廢ス四子三郎專修寺ノ家臣トナリ其後裔今ニ存ス同

所ニ親俊ノ墳墓アリ又近傍ニ神ノ野塚アリ落城ノ時寶器ヲ埋メシ

處ナリト云フ五鈴遺響 古老口碑

高野尾城址 高野尾村字三月田ニ在リ今、官林タリ岡定重之ニ居ル元

文元年四月平氏ノ族亂ヲ作ス定重之ニ與ミシ京都守護平賀朝雅ノ爲

メニ攻ラレ自殺ス東鑑、背書國誌

川瀬城址 北黒田村字堤谷ニ在リ今、耕宅地及ビ山林トナレリ傳ヘ云

フ康正中川瀬宣光城ヲ築キ之ニ居ル廣信ニ至リテ織田信長ニ滅サ

ル子宗信其子宗光等姓ヲ岡ト改ノ本村ノ農トナルト或ハ云フ伊勢平
氏ノ黨黒田左衛門之ニ居ルト五鈴遺響 古老口碑

三宅城址 三宅村字志此ニ在リ今、耕地タリ往昔棋野秀盛肥後國山鹿

庄ヨリ本村ニ來リ城ヲ築キ三宅駿河守ト改メ之ニ居ル四代ノ孫藤

重永祿十二年織田氏ノ爲メニ攻ラレ城廢ス背書國誌 本村舊記

今城砦址 クニヒラ 楠平尾村字童子谷街字ニ在リ天正二年瀧川一益雲林院出羽

守等林城ヲ攻ムルノ時支城ヲ此ニ設ク勢陽 但誌

夢窓國師宅址産湯井 三宅村字金堤ニ在リ今、耕地タリ傳ヘ云フ夢窓

此ニ誕生ス本村舊記ニ云フ國師ノ父東條朝綱ト稱 側ニ御曹子山アリ國

師幼時逍遙セシ處ナリト享保六年山城天龍寺ヨリ一寺ヲ此ニ建テ

曹源山輪聖寺ト稱ス國師ハ該寺ノ開山タルヲ以テナリ明治五年廢

寺トナル堂宇ハ今、本村簡易科授業所トナレリ勢陽 但誌 古老口碑

按ズルニ五鈴遺響ニ云フ此地往昔郡家ノ在ル所ニシテ即チ國司ノ別府タリ國師國司邦音相同ジキヲ以テ後人遂ニ夢窓ノ事ヲ附會セシナリト記シテ參照トナス

信太長者宅地 秋永村ニ在リ河曲郡河田村本立寺ノ本尊ハ長者ノ護持佛ニシテ添文ニ長橋中將信太長者云々トアリ三國地誌蓋シ往昔本村近傍ヲ傾セシ莊司ノ宅址ナラン

今井氏宅址 豊野村字今井ニ在リ今宅地タリ一志郡八知村今井庄兵衛家系ニ今井惟氏五延元三年南朝ニ仕ヘ北畠顯能ニ屬シ今井村今村ニテ傾ス云々ト記ス蓋シ其址ナラン

野呂氏宅址 標本村字殿町ニ在リ今耕地ニ屬シ濠址ヲ存ス傳ヘテ往昔雲林院出羽守ノ臣野呂民部少輔宅址ナリト云フ

館址

政所址 政所窪田村字大垣内ニ在リ今耕地タリ東鑑文治三年四月丙申ノ條ニ窪田庄地頭因幡前司廣元ト記ス蓋シ此地官廳ノ在リシ所ナラン

古墳

見真大師墓中興僧真惠墓 一身田村專修寺境内ニ在リ面積五百七拾壹坪四方塀垣ヲ繞ラス中央ニ石廟ヲ安ズ正面ニ拜堂唐門等アリ真惠及ビ歷代墓ハ其左右ニ侍列ス大師幼名十八公曆後親鸞ト改ム僧源空ヲ師トシ淨土門ニ入ル後真宗ヲ開ク嘉祿二年下野柳島ニ一寺ヲ創立シテ之ニ住ス弘長二年十一月寂ス壽九十明治九年十一月朝廷見真大師ノ謚号ヲ賜フ第十世ヲ真惠トス長祿三年北陸諸國ヲ巡化シ近江ヲ經寛正元年本州ニ入ル朝明郡大矢知村三重郡小松村鈴鹿郡原村等ニ在リテ寺院ヲ設ケ教化スルコト數年同五年一身田村ハ

宗祖ノ舊蹤タルヲ以テ下野專修寺ヲ此ニ移シ永ク法鼎ヲ定ム永正九年十二月寂ス壽七十九著ハス所教書若干部アリ

分部光嘉墓 上野村圓光寺境内ニ在リ石壇ヲ築キ塔石數基ヲ列ス光嘉長野氏ノ族細野藤光ノ第三子ナリ分部氏ヲ嗣グ慶長六年十一月卒ス乃チ此ニ葬ル又本村耕圃ノ間ニ碑アリ光徳院殿封塚ノ六字ヲ刻ス後ニ圍凡ソ四尺許ノ松樹アリ華林松ト云フ光嘉ヲ火化セシ所ナリ三國地誌過去帳

土岐塚 窪田村字北一色ニ在リ面積六坪伊勢別街道ニ沿フ正平中美濃ノ入土岐康政右馬頭後大膳太夫本州ニ入り北畠顯能ノ兵ト戦ヒ敗死ス因テ此ニ葬ル三國地誌勢國見聞集又近傍ニ馬場塚ト稱スルモノアリ里人傳ヘテ馬場某戦死ノ塚トナス

土岐百塚 陸合村字東豊久野原野中ニ在リ傳ヘ云フ正平廿四年九月

北畠顯能ノ兵土岐康政ト此ニ戦フ康政敗走ス戦死スルモノ多シ乃チ其屍ヲ此ニ埋ム故ト數塚アリ俗土岐殿百塚ト云フ今發掘シテ其一ヲ存セリ三國地誌勢國見聞集

石磨首塚 御園村字岩谷ニ在リ面積七坪山林ニ属ス里人石磨首塚ト云フ傳ヘ云フ往昔御園三郎ノ副將戦死スルモノアリ首ヲ此ニ埋ムト今古塔一基ヲ存ス

古戰場

土岐軍場址 陸合村字東豊久野ニ在リ一大原野タリ南朝紀傳ニ曰ク正平廿四年九月北畠内大臣顯能公ノ兵士土岐大膳太夫ガ兵モノト伊勢ノ國ニ於テ合戦土岐ガ兵敗軍顯能公三重郡所々ノ城ヲ攻ムルト蓋シ當時ノ古戰場ナラン

河曲郡

山川

高岡川 本郡ノ西北部ニ在リ乃チ鈴鹿川ノ別稱ナリ鈴鹿郡ヨリ來リ本郡高岡村ノ北邊ヲ過ギ三重郡ニ入ル同村ニ屬スルモノヲ高岡川ト稱ス上流又甲斐川ノ名アリ

海道記

鴨 長明

伊勢人ハヒラ事去けり津島より甲斐川ゆけり和泉野の原

神祠

飯野神社 高市神社 神戸石橋町ニ在リ飯野社ハ豐字氣比賣命高市社ハ高御産靈神ヲ祀ル創建詳ナラズ社傳ニ云フ飯野社ハ即チ神館神明ニシテ舊ト飯野村今西條村ニ在リシヲ神戸築城ノ時今ノ地ニ移ス高市社ハ十日市ニ在リシヲ後世遷シテ合殿トナスト祭日二月十一日九月十一日

大鹿三宅神社址 國分村字大金谷ニ在リ舊名大鹿山西北二面土壘ヲ存シ南ハ耕地ナリ又大塚アリ三百坪餘大鹿ノ大塚ト稱ス往時土中ヨリ三宅神社ノ紋ヲ印セル古瓦ヲ出セリ其舊地ナルコト知ルベシ蓋シ建武以降ノ國乱ニ衰廢セシナルベシ古老口碑

梵刹

龍光寺 神戸石橋町ニ在リ臨濟宗東福寺末ナリ應永三十年正月北畠滿雅勅ヲ奉ジテ創立ス僧大折開基後花園院後奈良院ノ勅願寺タリ初メ西條村字澤ニ在リ大伽藍ニシテ塔頭六十坊免許地貳萬三千石アリシ弘治中今ノ地ニ遷ス徳川家光石川總茂及ビ本多氏亦寺領ヲ寄附ス今境内佛堂五宇檀徒七百三十餘戸アリ寺記
國分寺 王城櫻 國分寺村ニ在リ聖武天皇天平九年僧行基創立源賴朝之ヲ中興ス建武以來數々兵燹ニ罹リ衰廢セシガ明治十七年堂宇ヲ

再建セリ近傍土中ヨリ往々古瓦ヲ出スコトアリ斫リテ以テ硯ニ製
 スベシ又近傍字木田坂上ニ王城櫻アリ傳ヘテ往昔聖武帝此地ニ行
 幸ノ時手植アリシモノナリト云フ今舊株已ニ朽チ新葉ヲ生ズ
 無量寺址 下箕田村字前條ニ在リ今耕地タリ往昔ハ眞言宗ナリシガ
 僧寂雲在住シテヨリ臨濟宗ニ改メ東福寺末ニ歸ス永祿十一年織田
 信長ノ兵燹ニ罹リ堂宇燒盡シテ遂ニ廢ス本尊阿彌陀佛ハ著名ノ靈
 佛ナリシガ往昔鈴鹿郡國府城主之ヲ國府村ニ移ス永祿中織田信包
 安濃郡津城ニ居ルノ時又移シテ津觀音寺内、大寶院ニ置ク今猶之ヲ國
 府ノ彌陀ト稱ス 五鈴遺響、三
國地誌、寺記

濱海

奈古濱 北長太村ヨリ下箕田村ニ至ル一帶ノ海濱ヲ稱ス白沙鮮明眺
 望ニ適ス此地往昔尾張津島ニ達スル渡口タリ後世今ノ官道ニ變セ

シヨリ遂ニ之ヲ廢ス海中往々厩氣樓ヲ現出スルコトアリ 三重古事記
稿伊勢名所

園林

若乃松原 古香乃松原ニ作ル
又田鶴濱ト稱ス 行宮址 南若松村ノ海岸ヲ云フ眺望絶佳ナリ
 古老傳ヘ云フ聖武天皇本州ヘ行幸ノ年行宮ヲ此ニ設クト今宮址、松原
 共ニ其址ヲ止メズ又云フ本村海岸ハ常ニ南洋激浪ノ嚙滅ズル所トナ
 リ積年ノ久シキ三四町ノ土地ヲ失フニ至リシト由テ考フルニ古松
 原ト稱スルモノ蓋シ共ニ海中ニ没シ今現地ニ假托セルモノナラン
五鈴遺響、三國地
誌、伊勢考古錄

萬葉

聖武天皇

妹爾戀吾乃松原見渡者潮干乃濱爾田頭鳴渡

光明寺入道

續古今

伊勢嶋や若の松原見渡せば夕汝か夢て秋風を吹く

按ズルニ一説ニ云フ聖武天皇御製ハ志摩國英虞郡松原ヲ指セ
ルモノニシテ此地ニ非ズ吾乃松原ハワガノマツバヲ讀ム可
ラザルヲ後人誤リ傳ヘテ本村トナスニ至リシト記シテ參考ト

ス
谿 淵

駒之淵 山邊村字内谷ニ在リ今周回五拾間餘ノ盆地メリ側ニ舊幕吏
巡見ノ標札ヲ建ツ右大將源賴朝卿之逸馬生^{イダマキ}倭出生之地ノ數字ヲ書
ス里人傳ヘ云フ是レ生倭ヲ洗ヒシ所ナリ故ニ此名アリト 勢陽雜記
古老口碑

池 泉

櫻島 玉垣村字櫻島ニ在リ始メ本村ノ地水利甚ダ艱ク人民耕耨ニ怠
ル文化元年藤堂氏吏ヲシテ原野凹形ノ地ヲ相シ池沼ヲ鑿チ之ヲ用

水トナシ中央土ヲ聚メ小島ヲ築キ櫻樹數株ヲ植エ以テ遊憩ノ處ト
ナス傍ニ碑ヲ建ツ郡司農吉田重麗ノ記文河三交ノ書ニカ、ル維新
ノ後荒廢ニ属ス因テ碑ヲ同村字山科ニ移ス

山邊御井 一名五
十師井

山邊村字内谷ノ谿間ニ在リ其水清冷大旱ト雖モ涸
レズ碑アリ山邊御井ノ四字ヲ題シ下ニ緣由ヲ記ス慶應三年神戸城
主本多忠貫ノ建ツル所アリ傍ニ松樹一株アリ御井松ト云フ往時枯槁
ス村人名區ノ湮滅スルヲ痛ミ植ウルニ一株ヲ以テス今繁茂セリ

按ズルニ此地數説アリ或ハ大和國山邊郡氣原村ニ在リトシ又本
州一志郡宮古村忘井ヲ以テ之ニ充ツルアリ加茂真淵ハ度會郡内
宮域内ニ属スルモノトナス本居宣長嘗テ審ニ地勢ヲ按ジ以テ此
地ナリトス今其説ニ從フ

万葉

和銅五年四月遣長田王子伊勢齋宮時山邊御井作歌

山邊乃御井乎見我氏利神風乃伊勢乃處女等相見鶴鴨

夫木

爲家

五月雨之雲間も見えは山の邊のいそしの御井の水増りつゝ

樹石

山邊逆椿 山邊村字會戸ニ在リ高凡ソ九尺圍貳尺數幹ニ分レテ枝葉

繁茂セリ傳ヘ云フ源範賴平氏追討ノ時駿馬生啜出生ノ地ナリトテ

此地ヲ過グ其携フル所ノ椿杖ヲ地ニ植エテ曰ク此行我能ク平賊ヲ

戮サバ此杖必ズ枝葉ヲ着ント後果シテ其言ノ如クナリシト勢國見聞集 古老口碑

金玉松 岸岡村字雲雀山ニ在リ徑貳尺許其根地上ニ露出ス傳ヘ云フ

往昔源義朝ノ豎澁谷金玉丸尾張國內海ヨリ逃レテ此地ニ來リ樹根

ニ踞ス故ニ此名アリト又別ニ二株アリ一ハ此傍ニアリ一ハ同村光

勝寺ノ南位ニアリ尋常ノ物ニ過キズ共ニ稱シテ金玉松ト云フ俗傳
笑フベシ勢國見聞集 古老口碑

道伯一本松 三日市村字赤禿忍山神社ノ南ニ在ル巨松ナリ道伯ハ疋

田市左衛門ノ別稱ニシテ道伯新田ノ地ヲ開墾セシ人ナリ乃チ其地

ニ存ススルヲ以テ此名アリ本村 舊記

長木大樟 南長太村字天ノ宮ニ在リ高拾間餘周圍四間餘枝葉方貳拾

間ヲ掩フ村人之チ一本木ト稱ス遠望恰モ傘形ノ如シ一説ニ云フ此

地舊字青木ト稱ス青木大木國訓相通ズ或ハ大木神社ノ舊址ナラン

カト記シテ參考ニ供ス

城砦及宅址

神戸城址 神戸字本多町ニ在リ今耕宅地トナリテ濠址ヲ存ス初メ關實治

ノ子盛澄又實重 又實重本郡澤城ヲ築キ之ニ居ル四世具盛ニ至リ本城ヲ築キ

移リ居ル一、既ニ七世友盛築ク所トナス友盛ノ時ニ至リテ永祿中關氏諸族ト長野工藤氏ノ兵ヲ三重郡鹽濱ニ迎ヘ撃チ之ヲ破リ威武大ニ振フ十年織田信長北郡ヲ攻略シ尋テ高岡城ヲ圍ミ將ニ本城ニ迫ラントス既ニシテ和成ル信長其三子信孝ヲ以テ友盛ノ嗣トナシ北郡ヲ鎮セシメ友盛ヲ澤城ニ賓ク信孝乃チ天守ヲ築キ鷗尾ヲ置キ城郭ヲ修造ス天正十年信孝京師ノ亂ヲ鎮定シ岐阜ニ歸ル本城ヲ小島兵部少輔ニ與フ廿一年是ヨリ先キ信孝、信雄ト隙アリ信雄ノ臣林與五郎攻メテ之ヲ取り入テ神戸氏ヲ嗣グ神戸與五郎ト稱ス十二年信雄、羽柴秀吉ト兵ヲ構フ秀吉ノ將蒲生氏郷、關万鐵等來リ攻ム城支フル能ハズ與五郎尾張ニ奔ル後、生駒親正、水野忠重、瀧川雄利等諸氏交々代リテ之ニ居ル慶長五年代官水野九右衛門之ヲ支配ス六年三月一柳直盛之ニ居ル寛永十三年伊豫西條城ニ移リ代官佐野平兵衛代リテ之ヲ支

配ス慶安四年石川總長封チ此ニ受ク總茂ノ時ニ至リテ享保十七年三月常陸下館ニ移ル本多忠統之ニ代ル大ヒニ城郭ヲ修理ス歴世之ヲ襲フ明治二年忠貫版籍ヲ奉還シ城廢ス八年城郭拂下トナレリ九年十月有志者謀テ碑ヲ天守臺址ニ建ツ神戸人福井邁之ガ文ヲ撰ス

神戸録、神戸雜記、五
鈴遺響、背書國誌

高岡城址 高岡村字茶山ニ在リ南、高岡川ニ臨ム石壘礎石及ビ諸士邸址等尙存ス永祿中神戸友盛ノ臣山路彈正忠城ヲ築キ之ニ居ル永祿十一年織田信長北郡ヲ攻畧シ瀧川一益、楠十郎、南部遠江守等ヲシテ本城ヲ攻ノシム援ク能ハズ後、和陸ス元龜二年信長其三子信孝ヲ以テ神戸氏ヲ嗣ガシム山路等陰ニ服セズ信孝ヲ蔑如ス信長怒リ友盛ヲ幽シ山路ヲ誅ス仍テ小島兵部少輔ヲシテ之ニ居ラシム後、兵部神戸ニ移リ城廢ス背書國誌、古屋
草紙、五鈴遺響

(河曲) 城砦及宅址

二百九十二

鬼神岡城址キレノカ 城一ニ岸岡 岸岡村字鬼神ニ在リ一高丘タリ關東ノ士佐藤中務大輔一ニ少輔 城ヲ築キ之ニ居ル神戸氏ニ屬ス弘治三年近江佐々木義賢ノ臣小倉三河守朝明郡柿城ヲ攻ム神戸利盛往テ之ヲ救フ中務及ビ其子又三郎叛ヲ謀リ盧ニ乗ジテ近江ノ兵ヲ導キ神戸城ヲ取ル中務ノ臣古市與助亦叛テ神戸氏ニ内應シ關一黨ノ兵ヲ誘ヒ大ニ小倉ノ兵ヲ敗ル利盛中務父子ヲ誅ス城遂ニ神戸氏ノ有トナル天正中神戸氏滅ブルニ及ビテ城廢ス背書國誌 神戸家臣錄

澤城址一名神戸西 西條村字城挂及ビ荒堀ノ間ニ在リ今耕地タリ南北纒ニ遺跡ヲ存ス正平二十二年神戸始祖盛澄城ヲ築キ之ニ居ル具盛ノ時ニ至リテ神戸城ニ移ル元龜中七世友盛織田信長ノ三子信孝ヲ養ヒ嗣トナシ本城ヲ以テ其隱居所トナス天正十二年羽柴秀吉神戸城ヲ攻ムル時友盛本城ヲ棄テ安濃津ニ奔リ死ス蓋シ此時城廢セシナ

ヲン背書國誌五鈴 遺響神戸錄

若松城址 南若松村字惠花山ニ在リ今耕地タリ三浦盛時之ニ居リ若菜五郎富田基度等ト平氏ノ餘黨ヲ募リ乱ヲ作ス元久元年四月京都守護平賀朝雅討チテ之ヲ平グ盛時誅ニ服シ城遂ニ廢ス背書國誌 五鈴遺響

土岐城址 上箕田村ニ在リ今詳ナラズ古老傳ヘ云フ土岐興安世保持頼之ニ居ルト

按ズルニ古屋草紙ニ應永中足利義滿將軍ノ沙汰トシテ本州守護代ニ土岐世保ヲ任ジテ若松ヲ領ス云々ト記ス而シテ五鈴遺響ハ土岐興安世保持頼ノ二人ニ作レリ孰レカ是ナルヲ知ラズ蓋シ世保氏ハ土岐氏ノ族ナルガ故ニ土岐世保ト稱セシモノカ

木田堡址 木田村字磐城山ニ在リ三方壑ニ臨ミ一方ハ平坦ナリ古老傳ヘ云フ山路彈正忠ノ族某之ニ居リシト

(河曲) 城砦及宅址

二百九十三

山邊赤人宅址 經塚、赤人硯水 山邊村字會戸ノ山上ニ在リ松樹茂生ス側
 ニ經塚アリ往時土中ヨリ佛經ノ一字ヲ書セル小石ヲ出セリ又山麓
 ニ古井アリ清水常ニ盈チテ涸乾ノ患ナシ碑アリ山邊赤人井數字ヲ
 刻ス相傳フ往昔赤人居住シ常ニ此井水ヲ用ヒ筆硯ニ供セリ後年朝
 廷試筆ノ時亦之ヲ獻ジ歲以テ例トナス勢陽四誌、勢陽釋
 記、勢陽四誌拾遺

按ズルニ赤人ノ故居ト稱スルモノ大和、上總、越前、近江等數處ニア
 ルコト諸書ニ散見ス未ダ孰レカ是ナルヲ詳ニセズ今暫ク疑ヲ書
 ス

松平廣忠寓居址 神戸石橋町龍光寺境内ニ在リ天文七年三月松平廣
 忠國乱ヲ避ケ本州ニ航シ神戸吉良持廣ニ頼ル家臣安部正澄等數人
 之ニ從フ吉良氏本州ニ在ル
 コト其由ヲ記セズ八年正月冠ヲ加フ持廣、鹿伏兔將監ヲ遣リ
 回復ヲ今川義元ニ請ハシム廣忠又時ニ山田ニ遊ビ春木太夫ノ家ニ

居ル九月持廣卒シ子義時心ヲ翻ヘシ織田信秀ニ黨ス正澄等其變
 アランヲ慮リ廣忠ヲ奉ジテ三河ニ歸ル徳川歴代増補
 武徳大成記

山邊真人春日寓所址 所在詳ナラズ蓋シ本郡山邊村ナラン日本後紀纂
 ニ延暦十二年八月丁卯山邊真人春日紀朝臣國共ト佐伯宿禰成人ヲ
 謀殺ス明日事覺ル逃レテ伊賀ニ隠ル桓武天皇震怒アリ天下ニ募リ
 求ム後伊勢國ヨリ之ヲ捕ヘテ以聞ス巨勢朝臣島人ヲ遣リ格殺スト
 記ス蓋シ其產地ナルヲ以テ此ニ來リシナラン

馬入道宅址 柳村字馬場ニ在リ今耕宅地タリ相傳フ僧能因ノ子月並
 藏人本州ニ住シ柳馬入道ノ養子トナリ景員ヲ生ム景員子二人アリ
 加藤太光貞、加藤次景廉ト云フ共ニ源賴朝ニ仕ヘ八牧判官兼隆ヲ討
 チテ大功アリ二人因テ本州ノ地ヲ所領セリ本村加藤氏ニ景廉ノ賴朝
 ヨリ拜受セシ長刀ヲ所持スト云フ三國地誌、背書國誌
 古屋草紙、古老口碇

右馬左衛門宅址 山邊村字前山ト字會戸ノ間ニ在リ今、耕地タリ相傳フ往昔里長春日部某アリ此ニ住ス靈夢ニ感シ鈴鹿郡山畑村ニ至リ孕馬ヲ得養數月牡馬ヲ産ス之ヲ將軍頼朝ニ獻テ生倅ト名ヅク宇治川ノ役佐々木高綱ニ賜フ所マリ頼朝因テ之ヲ賞シ右馬左衛門ニ任ズ是其宅址ナリト云フ 勢陽雜記 五鈴遺響

館址

玉垣別館址 玉垣村字辻ニ在リ今、宅地マリ延寶八年藤堂高久別館ヲ此ニ設ク寛延二年廢ス 三國地誌

古墳

一柳直盛墓 神戸石橋町龍光寺境内ニ在リ塔高七尺五寸直盛監物ト稱ス慶長中神戸城ヲ領ス寛永十三年八月卒ス因テ此ニ葬ル多寶院殿心空思齋居士ト謚ス傍ニ其臣安東助之亟ノ墓アリ

關實重墓 今詳ナラズ西條村ニ龍光寺址アリ蓋シ此地ニアリシナラシ龍光寺舊鬼籬ニ龍光寺殿柏巖松公大居士寶徳元年四月十八日神戸殿ト記ス即チ是ナリ

僧悅與墓 竹野村字寺之山ニ在リ面積廿五坪許一老松アリ俗、開山塚ト云フ悅與ハ神戸龍光寺ノ開基タリ

大日塚 矢橋村字大日ニ在リ俗、鎌倉景政 繼五ノ墓トナス其據ル所ヲ知ラズ近傍ニ小池アリ其魚皆片眼ナリ蓋シ隣村柳村ニ馬入道ノ宅址アリ其地元ト大日堂アリ是其遺跡ノ一ナランカ 勢國見聞集 三五古事記稿

恩徳之碑 神戸新町親音寺境内ニ在リ文化中神戸城主本多忠永卒ス江戸深川靈巖寺ニ葬ル其脱牙一根ヲ此ニ埋ム忠永喜デ人ノ窮ヲ周フ又兵法文學ヲ好ム舊藩人思慕シテ爲メニ碑ヲ建ツ儒臣長野潛ノ撰文ナリ

鈴鹿郡

山川

鈴鹿山 スミカ 坂下村 サカノシメ ノ西端近江國界ニ属ス峯巒重疊樹木陰鬱タリ山間幽谷深谿多シ俗ニ八百八谷ト稱ス登路屈曲極メテ峻ナリ往昔ヨリ稱シテ東海道第二ノ峻難トナス古來鬼魅綠林ノ俗談ヲ傳フルアリ無稽ノ言ニシテ信ズルニ足ラズ

新古今

西行

鈴鹿山うきよをよそよ振捨ていろよなり行我身なるらん

續千載

雅有

鈴鹿山明くちかき天の戸をふり出てなく時鳥の鳴

拾玉

僧 慈鎮

うき身のあふりぬるうへは猶ふりぬ鈴鹿の山の鈴虫の聲

丙辰紀行

林 道春

九折盤紆鈴鹿坡、行人征馬恐蹉跎、祇今四海思風遍、八十瀬河無白波

筆捨山 一名岩經山 又岩根山

市ノ瀬村ニ在リ國道ノ北ニ屹立ス山麓鈴鹿ノ清流瀧

注シ滿山怪岩奇石殊ニ多ク松、楓、躑躅ノ類之ヲ彌縫ス四時ノ景象愛ス可シ傳ヘ云フ往昔畫工狩野元信此景ヲ賞シ將ニ畫ク所アラントス景致忽チ變ジ千態百象雲烟又來リテ之ヲ覆ヒ爲ノニ其真ヲ寫ス能ハズ乃チ筆ヲ投ジテ去ル因テ此名アリト俗傳信ズルニ足ラザルモ亦以テ其名區々ルヲ知ルベシ 聖上兩皇后宮嘗テ此地巡幸ノ時蹕ヲ駐メ觀賞アリシト云フ山中又大黒石、蛭子石等ノ奇岩アリ

名所山

近藤幸殖

よそお見て過へかりけり、畫工も筆捨山のあかぬ氣色ハ

齋藤正謙

千仞峭崖誰得攀、古松倒挂怪巖間、良工心匠不能畫、投筆名高乘筆山、

羽黒山 鷲山村ノ西部ニ在リ岩石層疊峻峭勢ヲ作シ樹木其間ニ鬱茂ス頗ル快觀マリ天守石、布袋石、花瓶石、夫婦石、潛岩、龜石等尤モ著名ナリ山上眺望ニ富ム内海ノ布帆、勢尾、參ノ山岳舉テ眼中ニ在リ景致筆捨山ニ軼駕ス山中羽黒祠アリ古傳ニ云フ元暦元年正月源義經兵ヲ率キテ本州ヲ經、山城ニ至ルノ時佐藤嗣信兄弟之ニ從フ其從士一人關ニ留リ住スルモノアリ出羽羽黒權現ヲ此ニ勸請スト或ハ云フ佐藤氏ノ兄弟之ヲ祀ルト

按ズルニ里人云フ往古ノ官道此ノ山麓ニ属ス所謂筆捨山ナルモノ此ヲ指ス後世道路ノ變遷ニヨリ遂ニ謬リテ市ノ瀬村トナスト

記シテ考索ニ具フ古行書國誌
老口碑

觀音山一名
靈山 新所村ノ北方ニ在リ内海ヲ遙望シ關市街亦山下ニ在リ春時來遊スルモノ多シ嘉永年中關驛ノ人山ノ中央ニ石體觀音佛三拾三軀ヲ安置ス故ニ名ツク

關山一名關
雄山 關驛ノ西方國道ノ傍ニ在ル山ヲ總稱セルモノナラン

三國地誌所載

讀人不知

鈴鹿ある關北雄山と高きれと越て過行秋乃夜の月

御茶屋山 龜山城址ノ北ニ在リ高丘ニシテ風光頗ル佳ナリ北方鷄足、冠嶽、仙嶽等ノ諸山ヲ望ミ又椋川ヲ俯瞰ス長太、若松ノ諸浦等遠ク矚目ノ中ニ在リ承應三年舊城主石川憲之嘗テ別墅ヲ此ニ設ケ遊觀ノ處トナス當時若山八景八境ノ勝アリシト云フ

石大神山 小岐須村ノ西南部字庄内山ニ在リ白色ノ巨岩峨然聳立ス高

貳百間幅五拾間許頗ル壯觀トナス世ニ稱スル所石大神是ナリ御幣川其麓ヲ流ル古老傳ヘ云フ往昔敏達天皇駐蹕アリシ處ナリト

水晶山 安坂山村水晶山ヲ云フ山嶺悉ク白沙ニシテ稍下レバ矮松、岩

石ノ間ニ散點ス西方釜谷川ニ臨ム十數里ノ地一望盡スベシ山中鳥

水晶及ヒ鑛屬ノ脈アリト云フ

雨引山一ニ天比丘 安阪山村ニ在リ圓形ニシテ頂頗ノ如シ降雨ノ時山

上雲霧繚繞ス里人之ヲ見以テ晴雨ヲトス故ニ此名アリ

多津我美坂一作ニ坂 或ハ鈴鹿山ノ坂路ナリト云ヒ又一ノ瀬、沓掛ニ

村ニ係ル國道ニアリトナス前説或ハ是ナラン三國地誌、勢國見聞集

夫木

讀人不知

秋をばはれもほゆるかな鈴鹿山鹿と霧との立かきの坂

鈴鹿川八十瀬川、關川、高岡川等ノ別稱アリ 加太、坂下諸村ノ山間ヨリ發シ諸澗流ヲ合シ

東流シテ河曲郡ヲ過ギ三重郡ニ至リ内海ニ注グ

万葉

讀人不知

鈴鹿河八十瀬渡而誰故加夜越爾將越妻毛不在君

後撰

僧正行意

鈴鹿河ふささけとれハ神路山榊のわきて出る月かけ

詞花

皇嘉門院

五月雨の日をふるはゝと鈴鹿川八十瀬の浪を立はさりぬる

御幣川又御幣川、被川、石間川等ノ別稱アリ 本郡ノ西北、大道嶽其他諸山ノ澗間ヨリ發シ

小岐須、伊船ノ數村ヲ經テ和泉村ニ至リ鈴鹿川ニ會ス水中巨岩大石

アリ奔流之ニ激シ或ハ縈洄シテ淵湍ヲナス其水極メテ清冽ナリ傳

ヘ云フ往昔敏達天皇蹕ヲ石大神ニ駐メ玉フコトアリ里人時ニ鮎魚

ヲ此ニ取リ兩大神宮ヲ奉祀ス是ヨリ例トナシ沿村人民每歲六月之

ヲ捕獲シ兩宮ニ獻ズ明治六年迄此事アリシト五鈴遺響 三國地誌
 琴橋址一ニ箏橋 坂下村字古町舊字琴橋ノ址ニ在リ 或ハ新所村字東町南ト南盛ノ中間ニアリト云フ口碑亦同シ
敦レカ是ナ 相傳フ往昔此地ノ小川ニ架セル桐ノ丸木橋アリ水流ノ響
ルヲ知ラズ キ風ニ和シテ自ラ琴聲ニ似タリ朝廷此橋木ヲ六弦琴ニ造ラシメ玉
 ヒ鈴鹿ト銘セシト云フ禁秘抄ニ鈴鹿ハ累代ノ寶物ナリ毎年御神樂
 ニ之ヲ用フト記ス江家次第ニ和琴鈴鹿ハ累代帝王ノ渡物ナリ又百
 鍊鈔壽永二年七月二十五日ノ條ニ平家黨類前内大臣己下一族ヲ率キ
 西國ニ出奔ス天皇建禮門院同ク相具シ奉ル内侍所神鏡神璽寶劔時
 簡殿上御侍子玄上鈴鹿皆以テ相具ス云々ト記ス後建武中吉野亂後
 紛失セリ敦有卿記乃チ其重器ナルコト知ル可キナリ

文治六年歌合

俊成

鈴鹿川桐の古木は丸木橋をききや琴の音よかよふらん

雪玉

關あえて渡るや桐は丸木橋ふるき硯の水のかよひ路

按ズルニ硯ハ昔鈴鹿王ノ作レルモノニシテ伊勢ノ海ト名ヅク
 其摸形鈴鹿ノ社ニアリト北畠材親記ニ載ス

神祠

椿大神社 山本村椿ガ嶽ノ東麓ニ在リ猿田毗古命ヲ祀ル創建詳ナラ
 ズ天正十一年峯城ノ兵燹ニ罹リ殿舎神寶等燒失ス寛永中龜山城主
 本多俊次社殿ヲ修營シ神田ヲ寄附ス後累代城主之ヲ崇敬ス社ニ獅
 子一頭聖武天皇勅額ニヨリ納メ玉フモアリ例歲各郡ヲ巡舞ス祭日九
 月一日ヨリ三日ニ至ル本州ノ一宮タリ

龜山皇大神社 龜山西町ニ在リ伊弉册命、速玉男命、事解男命ヲ合祀ス文
 永中關實忠之ヲ勸請シ龜山權現ト稱ス城内ノ鎮守神タリ龜山城主

世々之ヲ崇敬ス祭日六月十五日社記

眞マコト激神社 龜山中央字舊館ニ在リ舊龜山藩主石川氏ノ祖先源義時以

下累代ノ靈ヲ祭ル延享中石川總慶備中ヨリ此ニ轉封ノ時城内ニ祀

ル明治四年城北若山ニ遷ス九年九月此地ノ士族官ニ請フテ亦此ニ

遷ス祭日三月廿一日九月廿三日社地高燥頗ル眺望ニ富ム

加カ佐サ登神社 高宮村字椎山ニ在リ日本武尊ヲ祀ル社傳ニ云フ尊能褒

野ニ薨ズ此地ニ其持チ玉ヒシ笠ヲ埋ム因テ社ヲ建テ之ヲ祀ル社名

亦之ニ基クト祭日四月八日社記詣者甚ダ盛ンナリ

梵 刹

石藥師寺蒲櫻 石藥師村ニ在リ眞言宗山城大覺寺末ナリ神龜中僧泰

澄此地ヲ過ギ靈光暉々タルヲ見怪ミテ之ヲ求メシニ樹林中ヨリ十

二神出現シ一箇ノ奇石ヲ捧ゲテ泰澄ニ授ク泰澄因テ一堂ヲ建テ、

靈石ヲ安置ス弘仁三年僧空海此ノ石ニ醫王尊ノ像ヲ刻シ開眼供養

アリ嵯峨天皇之ヲ聞キ玉ヒ堂宇造營アリテ勅願場ト定メラレ寺領

ヲ賜フ壽永ノ頃源範賴上洛ノ時戰勝ヲ此ニ祈願ス境内ニ蒲櫻アリ

範賴當時土中ニ挿ム所ノ鞭ヨリ發芽セシモノナリト云フ寺記三國地誌

東海記

烏丸光廣

名よしれと、いさこと問ん石藥師我の思ふ人の上のかよしや

地藏院 毀夷櫻 新所村ニ在リ眞言宗仁和寺末ナリ天平十三年僧行基

創立天台宗ナリ天長中僧應宣堂宇ヲ再建シ今宗ニ改ム本尊地藏佛

ハ僧一休ノ開眼ニシテ其名世ニ高シ境内ニ二大櫻樹アリ雜木其間

ニ繁茂ス名所圖繪ニ現時ハ枯槁スルモ其根存シテ傍ニ別樹下泉水アリ

夏時最モ避暑ニ宜シ傳ヘ云フ往昔蝦夷人櫻ヲ杖ニシ來リ此ニ挿ミ

テ去ル後枝葉ヲ生ズ因テ名ヅクト或ハ云フ藤原定家題詠ノ首句ニ

假托シテ名ケシナリト後説據ル可キニ似タリ寺記、五
鈴遺書

いせの勅使の御ともよて鈴鹿に關てえしよ山中のさく

らさるりありし下よて

えそそきぬこれや鈴鹿の關あらんふりすてかゝき花の蔭りな

野登寺 安坂山村野登山ニ在リ眞言宗仁和寺末ナリ延喜七年四月僧

仙朝醍醐天皇ノ勅願ニヨリ創立ス堂宇莊嚴ニシテ奕世繁盛ナリシ

ガ天正十年兵燹ニカ、リ焼亡ス慶長六年關一政寺領ヲ寄附ス後、龜

山城主代々先規ニヨリテ之ヲ給ス寺地高峻ニシテ眼下十數里ノ地

一日盡ス可シ近傍山中ニ僧仙朝入定石仙朝此岩下ニ入定
シテ歿スト云フ北畠信意潛

居ノ跡アリト云フ寺記、五鈴
遺書

正法寺址 高宮村字的場ニ在リ今耕宅地タリ山中椎樹多シ因テ椎山

ト稱ス傳ヘ云フ天平寶字中聖武天皇伊勢國へ行幸ノ時僧行基創立

ス又源賴朝八拾町ノ田ヲ寄附スト東鑑、文治三年四月ノ條不動仕庄

ノ頃ニ遍法寺領廣元慈悲山領ト記ス即チ是ナリ明治五年無住ニヨ

リ廢寺トナル

觀音寺址 和無田村ワムタノ西南方字三條ニ在リ大同中僧空海創立ス平城

天皇ノ勅願所タリ天喜中安倍晴明此ニ祈願ス文治中僧文覺參籠シ

テ讀經スルコト七日正長元年堂宇頽破セシニヨリ高野山僧珍阿七

堂ヲ再建ス永祿十二年雷火ニ罹リ燒失ス後、高野山僧榮阿近江ノ人

高宮助之丞等亦堂宇ヲ再建ス明治三年廢寺トナル本村
舊記

吉尾道場址 原村ノ西北部字上野ニ在リ一森林ヲナシ樹木鬱蒼タリ

本堂支院及ヒ溝渠等ノ址尙存ス寛正中專修寺中興僧眞惠本州巡化

ノ際本郡小松村中山寺ヨリ此ニ至リ留錫スルコト六年教化大ニ行

ハレシガ峯城主峯筑後守ト意合ハズシテ去ル夜、鷹尾山ヲ過グル時

路關クシテ進ム能ハズ伴僧甚ダ懼ル兵惠乃チ一首ノ歌ヲ詠ズ曰ク
あらくらやほた夜もほろし鷹尾山をやかきたてよ彌陀乃光明ト忽
チニシテ光明晝ノ如シト云フ本村ニ佐藤氏アリ深ク兵惠ニ歸依ス
其去ルニ臨ミテ親鸞上人及ビ聖徳太子ノ木像ト自筆ノ六字名號ヲ
與フ今其家ニ藏ス本村
街記

原野

鞠ガ野 深溝村ニ在リ大野山本數村ノ地ニ亘ル傳ヘ云フ往昔天照大
神、猿田彦命ト共ニ鞠ヲ此ニ蹴ル因テ此名アリト妄誕信ズルニ足ラ
ズ元和二年鳥丸光廣關東下向ノ時ノ歌ニ
立出て露はらひはる鞠か野よまついそゐるゝかへりあしかな
關ノ原 關中町ヨリ木崎村新所村ノ邊昔時ハ曠原ナリシト云フ
夫木

鈴鹿山關の原なる花すゝき袖ふりはへてたれま糸くらん
名馬生倭出生地 三畑村字鳩峯ニ在リ里人傳ヘテ往昔源賴朝ノ愛馬
生倭出生ノ地ナリト云フ

按ズルニ生倭ノ事數説アリ源平盛衰記陸奥七戸産トナシ其他近
江、日向、上野、武藏、上総、相摸等地誌亦其生所トナシテ之ヲ載ス本村
ニ産スト云フモ確説アルニ非ズ參照ニ供スルノミ

園林

龜山公園 龜山字西丸ニ在リ面積貳千百坪餘舊ト龜山牙城ノ地ナリ
明治十九年五月定メテ公園トナス園中古松老杉鬱鬱タリ南方鈴鹿川
ノ清流ヲ俯瞰シ西北郡内ノ山岳ヲ望ム眺望頗ル開豁ナリ東部ニ眞
激社アリ舊藩主石川氏ノ祖先ヲ祀ル

近藤捨子

龜山の古城の跡ハ萬代のあそび所と成よけるゝあ
不言森 大野村字針貫田圃中ニアル一小丘ナリ俗傳ヘ云フ往昔林中
金寶ヲ埋ムルモノアリ遺言シテ曰ク本村疲弊ニ至ラバ宜シク鑿堀
シテ資用ニ供スベシト里人其言ノ漏レンヲ恐レ敢テ林中ノ事ヲ言
フモノナシ故ニ此名アリト

森ノ下 中富田村東海道ノ南川俣神社境内ヲ云フ往昔許多ノ大木ア
リ鬱蒼トシテ晝猶暗ク其名世ニ著シキヲ以テ森ノ下ト呼ベハ往來
ノ客問ハズシテ本村タルヲ知ルト云フ

冷泉爲村

ふる雨ニ風さへ捲ひて多ふ笠の取もしけき森の下道

洞窟

岩窟^{イハヤ} 觀音 坂下村ノ西部字下石倉往還ノ側ニ在リ巨岩高六拾尺許下

ニ岩窟アリ口徑及ビ高共ニ七尺幅拾八尺深八尺中ニ阿彌陀觀音地藏
ノ石佛三軀ヲ安置ス右方瀑布アリ來遊スルモノ多シ傳ヘ云フ元祿
中僧密丹ナルモノ此地ニ留錫シテ造立セシ岩窟ナリト 法安寺
舊記

池泉

寺井^{テラノ}池 下大久保村字寺井ノ南方ニアリ圍六百八拾間餘傳ヘ云フ往

古此井ヲ以テ國分寺用水ニ供ス故ニ名ヅクト 三國
地誌

玉泉^{タマノ} 一名弘 和泉村ノ東方字城ノ上ニ在リ井形ヲナス水清冽飲ム可

シ深草元政嘗テ此地ニ遊ゴト東海紀行ニ見ユ名泉ト云フベシ 五鈴
遺書
無上^{ムシヤウ}冷水^{レイスイ} 西富田村川俣神社境内ニ在リ織田信孝神戶在城ノ時此水

ノ清冷ナルヲ以テ常ニ茶湯ニ供ス此名乃チ信孝ノ命ズル所タリ 五鈴
遺書
芝原名水 野村鈴鹿川ノ邊ニ在リ今耕地ニ屬ス僅ニ幅壹尺許ノ細流ヲ
通ズ水質清冷稱シテ御茶ノ水ト云フ往時舊城主汲ミテ以テ茶湯ニ

供セリ五鈴遺響

頂禮井ナヨクライ井 安坂山村字仙ガ岳ニ在リ溪間岩石削立ス岩上ニ穴アリ諸窟

水流レテ此ニ聚ル更ニ溢レテ瀉下ス溪奥ニ坐禪石アリ俗八疊石ト

稱ス傳ヘ云フ往昔僧仙朝此ニ修禪ス故ニ此名アリ

都追美井ツルミ 古厩村字寶路ニ在リ傍ニ堤井神社ヲ安シズ此地古昔驛家

ノ在ル所ニシテ神宮幣馬ノ舍リシ所ナリ神宮雜例集 古老傳ヘ云フ垂仁

天皇ノ御宇皇大神宮鎮座ノ時倭姫命此井ニテ盥嗽アリ又傍ノ小池

ハ神馬ヲ洗ヒシ處ナリト

万葉

須受我禰乃波由馬宇馬夜能都追美井乃美都乎多麻倍奈伊毛我

多太手與

按ズルニ五鈴遺響ニ日ク萬業集須受我禰乃ハ鈴カ音ナリ波由

馬宇馬夜ハ早馬驛ニテ鈴ガ音ノ早馬トイヒカケタルナリ都追美井

ハ堤井ニシテ即チ井堰ナリ其水ヲ妹ガ手ニテ給ヘヨトヨミタル

ニテ此井ヲ指スノ證ナシ或ハ鈴ガ音ヲ鈴鹿嶺早馬驛ヲ古馬屋ト

解シ爲メニ此井ヲ追々美井ト牽強セシナリト記シテ參照トナス

樹石

不斷櫻ツダシザクラ 坂下村字下中町高家傳次郎庭中ニ在リ圍八尺五寸枝葉凡ソ

方七間餘ニ繁延ス永祿三年其祖五兵衛ノ世自生セシモノニシテ後、

四時常ニ開化ス天保二年三月日野大納言高家氏ニ泊ス賞翫一株ヲ

携ヘ之ヲ仙洞御所ニ獻ズ二十年三月 皇太后宮行啓ノ時此ニ休御

アリ一枝ヲ叢中ニ奉ズ供奉宮因テ歌ヲ上ル

資之

長閑なるこの大御代の庭櫻いつも春よて花の咲らん

夜泣松 羽若村ノ東部ニ在リ龜山城主關氏ノ臣葉若藤左衛門ノ宅址ニ属ス今枯槁シテ僅ニ朽株ヲ存ス土俗傳ヘ云フ小兒夜啼甚シキ時是松片ヲ取り火ヲ點シ兒ニ示セバ其啼必ズ止ムト

屏風岩 鮎留瀑 小岐須村ノ西南字洞城ニアリ巨岩御幣川ノ南北兩岸

ニ壁立シ屏風ノ如シ高大約三拾丈幅四拾丈急流激湍岩石ニ觸レ岩間雜樹繁茂ス春花秋楓澗水ニ相映シ紅錦ヲ流スガ如シ南ニ岩窟アリ深六拾尺石色雪白石鐘乳ノ如シ里人之ヲ骨石ト云フ本郡中ノ勝地タリ然レル山間ニ僻在スルヲ以テ其名世ニ著レズ

鮎留瀑 同村字破塚ニ在リ巨岩對立左ナルモノ高五丈右ナルモノ拾丈許飛泉其岩間ヲ瀉下ス水勢噴激シテ鮎魚此ヨリ進ムヲ得ズ故ニ此名アリ

屏風岩 鬼ガ牙一名 安坂山村ニ在ル石ガ嶽ノ頂上石 字船 ヲ稱ス岩石壁立其

狀屏風ノ如シ又猛獸ノ口ヲ開クニ似タリ頗ル奇岩トナス故ニ名ヅク岩邊忍草風蘭等ヲ生ズ

鏡岩 坂下村字峠ノ山中ニ在リ表面高五尺幅七尺尤モ光澤アリ能ク物態ヲ映寫ス俗鬼人姿見ノ鏡ト云フ五十年前一樵夫アリ山中ニ入り伐木ス夜ニ及ビ柴草ヲ火シ暖ヲ取ル延燒石ニ及ブ遂ニ其光ヲ失スト雖モ今尙紫色ヲ帯ビテ他石ニ異ナレリ

駒爪石 コヤシロ 小社村ノ南部字牧久保ニ在リ徑三尺許圓形ヲナス中央ニ爪痕ニ類スル跡アリ傳ヘ云フ源賴朝ノ名馬生啞本村ニ生育セシ時踏ミシ蹄跡ナリト

行宮址

天照大神忍山遷幸址 野村字忍山忍山神社境内ニ属ス面積千坪許樹木鬱葱タリ傳ヘ云フ倭姬命天照大神ヲ奉ジ本州ニ至ルノ時桑名郡

野代宮ニ鎮座シ玉フコト四年後、本郡忍山ニ遷ル是其舊址ナリト
倭姬命世紀
古老口碑

豐受大神遷幸址 布氣村字日原ニ在リ布氣神社境内ニ屬ス雄略天皇
二十二年七月豐受大神ヲ度會郡山田原ニ奉遷ノ時途次此地ニ鎮座
シ後、山田ニ遷ル鎮座本記ニ鈴鹿郡神戶一宿云々ト載ス即チ是レナ
リ

綺宮址 カキタ 高宮村字王塚耕地中ニ一小塚アリ之ヲ王塚又ハ綺宮崎ト稱
ス往昔景行天皇皇子小碓王東夷征定ノ後此地ニ薨ズルヲ愛慕シ遂
ニ東巡シ此ニ至リ蹕ヲ駐ノ玉フト云フ日本書紀景行天皇ノ條ニ五十
三年、秋、八月丁卯朔、天皇詔群卿曰、朕願愛子、何日止乎、冀欲巡狩小碓
王所平之國、是月乘輿幸伊勢、轉入東海、中略十二月從東國還居伊勢、
也、是謂綺宮、ト記ス即チ是ナリ 五鈴遺響
行宮國誌

天武天皇頓宮址 俗堂ガ坂
ト云フ 川崎村字上垣内一心院境内ニ在リ小阜ニシ
テ周圍土塀ノ址アリ白鳳元年六月天皇本州へ潛幸ノ時少憩アリシ
處ナリ日本書紀ニ越三大山至伊勢鈴鹿、中略到河曲坂下而日暮也、以皇
后疲之暫留輿而息、然夜暄欲雨、不得淹息而進行、云々ト載ス即チ
是地ナリ後人其遺跡ヲ忘レザランガ爲メ觀音堂一字ヲ建テシガ元
文中又一寺ヲ創立ス今ノ一心院是ナリ

聖武天皇赤坂頓宮址 木崎村字内山ニ在リ今、耕地タリ天平十二年十
一月天皇美濃ニ行幸アリシ時神廟ヲ遙拜シ玉フ所ナリ續日本紀ニ
乙未、從河口發到壹志郡宿、丁酉、進至鈴鹿赤坂頓宮、トアルハ即チ是
地ナリ 五鈴
遺響

城砦及宅址

龜山城址 龜山ニ二處アリ一ハ字古城 舊山字ニ在リ今、社地及ビ耕地タ

リ元弘三年初メ平盛國ノ子實忠本郡關谷ノ地ヲ領シ關氏ト稱ス六
 世孫實治一ニ盛忠又本城ヲ築キテ之ニ居ル或ハ云フ元弘以前白子黨伊
 本郡野村城ヨリ五子アリ盛澄盛門、盛繁、盛宗、政實トス本城及ビ神戸、國
 府、鹿伏、兔峯ノ諸城ヲ分治ス關家ノ五大將ト稱ス盛信ノ時ニ至リテ
 永祿中長野工藤氏ト數々兵ヲ構フ近傍諸城皆服從ス後織田氏ノ爲
 メニ近江國日野ニ幽セラル巳ニシテ國ニ歸ル祝髮シテ万鐵齋ト稱
 ス天正十一年正月万鐵及ビ子一政京師ニ在リ家臣岩間八左衛門等
 四拾三人瀧川一益ニ属シ叛ヲ謀ル一益乃チ峯城ヲ拔キ進ミテ本城
 ナ襲ヒ之ヲ取り佐治新助ヲシテ居守セシム十二年四月羽柴秀吉之
 ナ聞キ兵七萬ヲ發シ土岐多羅口、君畑越、安樂越ノ三道ヨリ并ビ進ム
 蒲生氏卿、萬鐵父子ト前隊ヲ以テ來リ攻ム攻圍百餘日新助支フル能
 ハズ城ヲ棄テ、去ル秀吉此城ヲ以テ氏卿ニ賜フ氏卿一政ヲ推シテ

龜山本城丸ノ圖



之ニ居ラシム以テ巳ガ與カトナス氏郷ノ會津ニ封ゼラル、ヤ一政
 從テ移ル十七年岡本宗憲之ニ居ル尋テ城ヲ字舊館ノ地ニ移ス
 一ハ龜山中央字舊館ニ在リ今社地及ビ耕宅地タリ古松翁辭トシテ

石壘濠塹等尙存ス天正十七年岡本宗憲大ニ土木ヲ起シ本丸二ノ丸三ノ丸ヲ經營ス又天守臺ヲ起ス後世之ヲ毀ツ本丸ノ正門ヲ楠門ト云フ東ヲ大手門北ヲ江ヶ室門西ヲ黒門南ヲ青木門ト云フ是ヲ丸ノ内ト稱ス慶長五年九月宗憲石田三成ニ黨シ封除ク三宅康貞之ニ代ル同年關一政再ビ之ニ居ル十五年七月伯耆黒坂城ニ移ル同年松平清匡之ニ代ル元和元年十一月清匡大坂城代トナリ三宅康信來リテ之ニ居ル寛永十三年康信ノ子康盛常陸新治郡ノ地ニ移ルニ及ビテ本多俊次之ニ代ル慶安四年近江膳所ニ移ル石川昌勝封ヲ此ニ受ク寛文九年山城淀城ニ移ル十年板倉重常之ニ代ル重治ニ至リテ寛永七年志摩鳥羽城ニ轉ズ松平乘邑來リテ之ニ居ル享保三年山城淀城ニ移リ板倉重治再ビ之ニ居ル子勝澄延享元年備中松山ニ移ル尋デ石川總慶之ヲ領ス後歴世居城ス明治維新ニ至リテ城廢ス

五鈴遺澤、三國地誌、背書、國誌、龜山錄、北島物語

飛鳥井雅康

名よしかへハ龜此うへある山風乃松よまふある万代の聲

龜山の城ニ住けるころ

近藤幸殖

豊臣の君のあけよし墨繩やたくミ妙あるかめ山此城

峯城址 河崎村字殿町ニ在リ北、東、南ハ水田ニ接シ西ハ小谷ノ山脈ニ連ル高七拾尺山上平坦ナリ天守臺石壘ノ址存ス元弘中關實治ノ五子政實城ヲ築キ之ニ居リ峯氏ト稱ス歴代之ニ居ル七世八郎四郎ニ至リテ天正二年七月織田信長長島一揆ヲ征スルノ時信長ニ屬シテ鹿伏兎六郎四郎、關四郎等ト共ニ戰死ス弟與八郎尙幼ナリ因テ之ヲ他ニ移ス十年岡本宗憲之ニ居ル十一年關盛信ノ臣羽若藤左衛門叛ヲ謀リ瀧川一益ニ屬ス一益宗憲ヲ逐ヒ姪儀太夫ヲ之ニ實ク十二年正月羽柴秀吉兵數萬ヲ率キ來リ攻ム拔ク能ハズ時ニ織田上野介信包

軍ニ在リ功ナシ城兵狂歌ヲ賦シテ城外ニ送ル曰ク上野のぬけ砦は餘
 みないとせず醍醐の寺の刺刀をとけト蓋シ信包嘗テ醍醐ニ住スレ
 バナリ信包又中丸新太夫ヲシテ返歌セシム曰ク春雨は岸峯までも崩
 落つれてなふるゝ瀧川の水ト會々柴田勝家越前ヨリ近江ニ出ツ秀
 吉之ヲ聞キ關木村前野一柳山岡青地等ノ諸將ヲシテ之ヲ圍マシメ
 兵ヲ引キテ歸ル二月秀吉又來リ陣ス攻圍百餘日城中糧盡ク儀太夫桑
 名城ニ遁ル信雄其臣佐久間甚九郎ヲシテ居守セシム四月是ヨリ先
 キ秀吉信雄ト隙アリ因テ再ヒ本城ヲ攻ム甚九郎岐阜ニ逃走シテ城
 遂ニ廢ス勢陽軍記背書 國誌九々五集

國府城址 國府村字長之城ニ在リ概子耕地トナリ周回竹木茂生ス壘濠
 ノ址尙存ス蓋シ往古國府所在ノ地ナラン元弘中關實治ノ二子盛門
 城ヲ築キ之ニ居ル國府氏ト稱ス或ハ云フ國府氏ヨリ築キシモ久シカ

セラズト米々然ル國府氏其址ニ再築 歷世之ニ居ル八世盛邑永祿ノ末織田氏
 ニ屬ス子次郎四郎ニ至リテ天正十二年羽柴秀吉ノ兵峯城ヲ陷ル次郎
 四郎秀吉ニ降ルヲ欲セズ城ヲ棄テ、尾張ニ走ル或ハ云フ信雄ノ爲
 メニ美濃加賀井城城一ニ竹ガ鼻ヲ守リ戰死スト背書國誌三國地 誌鈴鹿郡賦類聚

鹿伏兔城址 加太村字市場ニ在リ雜木繁茂ス山上壘濠ノ址尙存ス古
 井ニアリ大早ト雖モ涸レズ元弘中關實治ノ四子盛宗始メテ城ヲ築キ
 之ニ居リ鹿伏兔氏ト稱ス歷世相繼グ六世ノ孫六郎四郎盛氏一ニ次四 耶耶ニ作ル
 ニ至リテ織田信長ニ屬ス天正二年七月長島ノ乱ニ戰死ス信孝其領
 邑ヲ収メントス其族家長及ビ家臣坂隼人佐愁訴ス因テ采地ヲ減シ
 家長ノ男右馬助ヲ嗣トス文祿二年牢落シテ家絶ス或ハ云フ右馬助
 ハ關ガ原ノ役池田輝政ニ屬シテ戰死スト坂氏ノ子孫今尙本村ニ存
 セリ五鈴遺警 背書國誌

軍ニ在リ功ナシ城兵狂歌ヲ賦シテ城外ニ送ル曰ク上野のぬけ砦は鎗
 よないとせず醍醐の寺の刺刀をとけト蓋シ信包嘗テ醍醐ニ住スレ
 バナリ信包又中丸新太夫ヲシテ返歌セシム曰ク春雨は岸峯までも崩
 落つれてなぐる、瀧川の水ト會々柴田勝家越前ヨリ近江ニ出ツ秀
 吉之ヲ聞キ關木村前野一柳山岡青地等ノ諸將ヲシテ之ヲ圍マシメ
 兵ヲ引キテ歸ル二月秀吉又來リ陣ス攻圍百餘日城中糧盡ク儀太夫桑
 名城ニ遁ル信雄其臣佐久間甚九郎ヲシテ居守セシム四月是ヨリ先
 キ秀吉信雄ト隙アリ因テ再ヒ本城ヲ攻ム甚九郎岐阜ニ逃走シテ城
 遂ニ廢ス勢陽軍記、背書
國誌九々五集

國府城址 國府村字長之城ニ在リ概子耕地トナリ周回竹木茂生ス壘濠
 ノ址尙存ス蓋シ往古國府所在ノ地ナラン元弘中關實治ノ二子盛門
 城ヲ築キ之ニ居ル國府氏ト稱ス或ハ云フ國府氏ヨリ先キ富田進士家
資ナルモノ初メ之ヲ築キシモ久シカ

セラズシテ爾シ國府氏其址ニ再築 歷世之ニ居ル八世盛邑永祿ノ末織田氏
 ニ屬ス子次郎四郎ニ至リテ天正十二年羽柴秀吉ノ兵峯城ヲ陥ル次郎
 四郎秀吉ニ降ルヲ欲セズ城ヲ棄テ、尾張ニ走ル或ハ云フ信雄ノ爲
 メニ美濃加賀井城一作竹ガ鼻ヲ守リ戰死スト背書國誌、三國地
誌、鈴鹿郡賦類聚

鹿伏兔城址 加太村字市場ニ在リ雜木繁茂ス山上壘濠ノ址尙存ス古
 井ニアリ大早ト雖モ涸レズ元弘中關實治ノ四子盛宗始メテ城ヲ築キ
 之ニ居リ鹿伏兔氏ト稱ス歷世相繼グ六世ノ孫六郎四郎盛氏、一ニ次四
郎耶、一作ル
 ニ至リテ織田信長ニ屬ス天正二年七月長島ノ乱ニ戰死ス信孝其領
 邑ヲ収メントス其族家長及ビ家臣坂隼人佐愁訴ス因テ采地ヲ減シ
 家長ノ男右馬助ヲ嗣トス文祿二年牢落シテ家絶ス或ハ云フ右馬助
 ハ關ガ原ノ役池田輝政ニ屬シテ戰死スト坂氏ノ子孫今尙本村ニ存
 セリ五鈴遺書
背書國誌

國司西城址 國府村字西ノ條ニ在リ今耕地トナリ舊形ヲ存セズ傳ヘ云フ往昔國司本村ニ居リシ時此ニ城ヲ築キテ土豪ノ來寇ニ備ヘシト近傍番場西ノ城戶市場等ノ字アリ

若菜城址 小野村字殿ノ内及ビ大堀ニ連ル今耕地藪地等トナレリ深壹丈幅三間長五拾間乃至百間ノ濠址ヲ存ス元久元年四月平氏ノ族若菜盛高之ニ居ル富田基度三浦盛時等ト平氏ノ餘黨ヲ糾集シ鈴鹿山ヲ扼シテ大ニ本州ヲ乱ル京都守護平賀朝雅大兵ヲ率キテ來リ擊ツ遂ニ誅セラレ城廢ス 東鑑五
餘遺傳

關新城址 新所村字城山ニ在リ今山林ヲリ松樹茂生ス天正中關盛信之ヲ築ク龜山ノ屬城ナリ 或ハ云フ關氏ノ始祖
實忠ノ時之ヲ築クト 十一年龜山城ノ役瀧川一益ニ屬ス羽柴秀吉ノ兵本城ヲ攻メテ之ヲ取り盛信ニ與ヘテ其隱居所トナス後關氏ノ封ヲ白河城ニ移スニ及ビテ廢ス土中往々古器

ヲ出スコトアリ 五餘遺傳
三國地誌

三日城址 木崎村字三日城ニ在リ今其遺址ヲ存セズ元文元年四月若菜盛高之ニ據リ富田基度三浦盛時等ト平氏ノ餘黨ヲ集メテ本州ヲ乱ル遂ニ平賀朝雅ノ攻ムル所トナリ城陥ル世呼ビテ三日平氏ト稱ス 行書國誌
五餘遺傳

按ズルニ勢陽軍記ニ天正十二年八月關盛信始メテ築ク其臣岩間七左衛門等ニ命ジテ關驛町屋ヲ割普請等成就云々ト記ス蓋シ此ノ舊址ニ築城セシカ

山本城址 山本村字瀬古垣内ニ在リ俗濱田殿ト稱ス今西岸寺ヲ眞ク往昔三重郡濱田氏ノ族村尾刑部大輔之ニ居ル其子彌七郎市平等天正十一年神戸信孝ニ從ヒ美濃ニ在リ羽柴氏ノ將筒井順慶虛ニ乘ジテ本城ヲ燒ク城遂ニ廢ス 行書國誌
九々五集

平田城址 平田村字御門垣内耕圃ノ中ニ在リ纒ニ樹木ヲ生ズ永享七年平田喜國足利氏ニ仕ヘ鈴鹿三重菴藝等數郡ヲ領シ本郡海善寺ニ城ヲ築キ歷世之ニ居ル五世直隣應仁中本村ニ城ヲ築キ移ル永祿十一年賢元ニ至リテ織田氏ニ服セズ敵兵來リ攻ム遂ニ自殺シテ城陷ル其子孫今本村ニ在リ平田氏 舊記

平野城址 平野村字門山ニ在リ周圍雜木生茂シ中央平坦ノ地ハ耕地タリ往昔伊東某城ヲ築キ之ニ居ル數世ノ後忠國貞治中土岐善忠ニ攻ラレ神戸ニ遁ル幾バクモナク歸城ス政吉ニ至リテ一作ニ祐吉天正九年神戸信孝ヲ神戸城ニ攻ム遂ニ戰死シテ城廢ス其子孫今本村ニ在リ背書國誌 本村舊記

原城址 原村字畑ヶ田ニ在リ今田圃トナリ纒ニ濠壘ノ址存ス天正中堀内帶刀之ニ居ル峯家ノ幕下タリ十一年瀧川儀太夫ニ與ミシ峯城

ニ據ル同城陷ルノ後本城又陷ル十二年岡本下野守宗ノ與カトナリ再ビ本城ニ居ル後詳ナラズ本村 舊記

津賀城址 津賀村字城使山ニ在リ今耕地ニ屬ス傳ヘ云フ弘治永祿ノ頃關盛信ノ將小林筑前守之ニ居ル天正十一年瀧川儀太夫ト共ニ峯城ニ據ル同城陷ルノ後本城又隨テ陷ル其子孫今本村ニ在リ背書國誌

小岐須城址 小岐須村字南條舊字 殿 垣内遍照寺境内ニ在リ平坦ニシテ周圍土壘ノ址存ス傳ヘ云フ永祿中關盛信ノ弟小岐須盛光關系圖、盛光ヲ載セズ暫ク疑フ事

之ニ居ル其子盛經織田氏ニ屬ス天正十二年六月羽柴秀吉ノ圍ヲ受ケ支ソルコト能ハズ士卒ト共ニ戰死シテ城廢ス盛光ノ墓ハ本村字寺垣内ニ在リ背書國誌 古老口傳

大久保城址 大野村字中瀬ニ在リ壘濠ノ址ヲ存ス大久保伊豆守城ヲ築キ之ニ居ル織田氏ニ屬ス天正中美濃岐阜ノ役戰死ス其子覺兵衛

權太夫アリ京極池田二家ニ仕フ伊豆守ノ墓ハ本村字一ノ井ニ在リ
背書國誌
古老口碑

東條城址 石藥師村字古里ニ在リ雜木茂生ス片岡則宗城ヲ築キ之ニ

居ル子則高其子則正相繼グ住ス織田氏ニ属ス天正八年羽柴秀吉神

戶城ヲ攻ムル時亡サル則高ノ墓ハ本村同字ニ在リ
背書國誌

白木城址 白木村字岡垣内ニ在リ今耕地タリ俗白木殿ト稱ス傳ヘ云

フ永亨ノ頃白木左近之ニ居リ關氏ニ属スト
五鈴遺蹟
背書國誌

阿濃田城址 阿野田村字上野垣内ニ在リ今山林及ビ耕地タリ往昔關

盛信ノ與力豐田越後守城ヲ築キ歷代之ニ居ル
五鈴遺蹟

平資盛宅址 久我村字白石谷ニ在リ嘉應二年正月平資盛禮ヲ大臣ニ

失スルニヨリ本村ニ流サル居ルコト六年ニシテ歸洛ス時ニ一子ア

リ盛國ト云フ即チ關氏ノ祖ナリ資盛ノ此ニ在ルヤ父重盛熊野海濱

ノ白石ヲ拾ヒ之ヲ贈リ其幽鬱ヲ慰ス後人此石ヲ祀リ白石明神ト號
ス勢國見
冊集

岡部忠澄宅址 甲斐村字城垣内ニアリ廣壹町餘今村人居住ス相傳フ

元暦元年西海ノ役平忠度ヲ獲ルノ功ヲ以テ莊園五箇所ヲ領ス蓋シ

本村其一ナラン今村人ニ忠澄ノ陣幕ヲ所持スルモノアリ其紋丸ノ

内ニ十万ノ字ヲ記スト云フ
三國地誌源平盛
衰記古老口碑

景清宅址 邊法寺村不動院ヨリ東南五町許ニ在リ高壹間ヨリ四五間

ニ至ル土堀ノ址ヲ存ス傳ヘテ平景清ノ宅址ト稱ス不動院寺記ニ云

フ景清ハ伊藤ニシテ本州ノ産ナリ世々官上總介トナリ平氏ニ属ス

平氏亡ブルノ後終ル所ヲ知ラズト

按ズルニ加藤景清ノ事本州ニ事蹟多シ蓋シ平景清ハ加藤景清ノ

謬傳ニハ非ザルカ暫ク疑ヲ記シテ後考ニ供ス

國司宅址 俗國司屋 國府村字貝下ニ在リ今三宅神社ノ境内ニ属シ樹木茂生ス傳ヘ云フ天智天皇ノ時三宅連石牀本州ノ國司トナリ之ニ居ル租稅ヲ收納スル屯倉モ亦此ニ在リシト 背書國誌 古老口碑

長者宅址 津賀村字仲井南野荒子矢下仲起長塚仲土居等ニ且ル今草木榛々トシテ瓦片處々ニ散在シ其遺址ヲ存ス傳ヘ云フ往昔鈴鹿王ノ宅址ナリト又云フ源義家奥州前九年ノ役此家ニ投宿セシコトアリト其據ル所ヲ詳ニセズ 背書國誌 五鈴遺傳

小野氏宅址 山下村字南鍋田ニ在リ今耕地中貳拾餘坪ノ地菱形ヲナシ雜木叢生ス本村永禪寺舊鬼簿ニ文安中小野正信應仁中俊信天文中光信等ヲ載ス蓋シ此ニ居リシカ又近傍古塚ニアリ經塚ト稱ス里人ノ説ニ云フ歌仙赤人嘗テ此ニ居リシト其據ル所ヲ知ラズ

山尾氏宅址 田村字與條ニ在リ小阜ニシテ周圍土壘濠址ヲ存ス峯氏

ノ與力山尾甲斐守之ニ居ル 一説ニ云フ山尾盛助享祿年間此ニ住ス後助左衛門家ニ仕フト 天正二年峯城陷ルノ時滅亡ス其子孫龜山城主石川氏ニ仕フ 五鈴遺傳 古老口碑

館址

源賴朝館址 今詳ナラズ三畑村ニ鷹塚ト稱スル處アリ蓋シ此邊ナラン傳ヘ云フ源賴朝上洛ノ時茶亭ヲ此ニ設ケテ鶴狩ノ器アリ此地往時安樂越街道ニ属ス殊ニ鶴狩ニ名アリシト 五九九集

關官亭址 石藥師村字開戸部ニ在リ今田圃アリ天正中徳川家康休駕ノ處ニシテ其後屢々停駕アリシト云フ寛永中廢ス 三國地誌

關氏別館址 羽黒山ノ麓ニ在リ方壹町許ノ平地ニシテ今耕地山林タリ關氏中世某別莊ヲ此ニ設ケ以テ優遊ノ處トナス 五九九集

關址

鈴鹿關址 本邦三關ノ一ナリ 近江逢坂關 木崎村字關臺ニ在リ今舊址ヲ越前愛知關

存セズ大化二年始メテ關墨防人ヲ置ク蓋シ此時建設セシナラン
續日本紀寶龜十一年四月鈴鹿關西内城太鼓一鳴天應元年三月鈴鹿關西中城門太鼓自鳴三聲云々ト記ス其西中城門等アリシヲ以テ之ヲ見レバ往古關舎ノ制洪大ナルコト想 延曆八年七月之ヲ停廢ス 續日本紀 十三年再ビ之ヲ復シ
ヒ見ルベシト 元亨元年又之ヲ停廢ス 太平記 其後廢置一ナラズ且其所在地モ數々改
 移セシナルベシ今新所村ノ地ニ地藏院ト稱スル一寺アリ九關山ト
 號ス往昔關ヲ遷移スル九回ニ及ビシヨリ山號トナスト云フ永祿十
 二年十一月織田信長本州ヲ平治シ上洛ノ時之ヲ廢シ往來ヲ便ニス
 後又之ヲ置カズ
 按ズルニ往昔關塞ヲ置クハ國界ニ置クヲ例トナス今坂下村ニ番
 小屋ガ平ト稱スル地アリ是緣故アルニ似タリ蓋シ本村ノ地ヨリ
 漸次遷移シテ今ノ關址ニ置キシモノナラン
 天文十一年大神宮千首
 右衛門督

をさまれる君り御代をも守るてふ

鈴鹿の關や名も知る哉

新拾遺 荒木田氏忠

ふと捨て誰りの越えんすいか山

關屋の夜半の月守とあり

古墳

日本武尊陵 一ニ玉塚又丁田子塚ト云フ

村字女ガ坂ニ在リ高武間餘

面積三千六百六拾坪周回

百八拾四間松樹森鬱タリ

尊ノ事史傳ニ詳ナリ此地

古來尊ノ陵ト稱シ來リシ

日本武尊陵ノ圖



が明治十二年十一月内務省之ヲ査檢シ定メテ陵所トナス爾來大ニ
修補ヲ加ヘ有志者金帛ヲ獻ジテ之ヲ助ク官亦守部二員ヲ置キ之ヲ
守護セシム

白鳥陵 又茶臼山丸山鶴塚
經塚等ノ俗稱アリ

高宮石薬師上野上田四村ノ共有地ニ在リ椎

山ニ接續シ一丘陵ヲナス高拾八間東西貳拾五間南ニ面シ草木茂生

ス里人傳ヘテ日本武尊ノ陵ト稱ス古事記傳三國地誌五鈴遺響及ビ

谷川士清皆此ヲ以テ尊ノ陵ト認ム古老云フ往昔此塚ヨリ曲玉及ビ埴

輪、瓊壺等ヲ堀出セシコトアリト近傍ニ王子田寶冠塚御所垣内等ノ

字アリ共ニ尊ノ事跡ヲ傳フ此地明治五年教部省之ヲ檢査シテ尊ノ

御陵ト定メラレシニ同十二年田村ニ改定アリタリ

武備塚 一ニ武日
ニ作ル

長澤村ニ子塚ノ北方ニ在リ高三間周回凡ソ四拾間古

老傳ヘ云フ日本武尊ヲ此ニ葬ルト舊幕府ノ時此ヲ以テ尊ノ陵ト定

ム然レモ昔書國誌三國地誌五鈴遺響共ニ尊東征ノ時ニ從ヒシ大伴
武日連ノ墓地ナリト記ス其説是ナルニ似タリ

二兒塚 一名日
穴

長澤村ノ北方字能褒野ニ在リ面積三拾一坪傍ニ穴アリ深

幅共ニ二間許大石ヲ以テ之ヲ疊ム傳ヘテ日本武尊ノ陵トナス尊雙兒タ

リ大確命
小確命故ニ此名アリ又塚ノ東西ニ守戸ノ宅址アリ石垣今ニ存セリ

王塚 國府村ノ西方字西ノ野ニ在リ鈴鹿川ノ東岸ニ位ス面積貳千六

百廿五坪高凡ソ貳丈許南北ニ長ク北ハ高クシテ南ハ稍低シ周圍土

居及ビ溝ノ址ヲ存シ老松雜樹鬱葱林ヲ爲ス里人傳ヘテ日本武尊ノ

陵トナス

按ズルニ日本紀日本書紀共ニ尊ノ薨所ヲ明記セズ寛平熱田縁記
ニ渡ニ鈴鹿河中瀬、忽隨ニ逝水謂別也時年三十、仍號ニ其瀬、日ニ能知瀬能知者命
謂也、今改爲ニ長瀬、訛也云々トアリ本村古、長瀬郷ノ地ニシテ隣村菅

内村ニ長瀬神社アリ而シテ又鈴鹿川ニ沿ヘリ此地或ハ其墓所ニハ非ルカ暫ク疑テ記ス

南平家塚、北平家塚 大岡寺村字野田日耕圃中ニ在リ二塚對立雜木繁茂ス何人ノ墓ナルヲ知ラズ或ハ云フ往昔關氏ノ黨義ヲ守リ自殺スルモノアリ因テ此ニ葬ルト又云フ伊勢義盛鈴鹿山ニ戰死ス乃チ其靈ヲ祀リシナリト今、小祠ヲ建ツ南ヲ宇氣比社北ヲ平家社ト云フ香花ヲ供スルモノ多シ 鈴鹿郡賦五鈴遺標

姫塚 原村字石龜ノ林中ニ在リ方凡ソ五間丘阜ノ状ヲナス雜樹之ニ生ズ里人傳ヘ云フ文明元年後花園院ノ皇女宮内親王京師ノ乱ヲ避ケテ此地ニ來リ明應九年八月本村金光寺ニ薨ズ因テ此ニ葬ル安禪寺寂光ト謚スト

岡部忠澄 六彌墓 甲斐村字藤ヶ森ニ在リ面積拾六坪墓木ヲ立テ標トナ

ス 忠澄ノ墓今、武藏國根澤郡普濟寺村普濟寺境内ニ在ス此レ或ハ是ナラン 元暦元年西海ノ役平忠度 薩原ヲ

獲ルノ功ヲ以テ此地ヲ領シ居ル卒スルニ及ビテ此ニ葬ル村人毎歲七月相會シテ之ヲ祭ル 三國地誌勢國見開集古老口碑

源繼白墓 石藥師驛ノ上方ニ在リ俗、蒲殿塚又御曾子塚ト云フ繼白ハ源範賴ノ子叔父讚岐法印繼季ノ養子トナル承久三年罪アリテ員辨郡ヘ流サレ後、此地ニ住シテ没スト云フ 三國地誌

關宗一墓 關木崎町瑞光寺ニ在リ 五九集 今、墓石詳ナラズ同寺過去帳ニ文祿二年六月廿八日清徳院殿天翁宗一居士關万鐵公ト記ス

關一政室墓 新所村字西町ニ在リ墓碑高五尺臺石二層本源宗天産室ノ六字ヲ刻ス俗、御新造塚ト云フ神戸氏ノ女ナリ一政ニ嫁ス碑ハ關氏ノ臣羽若新左衛門ノ建ツル所タリ 五鈴遺標

八百比丘尼塚 本郡ニ二處アリ一ハ國府村ヨリ平野村ニ至ル山路ノ

左傍ニ在リ圓形ニシテ頂上石ヲ建テ標トナス一ハ木崎村字町南ニ在リ亦圓形ヲナス國府村ニ在ルモノ蓋シ是ナルニ近シ傳ヘ云フ往昔若狹國ニ一女婦アリ年齒八百容貌艶美少年ノ如シ因テ八百比丘尼ト稱ス若狹ノ國名此ニ起因スト云フ伊勢宗廟ニ詣テ路ニシテ此ニ終ル是レ其墓所ナリト里人其子ノ爲メニ壽ヲ祈ルモノ陸續絶エズ或ハ云フ往時武藏國足立郡水波田村慈眼寺ニ王門前ニ榎樹アリ圍武丈餘傳ヘテ尼ノ植ウル所トナス偶々土中石櫃ヲ得タリ八百比丘尼大化元年月日ノ文字ヲ刻ス中ニ地藏佛一軀ヲ納ム今之ヲ本寺ニ藏スト事ハ寛保中東都菊岡米山作ル所ノ里人談ニ出ツ蓋シ尼諸國ヲ經歷シ終ニ此地ニ至リテ死セシモノカ倭漢三才圖會若狹風土記五鈴遺釋古老口破

座頭墓 平野村字上小澤官林中ニ在リ傳ヘ云フ元和四年五月官事ノ爲メ陸奥ヨリ京ニ至ル替者四人アリ各々官金ヲ携フ路宗廟ニ謁セ

ントシ本村ニ到ル會々賊アリ之ヲ殺シ其金ヲ奪フ京師總校之ヲ奉行ニ訴フ募ルニ黄金三拾枚ヲ以テシテ賊ヲ索ム村人其死ヲ愍ミ爲メニ此ニ埋ムト又此處往昔金掛松ト稱スル一樹アリ今其跡詳ナラズ五鈴遺釋

椀久塚 阿野田村字牛落ニ在リ傳ヘ云フ往昔富農椀屋久兵衛ナルモノアリ椀盆ヲ製造シテ他方ニ輸出ス又多ク牛ヲ畜ヒ其器物及ビ五穀運搬ノ用ニ供ス此地山路險峻ニシテ通行甚艱メリ久兵衛之ヲ愛ヒ資ヲ棄テ開キテ平坦ナラシム稱シテ牛オロシ坂ト云フ後久兵衛家絶ス後人此ニ塚ヲ築キ之ヲ表ス村人客ヲ饗スルニ膳椀ヲ貯エザルモノ此ニ祈リ翌日往テ見レハ必ズ塚上ニ備ハアリ之ヲ還附スレバ忽チ其所有ヲ見ズト云フ妄誕笑フ可シ

三重郡

山川

岡山 東阿倉川村ノ東南ニ在ル小阜ナリ俗殿様山ト云フ松樹踳踳ノ類多ク眺望頗ル佳ナリ内海ヲ隔テ參尾ノ諸山及ヒ志摩ノ島嶼雲煙ノ中ニ出沒ス此地舊幕臣加納氏ノ采邑タリ今民有地トナレリ

杖突坂 采女村ニアリ官道ニ属ス傳ヘ云フ倭武尊東征ノ時桑名郡尾津村ヨリ能褒野ニ到ルノ時劔ヲ杖ツキ此坂ヲ踰エ玉フ故ニ名ヅク側ニ血塚アリ尊ノ足ヨリ出デシ血ヲ封ゼシ處ナリト云フ

杖突坂碑の句

芭蕉

あちならひつゑはきさりを落馬のぬ

三重川 今三瀧川ト云フ又三重河 菟野村御所在ガ嶽鎌ガ嶽等ヨリ發シ東流四日市ノ北ヲ經テ海ニ入ル

万葉

伊保磨

三乃瀨 吾壘三重乃河原乃磯乃浦爾如是鴨跡鳴河蝦可物 菟野村字三ノ瀨ニ在リ冠ガ嶽御在所ガ嶽等ニ接スル溪流ニ

シテ三重川ニ注グ山中踳踳多シ花時斷崖絶壁ノ間恰モ紫雲ノ簇ルガ如シ

紅葉堤 前堤一名 菟野村字中里ニ在リ金谷村ニ沿フ楓櫻交錯シ春秋ノ景

尤モ賞スベシ菟野領主土方氏ノ栽植スル所タリ

思案橋址 四日市濱町ト藏町トノ間ニ在リ傳ヘ云フ明智光秀ノ信長ヲ弑スルヤ徳川家康和泉堺ヨリ潛ニ此地ニ至リ將ニ參河ニ渡航セントス偶々橋邊ニ踳躄セリ故ニ名ヅクト當時長拾四間餘ノ橋ヲ架セシガ今地形變ジテ長六間許ノ樋管ヲ通ジ惡水ノ疏通ニ供セリ

古老口碑

天白板橋 日永村字天白東及ヒ字中瀬古ニ亘ル天白川ニ架シ國道ニ

属ス長拾間幅貳間今在ルモノ明治十九年ノ架設ニ係ル

夫木

西行

あつさ弓春の日永の水此面より月すゑ渡る天白のはし

邑里

日永村 東海道ニ属ス神鳳抄載スル所岡本御厨、日長御園、長田御園ノ

地ナリ此地多ク團扇ヲ製シテ販賣ス俗、日永團扇ト稱ス五領

古屋草紙

西行

きのお立けふち見れと日長なる洲崎よ見ゆる松のむら立

濱田村 東海道ニ属ス舊ト濱村ト稱ス五領

夫木

鴨長明

行むひぬいさ濱村よ立よらん朝明過ては日永なりけり

神祠

諏訪神社 四日市、濱田村ノ間ニ在リ建御名方命、事代主命ヲ祀ル建仁

二年創建ス社ニ赤堀美作守所持ノ兜、太刀今ニ存スト云フ祭日八月

廿六日廿七日世ニ四日市祭ト稱シ諸民群集股賑ヲ極ム社記、五

廣幡神社 菟野村字廣幡ニ在リ應神天皇、建御名方命、事代主命ヲ合祀

ス寛永七年領主土方雄氏之ヲ勸請シテ領内ノ鎮守トナス元ト八幡

シガ後、今稱ニ改ム祭日八月十五日社記

鮎良川神社 東阿倉川ニ在リ須佐之男神ヲ祀ル舊稱牛頭天王舊領主加納氏之

ヲ崇敬ス祭日七月十一日例歳獅子神樂ヲ奏ス

梵刹

観音寺 六呂見村ニ在リ浄土宗智恩院末ナリ天平九年八月勅命ニヨ

リ僧某之ヲ本郡日永村ニ開基シ堂宇ヲ創建ス天台宗ナリ後、浄土宗

ニ改メ今ノ地ニ移ス天文十二年勅シテ寺領及ビ慈覺大師具筆ノ大

般若經今尙一卷ヲ寄附セラレ祈願所トナル正親町院、後陽成院亦祈願所トス永祿ノ頃寺領亂賊ノ爲メニ押領セラレシニヨリ之ヲ大内ニ訴フ織田信長勅ヲ奉シ舊領ヲ復セシム後、寺領ヲ沒セラル慶長十年徳川家康桑名ニ宿ス寺僧伺候ノ人ニ依リ寺門ノ衰頽ヲ哀訴ス則チ舊地ヲ改メテ亦寺領ヲ寄附ス今、檀徒千五拾戸アリ寺記

禪林寺 下鶴川原村ニ在リ臨濟宗妙心寺末ナリ天智天皇五年厩戸皇子遺願ニヨリ藤原鎌足之ヲ造營シ大強原山廬遮那寺ト號シ天台宗ノ大伽藍タリ應仁ノ兵亂ニ燒失セシヲ文龜三年千種治庸堂宇ヲ再建ス永正中改メテ今ノ號トナシ境内四町四方并ニ寺領ヲ寄附シ臨濟宗ニ轉ス弘治二年千種氏斷絶スルニ及ビテ寺領ヲ失ス

遍照院 東坂部村ニ在リ眞言宗仁和寺末ナリ推古天皇ノ時刑部造ノ創建ニシテ天平八年僧行基來リテ佛像ヲ刻ス延曆弘仁ノ間僧空海

來リ住ス元久元年萩原政氏小太ノ菩提所トナル天正中僧秀覺堂宇ヲ再建ス之ヲ中興開山トナス寺記

光運寺 四日市上新町ニ在リ淨土宗知恩院末ナリ正安中僧明觀創立ス元ト三重山東源院尊乘寺ト號シ眞言宗ナリ應仁ノ頃兵火ニカ、リ堂宇燒失シ漸ク衰廢セシガ後、僧源譽之ヲ中興ス慶長中今宗ニ改ム尋テ寺號ヲ改メテ三重山大智院光運寺ト稱ス寺記

僧眞惠庵址 北小松村字中山ニ在リ高五尺許ノ碑ヲ建テ眞惠上人舊跡ト刻ス寛正中僧眞惠朝明郡大矢知村ニ光明寺ヲ建テシガ布教ニ不便ナルヲ以テ此ニ移シ月見山中山寺ト稱ス後、鈴鹿郡南小松村ニ移ス

安國寺址 西日野村字里中ニ在リ今概子耕宅地トナリ僅ニ六拾坪許ノ舊址ヲ存シ中央ニ五位鳥山塔頭ノ一院ト刻セル石碑ヲ建ツ寺傳ニ云